

# 令和6年度事業報告書



アルベルト・カルベンティール宗教画ギャラリー所蔵  
「聖ドミニコの生涯 №.018 ドミニコの祈り」



学校  
法人 聖カタリナ学園

# 目 次

---

I.はじめに	1
II.法人の概要	2
1.名称	
2.所在地	
3.認可年月日	
4.理事長	
5.設置する学校・学部・学科等(令和6年5月1日現在)	
6.建学の精神	
7.法人の目的	
8.法人の沿革	
9.役員・評議員の概要(令和7年3月31日現在)	
10.教職員の概要(令和6年5月1日現在)	
11.設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生等数の状況(令和6年5月日現在)	
III.事業の概要	8
1.学園ガバナンスの充実・強化他	
2.設置校別 事業の概要	
IV.財務の概要	47
(1)令和6年度決算概要	
(2)令和6年度事業活動収支決算概要	
V.当期に行った主な事業	49
(1)固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)	
(2)教育研究経費の主な事業実績	
(3)管理経費の主な事業実績	
VI.計算書類	50
(1)資金収支計算書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)	
(2)活動区分資金収支計算書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)	
(3)事業活動収支計算書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)	
(4)貸借対照表(令和7年3月31日現在)	
VII.財務状況経年推移	54
1.資金収支計算書(2020年度～2024年度)	
2.活動区分資金収支計算書(2020年度～2024年度)	
3.事業活動収支計算書(2020年度～2024年度)	
4.貸借対照表(2020年度～2024年度)	
5.財務比率表(2020年度～2024年度)	

【参考】学校法人会計基準について

---

## I. はじめに

---

学校法人聖カタリナ学園は、2025（令和7）年に創立100周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり本学園を支えてくださった皆様の温かいご支援とご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本学園の歩みは、1925（大正14）年、スペインより来日されたドミニコ会の宣教師と聖ドミニコ宣教修道女会のシスターの尽力により、愛媛県松山市にカトリックミッションスクールとして開設された松山美善女学校（現 聖カタリナ学園高等学校）に始まります。以来100年にわたり、時代の要請に応じた教育の提供に努め、現在では大学院・大学・高等学校（3校）・幼稚園（5園）を擁する、11の教育施設から成る総合学園へと発展してまいりました。

創立以来、私たちが一貫して大切にしてきたのは、「建学の精神」に基づいた教育理念の実践です。これらの理念は、時代の変化の中にあっても決して色あせることなく、脈々と今日まで受け継がれてきました。

ローマ教皇庁教育省（現 文化教育省）は、指針『カトリック学校のアイデンティティ—対話の文化をはぐくむために』（2022年1月25日）において、「カトリック学校はアイデンティティを明確にしつつ、異なる背景や信念を持つ人々と真摯に対話し、共に歩むことが求められている」と示しています。私たちもまた、多様な価値観が共存する現代社会において、神と隣人を愛する心を育みながら、一人ひとりが自らの可能性を最大限に發揮し、持続可能で調和のとれた社会の創造に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

ここに、本年度の事業報告書をお届けいたします。次なる100年に向けて、皆様とともに歩みを進めながら、質の高い教育の実現を目指してまいります。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年5月

学校法人聖カタリナ学園

理事長 中田 婦美子

## II. 法人の概要

1. 名 称 学校法人聖カタリナ学園 (St. Catherine Educational Institution)

2. 所 在 地 愛媛県松山市北条660番地

3. 認 可 年 月 日 1951年(昭和26年)3月8日

4. 理 事 長 中田 婦美子

### 5. 設置する学校・学部・学科等

(令和6年5月1日現在)

NO	学 校 名	学(校・園)長名	設置認可年月日	所 在 地	男女別
1	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 ・社会福祉学科 ・人間社会学科 ・健康スポーツ学科 ・看護学科(2-4年) 看護学部 ・看護学科(1年)	坂原 明	S62年12月23日	[北条キャンパス] 愛媛県松山市北条 [松山市駅キャンパス] 愛媛県松山市永代町	共学校
	聖カタリナ大学大学院 ・看護学研究科看護学専攻			[松山市駅キャンパス] 愛媛県松山市永代町	
2	聖カタリナ大学短期大学部 ・保育学科	坂原 明	S41年1月25日	愛媛県松山市北条	共学校
3	聖カタリナ学園高等学校 ・普通科 ・総合学科 ・看護科 ・看護専攻科	近藤 実	T13年9月30日 (1924年9月30日)	愛媛県松山市藤原町	共学校
4	京都聖カタリナ高等学校 ・普通科 ・看護科 ・看護専攻科	後藤 直樹	S26年10月17日	京都府南丹市園部町	共学校
5	光ヶ丘女子高等学校 ・普通科 ・国際教養科	小林 三佐子	S38年3月20日	愛知県岡崎市大西町	女子校
6	聖マリア幼稚園	梅木 信子	S26年3月8日	愛媛県新居浜市繁本町	共学校
7	聖家族幼稚園	江川 由美子	S29年3月20日	京都府南丹市園部町	共学校
8	聖カタリナ幼稚園	星野 香里	S38年3月20日	愛知県岡崎市大西町	共学校
9	ロザリオ幼稚園	田口 裕子	S40年3月15日	愛媛県松山市室町	共学校
10	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	田口 裕子	S46年3月26日	愛媛県松山市北条	共学校

## 6. 建学の精神

本学は、聖ドミニコ宣教修道女会の設立によるもので、キリスト教の世界観、修道会の創立者聖ドミニコの「真理を観想し、観想の実を他に与える」という精神、そして、聖ドミニコの精神に従って生きたシェナの聖カタリナの模範と教訓を土台として、「建学の精神」を次のように定めている。

1. 本学は、キリスト教的世界観と教育理念に基づいて、世界の平和と人類の共通善を促進する人間の教育を目的とする。
2. 本学は、創立者聖ドミニコの強調した「真理の探求」を通して、普遍的な価値観と高い徳性を有する人間を育成する。
3. 本学は、保護者シェナの聖カタリナの精神と学識に従事し、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

## 7. 法人の目的

学校法人聖カタリナ学園は、カトリック教の精神を奉じ、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成することを目的としている。

## 8. 法人の沿革

1924	(大正 13)年	9月	松山美善女学校設置認可(聖ドミニコ宣教修道女会)
1942	(昭和 17)年	1月	財団法人松山女子商業学校と改称
1948	(昭和 23)年	4月	松山女子商業高等学校と改称(商業科)、新制中学校併設
1951	(昭和 26)年	3月	学校法人聖カタリナ学園に改組
1951	(昭和 26)年	4月	聖マリア幼稚園(愛媛県新居浜市)を学園に包括
1951	(昭和 26)年	10月	学校法人清香学園菊花女子高等学校を吸収合併、聖家族女子高等学校設置(家庭科)(京都府船井郡園部町)
1952	(昭和 27)年	4月	聖家族女子高等学校に普通科増設
1954	(昭和 29)年	4月	聖家族幼稚園設置(京都府船井郡園部町)
1963	(昭和 38)年	4月	光ヶ丘女子高等学校設置(普通科)(愛知県岡崎市)、聖カタリナ幼稚園設置(愛知県岡崎市)
1965	(昭和 40)年	4月	学校法人拓川学園拓川幼稚園を吸収合併 ロザリオ幼稚園と改称(愛媛県松山市)
1965	(昭和 40)年	4月	聖カタリナ幼稚園教員養成所設置(愛媛県松山市)、昭和 42 年 3 月、同養成所廃止
1966	(昭和 41)年	1月	文部大臣所轄の法人となる聖カタリナ女子短期大学設置(幼児教育科、食物科)
1966	(昭和 41)年	4月	聖カタリナ女子短期大学開学、幼児教育科、食物科(愛媛県北条市)
1966	(昭和 41)年	4月	松山女子商業高等学校に普通科増設
1967	(昭和 42)年	4月	松山女子商業高等学校に衛生看護科増設
1968	(昭和 43)年	4月	聖カタリナ女子短期大学に音楽科増設(入学定員 50 名)、幼児教育科を児童教育科に名称変更
1968	(昭和 43)年	4月	松山女子商業高等学校を聖カタリナ女子高等学校と改称、併設中学校閉校
1970	(昭和 45)年	4月	聖カタリナ女子高等学校に衛生看護専攻科(2 年制)設置
1971	(昭和 46)年	4月	聖カタリナ女子短期大学児童教育科を児童教育学科、食物科を食物学科に改称、児童教育学科(50 名)を初等教育学専攻(50 名)、幼児教育学専攻(50 名)に分離し、入学定員変更
1971	(昭和 46)年	4月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園設置
1976	(昭和 51)年	4月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の入学定員を変更(50 名 → 100 名)
1977	(昭和 52)年	4月	聖カタリナ女子短期大学に専攻科音楽専攻(1 年制)設置
1980	(昭和 55)年	4月	聖家族女子高等学校に衛生看護科設置
1983	(昭和 58)年	3月	聖家族女子高等学校家庭科廃止
1987	(昭和 62)年	12月	聖カタリナ女子大学設置(入学定員 100 名)
1988	(昭和 63)年	4月	聖カタリナ女子大学(社会福祉学部社会福祉学科)開学
1990	(平成 2)年	4月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科の専攻(初等教育学専攻、幼児教育学専攻)を廃止し、幼児教育学科に名称変更
1990	(平成 2)年	4月	法人の主たる事務所を愛媛県北条市北条 660 番地に変更
1994	(平成 6)年	4月	聖カタリナ女子短期大学食物学科を食物栄養学科に名称変更及び入学定員変更(150 名 → 90 名)
1994	(平成 6)年	4月	聖カタリナ女子大学入学定員変更(100 名 → 160 名)

1995	(平成 7)年	3月	聖カタリナ女子短期大学食物学科廃止
1995	(平成 7)年	4月	聖カタリナ女子大学キリスト教研究所及び人間文化研究所設置
1996	(平成 8)年	4月	聖家族女子高等学校普通科入学定員変更(90名→80名)
1997	(平成 9)年	4月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科編入学定員設定(3年次 10名)
1999	(平成 11)年	4月	聖家族女子高等学校に衛生看護専攻科(2年制)設置(入学定員 40名)
2000	(平成 12)年	4月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科を社会福祉専攻(入学定員 140名)と介護福祉専攻(入学定員 20名)に専攻分離
2000	(平成 12)年	4月	聖カタリナ女子短期大学食物栄養学科を健康栄養学科に名称変更し、食物栄養専攻(50名)と食物健康専攻(40名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4月	聖家族女子高等学校を京都聖カタリナ女子高等学校と改称
2001	(平成 13)年	4月	聖カタリナ女子短期大学に幼児教育学科及び音楽科を統合改組して保育学科を設置し、乳幼児教育専攻(100名)と音楽専攻(50名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4月	聖カタリナ女子短期大学専攻科音楽専攻廃止
2002	(平成 14)年	4月	聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を看護科(入学定員 80名)に名称変更し、5年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4月	京都聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を高等看護科(入学定員 40名)に名称変更し、5年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4月	聖カタリナ女子短期大学音楽科廃止
2003	(平成 15)年	9月	聖カタリナ女子短期大学幼児教育学科廃止
2004	(平成 16)年	4月	聖カタリナ女子大学を男女共学とし、聖カタリナ大学に名称変更 聖カタリナ大学社会福祉学部に福祉経営学科(入学定員 100名、3年次編入学定員 10名)を設置し、社会福祉学科社会福祉専攻の入学定員変更(140名→100名)
2004	(平成 16)年	4月	聖カタリナ女子短期大学を男女共学とし、聖カタリナ大学短期大学部に名称変更 聖カタリナ大学短期大学部保育学科及び健康栄養学科の各専攻(乳幼児教育専攻、音楽専攻、食物栄養専攻、食物健康専攻)を廃止し、入学定員変更(保育学科: 150名→100名、健康栄養学科 90名→50名)
2004	(平成 16)年	4月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園を聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
2005	(平成 17)年	1月	市の合併により、法人の主たる事務所の住所表記を愛媛県松山市北条 660 番地に変更
2005	(平成 17)年	4月	京都聖カタリナ女子高等学校に福祉科(入学定員 40名)を設置し、普通科の入学定員変更(80名→40名) 高等看護科を看護科に名称変更
2006	(平成 18)年	1月	町の合併により、法人の従たる事務所の住所表記を変更 京都府船井郡園部町美園町一号 78番地 → 京都府南丹市園部町美園町一号 78番地
2006	(平成 18)年	4月	京都聖カタリナ女子高等学校の福祉科を男女共学とし、京都聖カタリナ高等学校に名称変更
2007	(平成 19)年	4月	京都聖カタリナ高等学校の看護科を男女共学化
2008	(平成 20)年	4月	聖カタリナ大学に人間健康福祉学部を設置し、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 100名、編入学定員 10名)、介護福祉専攻(入学定員 20名)]と健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 100名、編入学定員 10名)を設置(これに伴い、社会福祉学部は在学生の卒業を待って廃止)
2008	(平成 20)年	4月	京都聖カタリナ高等学校の普通科にコース制(フードカルチャーコース、マルチメディアコース、キッズライフコース)を導入し、男女共学化
2008	(平成 20)年	4月	光ヶ丘女子高等学校の普通科から国際コースを分離し、国際教養科(入学定員 120名)設置(これに伴い、普通科の入学定員 195名に変更)
2009	(平成 21)年	4月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科の学生募集を停止
2010	(平成 22)年	4月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科廃止
2011	(平成 23)年	4月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に人間社会学科(入学定員 50名)を設置(これに伴い、人間健康福祉学部の入学定員を 210名に変更)
2012	(平成 24)年	4月	聖カタリナ女子高等学校に総合学科(入学定員 450名)を設置し、商業科の学生募集を停止
2012	(平成 24)年	9月	聖カタリナ大学社会福祉学部廃止
2013	(平成 25)年	4月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部の入学定員を、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 60名、編入学定員 8名)、介護福祉専攻(入学定員 20名)]、健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 60名、編入学定員 8名)、人間社会学科(入学定員 50名、編入学定員 4名)に変更

2014	(平成 26)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科の学生募集を停止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部に健康スポーツ学科(入学定員 60 名)を設置 聖カタリナ女子高等学校商業科廃止
2016	(平成 28)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校の普通科及び総合学科を男女共学とし、聖カタリナ学園高等学校に名称変更。同校の普通科及び総合学科の入学定員変更(普通科 200 名、総合学科 300 名) 京都聖カタリナ高等学校の看護科の入学定員を 64 名に変更し、福祉科の生徒募集を停止
2017	(平成 29)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に看護学科[入学定員 80 名]を設置(平成 28 年 8 月 31 日認可)し、入学定員を社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 50 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]に変更
2018	(平成 30)年	4 月 9 月	京都聖カタリナ高等学校の福祉科を廃止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科を廃止
2020	(令和 2)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科の入学定員を、社会福祉専攻(入学定員 40 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)に変更
2021	(令和 3)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科の専攻を廃止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部の編入学定員を社会福祉学科(8 名→2 名)、人間社会学科(4 名→2 名)、健康スポーツ学科(4 名→2 名)に変更 聖カタリナ学園高等学校の看護科を男女共学化 ロザリオ幼稚園及び聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2022	(令和 4)年	4 月	聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻[入学定員 5 名・収容定員 10 名]を設置(令和 3 年 8 月 27 日認可) 聖カタリナ大学短期大学部保育学科の入学定員を 80 名に変更
2023	(令和 5)年	4 月	聖マリア幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2024	(令和 6)年	4 月	聖カタリナ大学看護学部看護学科を設置[入学定員 80 名・収容定員 320 名] 聖カタリナ幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2025	(令和 7)年	4 月	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部を健康社会学部に名称変更し、現代人間学科[入学定員 140 名]を設置 聖カタリナ大学短期大学部保育学科の入学定員を、50 名に変更 聖カタリナ学園高等学校 総合学科を普通科(募集定員 480 名)に統合し、普通科・看護科の 2 科構成に変更

## 9. 役員・評議員の概要

### (1) 役員・評議員一覧

[理事](令和 7 年 3 月 31 日現在)

定員 9 人・現員 9 人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
理事長	中田 婦美子	平成 元 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園理事長
	池田 愛子	令和 3 年 8 月 5 日	非常勤	宗教法人代表役員
	坂原 明	令和 5 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学学長
財務理事	石井 亮	令和 7 年 3 月 31 日	常勤	聖カタリナ学園法人事務局長
	近藤 実	令和 4 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園高等学校校長
	竹田 信恵	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学短期大学部教授
	小林 三佐子	平成 26 年 4 月 1 日	常勤	光ヶ丘女子高等学校校長
	小池 振一郎	平成 31 年 4 月 1 日	非常勤	弁護士
	谷水 恭子	令和 3 年 4 月 1 日	非常勤	会社員(執行役員)

[監事](令和 6 年 4 月 1 日現在)

定員 2 人・現員 2 人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
主任監事	森本 三義	平成 30 年 4 月 1 日	非常勤	学校法人役員
	則久 秀行	平成 23 年 4 月 1 日	非常勤	会社役員

[評議員](令和 7 年 3 月 31 日現在)

定員 19 人・現員 19 人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
評議員	坂原 明	平成 29 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学学長
	近藤 実	令和 3 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園高等学校校長
	後藤 直樹	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	京都聖カタリナ高等学校校長
	小林 三佐子	平成 26 年 4 月 1 日	常勤	光ヶ丘女子高等学校校長
	田口 裕子	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	ロザリオ幼稚園園長
	西田 佳世	令和 4 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学教授
	亀田 京子	平成 14 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園高等学校顧問
	竹田 信恵	令和 2 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学短期大学部教授
	野村 美千江	令和 7 年 3 月 31 日	常勤	聖カタリナ大学教授
	宮武 信枝	平成 18 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学教授
	石井 亮	令和 5 年 4 月 21 日	常勤	聖カタリナ学園法人事務局長
	越智 稔拡	令和 2 年 4 月 1 日	非常勤	会社員
	西川 重子	令和 3 年 4 月 1 日	非常勤	公務員
	篠原 潤子	令和 5 年 4 月 21 日	非常勤	
	中田 婦美子	昭和 63 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園理事長
	小池 振一郎	平成 12 年 11 月 25 日	非常勤	弁護士
	中西 義則	平成 24 年 4 月 1 日	非常勤	会社役員(代表取締役)
	池田 愛子	令和 3 年 9 月 1 日	非常勤	宗教法人代表役員
	谷水 恒子	令和 3 年 4 月 1 日	非常勤	会社員(執行役員)

(2) 役員の責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況(令和 6 年 7 月 1 日現在)

項目	状況
責任免除	学校法人聖カタリナ学園寄附行為第 40 条に規定
責任限定契約	学校法人聖カタリナ学園寄附行為第 41 条に規定 [契約締結者]以下の非業務執行理事 3 名及び監事 2 名 ・理事(非常勤) 池田 愛子、小池 振一郎、谷水 恒子 ・監事(非常勤) 森本 三義、則久 秀行
補償契約	設定していない
役員賠償責任保険契約	私立学校法に従い、理事会決議(令和 6 年 5 月 25 日)により令和 6 年 7 月 1 日から私短協「学校法人向け役員賠償責任保険」に加入した(保険期間:令和 6 年 7 月 1 日から令和 7 年 7 月 1 日)。 [保険概要] ・団体契約者 日本私立短期大学協会 ・引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社 ・被保険者 記名法人:学校法人聖カタリナ学園 個人被保険者:理事 監事 評議員 ・補償内容 記名法人に関する補償 法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等 個人被保険者に関する補償 法律上の損害賠償金、訴訟費用等 ・支払対象とならない主な事由 法律違反に起因する対象事由等 ・保険期間中支払限度額 1億円

## 10. 教職員の概要

(令和6年5月1日現在・単位:人)

学校の名称	教員		職員		合計	
	専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤
法人本部事務局	—	—	6	1	6	1
聖カタリナ大学	60	106	28	39	88	145
聖カタリナ大学短期大学部	11	14	7	7	18	21
聖カタリナ学園高等学校	67	71	12	19	79	90
京都聖カタリナ高等学校	24	26	3	9	27	35
光ヶ丘女子高等学校	60	24	6	16	66	40
聖マリア幼稚園	10	4	0	5	10	9
聖家族幼稚園	5	9	0	8	5	17
聖カタリナ幼稚園	10	8	0	4	10	12
ロザリオ幼稚園	12	4	1	7	13	11
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	4	2	0	4	4	6
合計	263	268	63	119	326	387

## 11. 設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生生徒等数の状況

学校の名称	学科	〔参考〕前年度(令和5年度)		本年度(令和6年度)	
		入学・募集定員	現員	入学・募集定員	現員
聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 看護学部	社会福祉学科	60	144	60	132
	人間社会学科	50	198	50	163
	健康スポーツ学科	60	230	60	219
	看護学科 ※1年(看護学部) 2-4年(人間健康福祉学部)	80	316	80	302
	計	250	888	250	816
聖カタリナ大学大学院	看護学研究科看護学専攻	5	8	5	6
	計	5	8	5	6
聖カタリナ大学短期大学部	保育学科	80	113	80	100
	計	80	113	80	100
聖カタリナ学園高等学校	普通科	200	215	200	174
	総合学科	300	630	300	540
	看護科	80	134	80	115
	看護専攻科	(80)	80	(80)	100
	計	580	1,059	580	929
京都聖カタリナ高等学校	普通科	40	66	40	50
	看護科	64	127	64	87
	看護専攻科	(64)	63	(64)	68
	計	104	256	104	205
光ヶ丘女子高等学校	普通科	195	821	195	790
	国際教養科	120	224	120	210
	計	315	1,045	315	1,000
聖マリア幼稚園			130		113
聖家族幼稚園			71		65
聖カタリナ幼稚園			187		183
ロザリオ幼稚園			145		142
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園			26		22
合計		—	3,928	—	3,581

### III. 事業の概要

#### 1. 学園ガバナンスの充実・強化他

##### 1. 理事会・評議員会の開催状況

本年度は、理事会が 15 回、評議員会が 7 回開催され、前年度の事業実績・収支決算、本年度予算編成(補正予算含む)、次年度予算編成方針など学園の財政に関する事案のほか、人事計画、固定資産の取得・処分、学則や就業規則をはじめとする各種規程の制・改定、設置校運営に係る重要な事案が適宜審議・報告された。理事・評議員及び監事の出席状況は、各回良好(オンラインによる参加を含む)で、欠席理事・評議員がある場合には、議事録(写)を送付し、遗漏無く審議結果の報告を行っている。

##### 2. 令和7(2025)年4月1日より改正私立学校法が施行

「私立学校法の一部を改正する法律」が令和 5 年 5 月 8 日に公布され、改正私立学校法が令和 7 (2025) 年 4 月 1 日より施行されることとなった。本改正は、文部科学省の「私立学校法の改正について」において

我が国の公教育を支える私立学校が、社会の信頼を得て、一層発展していくため、社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進するための制度改正を行う。

と改正趣旨が述べられ、監事および評議員・評議員会の権限分配を整理するといったガバナンス改革が中心となっている。本学園では、理事会・評議員会において、本改正私立学校法に係る対応等について事前ガイダンスを行うと共に、寄附行為の変更認可申請等、必要な手続きを進めた。

##### 3. 寄附行為を変更

改正私立学校法に対応するため、理事会承認を経て、令和 7 年 4 月 1 日を施行日とする寄附行為の変更認可申請を行い、令和 6 年 9 月 3 日付にて文部科学大臣より認可を受けた。

##### 4. 「第 3 期中・長期経営計画(令和 3~7 年度)」への取り組み

5 年計画の 4 年目となる「第 3 期中・長期経営計画(令和 3~7 年度)」は、PDCA サイクルの継続的な実現を意識しながら、前期(第 1 期・2 期)の積み残し課題を共有化し、その解決に向けた対策を進めているところである。一方、各学校においては、外部環境の変化や計画の進行状況により、当初計画と大きな乖離が生じている状況にあることから、現状に則した実現可能な計画とするため、各学校において、第 3 期「中・長期経営計画」の見直しを行った(令和 5 年 8 月 1 日付財務理事通知)。見直しされた同計画は、法人本部事務局にて取り纏め、第 13 回中・長期経営計画委員会(令和 6 年 3 月 8 日(金)開催)において修正案が策定され、令和 5 年度第 5 回評議員会・第 13 回理事会(令和 6 年 3 月 23 日(土)開催)に付議され、承認された。当年度は、見直しされた計画に基づき、設定された目標に向けて各学校において様々な取り組みが行われている。

##### 5. 聖カタリナ大学大学院看護学研究科設置に係る寄附行為変更認可後の履行状況について

令和 4 年 4 月に設置され、昨年度完成年度を迎えた聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻(令和 4 年 4 月 1 日開設・入学定員 5 名・収容定員 10 名)について、文部科学省私学行政課に対し、令和 6 年 9 月 12 日付にて、「令和 6 年度大学等設置等に係る寄附行為(変更)認可後の財政状況及び施設等整備計画の履行状況報告書」を提出した。

##### 6. 令和 6 年度(第 16 回)幼稚園連絡協議会を開催

「第 16 回幼稚園連絡協議会」を、令和 6 年 6 月 16 日(日)に開催した。当日は、各幼稚園の経営状況を確認・共有した。また、法人本部より、学園が設置する幼稚園の今後の運営方針並びに運営計画について提案があり、協議の結果原案どおり了承された。同方針並びに計画は、理事会(令和 6 年度第 5 回理事会(令和 6 年 6 月 29 日(土)開催)において承認された。

## 7. 聖カタリナ幼稚園が新制度へ移行

学園の設置する幼稚園のうち、聖カタリナ幼稚園(愛知県岡崎市)が、本年度より、子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」に移行した。新制度への移行に伴い、教育環境の改善や教職員の処遇改善、公定価格の加算措置による財務改善等を見込んでいる。また、同園ではこれまで未実施であった預かり保育を本年 10 月より開始しており、開始当初は少数だった利用者も、現在では少しづつ増加傾向にある。保護者の多様なニーズに応える取り組みとして、今後さらに利用促進が期待される。

## 8. 三様監査の充実

### ○監査法人監査

前年度決算に係る監査法人監査の結果が、令和 6 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会(令和 6 年 5 月 25 日(土)開催)において報告され、特段の指摘事項がなかったことが確認された。

本年度の監査法人監査は、上期監査を令和 6 年 10 月 21 日(月)～令和 6 年 11 月 8 日(金)に、下期監査を令和 7 年 3 月 13 日(木)～令和 7 年 5 月 17 日(土)に、設置校及び学校法人にて実施する計画となっている。

また、上記の上半期財務状況に係る監査法人監査について、設置校別に監査を実施した後、監査結果報告書に纏められ、監事監査の結果とともに令和 6 年度第 5 回評議員会・第 10 回理事会(令和 6 年 11 月 30 日(土)開催)において報告された。

なお、本年度決算に係る監査法人監査は、設置校別予備監査、その後の決算監査及び学園全体の集計監査を経て監査報告書として取り纏められ、事業報告書や計算書類とともに、次年度 5 月評議員会理事会(令和 7 年 5 月 24 日(土)開催予定)において審議(報告)の後、改めて評議員会において報告される予定である。

### ○監事監査

本年度は、「令和 6 年度監事監査計画」(令和 6 年度第 6 回理事会(令和 6 年 7 月 26 日(金)開催)にて報告)に基づき、監事は原則として週 1 回の執務日に加え、経営上の重要な会議への出席等を通じて、学園経営(教学関係を含む)に関する情報収集および課題の抽出を行っている。これにより、法人の会計および業務執行等が適正に行われているかを継続的に確認している。

また、教学監査においては、大学(短期大学)学長宛に「教授会議事録に係る要望書」を発出し、改善に向けた提案を行った。

### ○内部監査

本年度の内部監査は、「令和 6 年度内部監査計画」(令和 6 年度第 6 回理事会(令和 6 年 7 月 26 日(金)開催)にて承認)に基づき実施した。過去の監査結果等を踏まえ、今年度は特に「教職員の働き方改革」および「危機管理とリスクマネジメント」を重点項目として掲げ、学校法人(各学校)における業務の適正化・効率化を図ることを目的とした。

なお、内部監査の結果については、令和 7 年度第 5 回理事会(令和 7 年 7 月 25 日(金)開催予定)にて報告する予定である。

## 9. 学校法人聖カタリナ学園 聖カタリナ大学・同短期大学部ガバナンス・コードの遵守状況

本学園は、寄附行為第 3 条に定める教育目的(カトリック教の精神を奉じ、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成すること)に基づき、主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、時代の変化に対応した大学(短期大学)づくりを進めることを目的に、一般社団法人日本私立大学連盟が定め、公表する「私立大学ガバナンス・コード」に準拠して「学校法人聖カタリナ学園 聖カタリナ大学・同短期大学部ガバナンス・コード」を策定している(令和 3 年度第 8 回理事会(令和 3 年 10 月 22 日(金)開催)にて承認)。

また、同ガバナンス・コードについて、令和 6 年度における遵守状況を点検し、報告書として纏められ、令和 6 年度第 7 回評議員会・第 15 回理事会(令和 7 年 3 月 22 日(土)開催)において報告された。

これらは、大学ウェブサイトを通じて広く社会に公表している。



## 2 設置校別 事業の概要

### ■大学・短期大学部関連

#### 《聖カタリナ大学・同短期大学部》

##### 【教育・研究】

###### 1. 聖カタリナ大学を 2 学部 4 学科構成に改組(令和 6 年 4 月 1 日)

令和 6 年 4 月 1 日、聖カタリナ大学に看護学部が新たに設置され、2 つのキャンパス(北条キャンパス・松山市駅キャンパス)に 2 学部 4 学科(看護学部看護学科、人間健康福祉学部社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科)の構成となった。

##### 【看護学部看護学科の概要】

取得学位: 学士(看護学)

入学定員: 80 名(男女共学)

修業年限: 4 年

開設時期: 令和 6 年 4 月 1 日

設置場所: 聖カタリナ大学松山市駅キャンパス内

〒790-0022 愛媛県松山市永代町 10 番地 1

##### 【令和 6 年 4 月からの学部・学科構成】

聖カタリナ大学

・人間健康福祉学部	入学定員 170 名	3 年次編入学定員 6 名
社会福祉学科	(60 名)	(2 名)
人間社会学科	(50 名)	(2 名)
健康スポーツ学科	(60 名)	(2 名)
・看護学部	入学定員 80 名	
看護学科	(80 名)	

###### 2. 聖カタリナ大学現代人間学科設置決定(令和 7 年 4 月 1 日)

令和 6 年 6 月 20 日(木)、文部科学大臣より学科設置の受理通知を受け、令和 7 年 4 月 1 日から社会福祉学科と人間社会学科を改編して新学科「現代人間学科」を設置することが決定した。

現代人間学科では、社会学・社会福祉学を基礎に、心理学の視点も用いて、現代における多様な人間と社会の有り様を理解するとともに、それらの抱える諸課題を発見し、それらの課題の解決を統計学やデータサイエンスの知識も活用して探求することにより、持続可能な地域社会の営みに広く貢献できる人材の養成を目指している。また、現代人間学科では、社会学、心理学、社会福祉学、データサイエンスに関する多様な資格の取得も可能とする。

本改編により、「人間健康福祉学部」に設置される学科は「現代人間学科」と「健康スポーツ学科」の 2 学科となり、両学科の中心的な学問分野は、「社会」と「健康」であることから、学科の教育内容と学部名称との整合性を図るため、学部名称を「健康社会学部」に変更する。

このことにより、聖カタリナ大学は、令和 7 年 4 月 1 日から 2 つのキャンパス(北条キャンパス・松山市駅キャンパス)に 2 学部 3 学科(看護学部 看護学科、健康社会学部 現代人間学科・健康スポーツ学科)の構成となる。

### 【現代人間学科の概要】

取得学位: 学士(現代人間学)  
入学定員: 70名(男女共学) 編入学定員: 2名(男女共学)  
修業年限: 4年  
開設時期: 令和7年4月1日  
設置場所: 聖カタリナ大学北条キャンパス内  
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

### 【令和7年4月からの学部・学科構成】

聖カタリナ大学

・健康社会学部	入学定員 140名	3年次編入学定員 4名
現代人間学科	(70名)	(2名)
健康スポーツ学科	(70名)	(2名)
・看護学部	入学定員 80名	
看護学科	(80名)	

### 3. 前年度FD活動実績を報告

令和6年5月開催の大学教授会及び短大教授会において、各FD委員会調整役より前年度のFD活動に係る実績報告が行われた。前年度に実施されたFD活動として、新任教員研修や公開授業、授業改善調査(前期・後期)、学生による授業改善アンケート、外部講師を招いての学内FD研修会などが報告された。また、本年度も引き続き、学内FD研修会及びSPOD研修(最低2年間に1回)への参加、公開授業の参観、研究叢書への寄稿など、教育能力の向上と教育方法の改善に積極的に取り組むよう要請があった。

### 4. 令和6年度授業公開

大学・短期大学部はそれぞれ以下の日程で、前期・後期の授業を本学の教職員及び保護者を対象に公開した。この授業公開は、FD活動の一環として毎年定期的に実施されており、教育の質向上の一助としている。

- ・大 学 : 前期／6月10日(月)～6月28日(金)、後期／11月11日(月)～11月29日(金)
- ・短 大 : 前期／6月10日(月)～6月28日(金)、後期／11月20日(水)～12月10日(火)

### 5. 学内SD研修会を実施

以下2回の学内SD研修会を大学・短期大学部合同で開催した。

#### 【夏季SD研修会】

令和6年8月21日(水)、株式会社リクルートDivision統括本部 まなび進学情報Division 地域活性営業部 中国・四国グループ グループマネージャー 平野寛俊氏を講師に迎え、夏季SD研修会が開催された。当日は、「マーケット変化から見る今後の大学業界について」をテーマに、大学を取り巻く環境等について講義があった。

#### 【冬季SD研修会】

令和6年12月26日(木)、昨年に引き続き、大正大学地域創生学部教授・エンロールメント・マネジメント研究所所長の福島真司氏を講師に迎え、冬季SD研修会が開催された。当日は、「EMIRの視点から、何のために、何を可視化し、どのように分析すべきかを実践的に考える」をテーマに、学生の休退学防止対策に関する研修がワークショップ形式で実施された。本研修が今後の業務に活かされ、学生の休退学防止につながることが期待される。

### 6. 学内FD研修会を実施

#### 【大学・短期大学部合同FD研修会】

令和6年9月18日(水)、SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)の講師派遣プログラムを利用し、学内大学・短期大学部合同の学内FD研修会を開催した。阿南工業高等専門学校の安田武司准教授により「その言葉・対応は、危険です!—保護者からの要望への対応」をテーマに実施された本研

修は、講義と演習（ロールプレイ）を通じ、学生・保護者対応における「共感・傾聴」ならびに「予防的対応・組織的対応・即時対応」の重要性について教職員間で共有することができ、非常に有意義なものとなった。

#### 【大学院看護学研究科 FD 研修会】

令和 7 年 1 月 22 日（水）、大学院看護学研究科 FD 研修会を開催し、看護学研究科および看護学科の教員 22 名、大学院生 6 名が参加した。研修会は、本学大学院看護学研究科の中川雅智准教授を講師として、「教員養成課程における異学年合同授業に関する実践研究—計量テキスト分析を用いたデータの解釈について—」をテーマに実施した。中川准教授は、異学年合同による模擬授業を通じて学生の実践的指導力向上を図っており、計量テキスト分析を用いた教育効果の検証結果や手法について解説した。研究では、生徒役の省察力や授業観察力が学年の進行とともに変化し、先輩からのフィードバックの影響が示唆された。

研修では、分析手法の利点や課題に加え、研究に係る基本的姿勢についても再確認する有意義な機会となった。



#### 7. 中川雅智准教授・今城遙助教が日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会で発表賞を受賞

健康スポーツ学科 中川雅智准教授・今城遙助教が日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会で発表賞を受賞した。同学会は、令和 6 年 8 月 29 日（木）～8 月 31 日（土）に福岡大学にて開催され、両名で発表した演題「異学年合同授業による保健科模擬授業が省察の変容に及ぼす影響」が、保健専門領域の発表賞を受賞した。この研究は、本学教育職員免許状取得のための開講科目である「保健体育科教育法 I～IV」の授業を対象に行われている研究の一つで、「保健体育科教育法 II（2 年次）」と「保健体育科教育法 IV（3 年次）」の合同授業で実施された模擬授業が、学生の省察（リフレクションシート）の記述にどのような影響を与えていているか、といったことを明らかにしたものである。全国の小規模大学が抱えている課題の一つである少人数での模擬授業を、複数学年で実施することによって解消できるかを検証する研究の一つであり、現在もその取り組みは進行している。この研究が教職課程を履修している学生の深い学びや教師効力感の向上に繋がり、教職への就職率が高まるよう教職課程委員会としても継続して取り組んでいくこととしたい。

#### 8. 「大学コンソーシアムえひめ」インターンシップ研修報告会を開催

令和 6 年 11 月 6 日（水）、本学が加盟する「大学コンソーシアムえひめ」が実施するインターンシップ研修の報告会が行われた。「大学コンソーシアムえひめ」は、愛媛県内の大学が相互に連携・交流し、県内の高等教育全体の質的向上と地域社会への貢献を目的としている。報告会には事業所の関係者も参加し、夏期にインターンシップ研修に参加した人間社会学科の 3 年生が、2 教室に分かれて報告を行った。学生は、事前に事業所から提供された研修評価をもとに、自身の体験を振り返り、長所や課題を整理して報告の準備を進めた。報告会は、自分が参加しなかった事業所に関する情報を共有する「業界研究会」としての側面もあり、参加者は真剣にメモを取りながら発表を聞いていた。活発な質疑応答も見られ、就職活動に向けた有意義な学びの機会となった。



#### 9. 令和 6 年度聖カタリナ大学大学院看護学研究科研究計画発表会を開催

令和 7 年 1 月 22 日（水）、令和 6 年度の聖カタリナ大学大学院看護学研究科研究計画発表会を開催した。院生による興味深いテーマの研究計画発表の後には活発な質疑応答が行われ、有意義な学びの機会となった。



## 10. 令和 6 年度聖カタリナ大学大学院看護学研究科修士論文発表会を開催

令和 7 年 2 月 12 日(水)、今年度の修士論文発表会を開催した。3 名の院生が、災害看護学、老年看護学、看護教育学の分野で研究に取り組み、いずれも新規性のあるテーマを扱い、今後の臨床に資する知見を発表した。



## 11. 日本看護研究学会中国・四国地方会第 37 回学術集会を開催

令和 7 年 3 月 9 日(日)、「看護のチカラ 2025 ーひと・まち・いのちを繋ぐー」をテーマに、日本看護研究学会中国・四国地方会第 37 回学術集会(実行委員長:西田佳世看護学部長)を松山市駅キャンパスで開催した。本学術集会には、中国・四国地方の看護職を中心に 299 名が参加した。開会にあたっては、坂原学長による特別講演が行われ、幕を開けた。会場では、合計 70 演題の看護研究発表が行われ、活発な議論と意見交換がなされた。本学からは、西山里枝講師(共同研究者:齋藤希望講師、二宮寿美教授)が優秀口演賞を受賞した。また、卒業生(第 3 期生)が最優秀口演賞(共同研究者:西田佳世教授)を受賞した。



## 12. Dean's List(Honor's List)制度を導入

本年度より、大学では Dean's List、短大では Honor's List 制度を導入し、優秀な成績を修めた学生を称える取り組みを開始した。Dean's List(Honor's List)は、学年別に前学期・後学期ごとに GPA(※)によって成績上位者を選出する制度であり、受賞歴として履歴書に記載することができる。受賞者は、大学では学部長、短大では学科長から表彰され、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部後援会から副賞が贈られる。また、受賞学生の氏名は、表彰式の写真とともに大学ウェブサイトに掲載される。

なお、前学期に係る表彰式は、以下の日程で実施された。



- ・大学 看護学部:令和 6 年 10 月 16 日(水)
- ・大学 人間健康福祉学部および短大 保育学科:令和 6 年 10 月 30 日(水)

※GPA(Grade Point Average): 学生の成績を数値で表す評価制度である。各科目の成績に対応する「グレードポイント(GP)」を割り当て、それらの平均値を求めることで、学習成果を客観的に評価する。

## 13. 資格試験等の合格状況

令和 6 年度の主な資格試験等の合格状況は以下のとおりである。

### ○令和 6 年度社会福祉士国家試験

社会福祉学科 4 年生 24 名が受験し 18 名が合格した。

### ○令和 6 年度精神保健福祉士国家試験

社会福祉学科 4 年生 7 名が受験し 6 名が合格した。

### ○令和 6 年度介護福祉士国家試験

社会福祉学科 4 年生 6 名が受験し 6 名全員が合格した。

### ○令和 6 年度健康運動指導士認定試験(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)

健康スポーツ学科 4 年生 1 名が受験し合格した。

### ○令和 6 年度健康運動実践指導者認定試験(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)

健康スポーツ学科 3 年生・4 年生 7 名が受験し 1 名が合格した。

○令和 6 年度看護師国家試験

看護学科 4 年生 67 名が受験し、65 名が合格した。

○令和 6 年度度保健師国家試験

看護学科 4 年生 15 名が受験し、15 名全員が合格した。

#### 14. 令和 6 年度卒業生の就職状況

令和 6 年度卒業生の就職状況(就職率)は、新卒採用を取り巻く環境も大きく変化する中で、学内における就職支援の充実を図り、大学は 96.2% という高水準を維持した。学科別では、社会福祉学科 93.9%、人間社会学科 92.3%、健康スポーツ学科 96.1%、看護学科は 100.0% となった。また、短期大学部(保育学科)の就職率は 97.9% となり、内定者のうち保育専門職に就く学生の割合は 89.1% と、毎年高い比率を維持している。

### 【学生生活】

#### 15. 令和 6 年度入学式を挙行

令和 6 年 4 月 3 日(水)、令和 6 年度入学式を北条キャンパス聖カタリナホールにおいて挙行した。

#### 16. カタリナウェルカムキャンパスを全学科で実施

学科ごとの新入生歓迎イベント、「カタリナウェルカムキャンパス(通称「カタキャン」)」を、4 月の金・土曜日を利用し、全学科で実施した。「カタキャン」は、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の伝統行事の一つで、在学生の学生スタッフが新入生を対象に、アットホームな雰囲気で企画・運営を行っている。



#### 17. 「母をたたえる日」を開催

聖母マリアをたたえる宗教行事「母をたたえる日」が、北条キャンパスにおいては令和 6 年 5 月 15 日(水)に、松山市駅キャンパスにおいては 5 月 8 日(水)にそれぞれ開催された。川上神父様からの講話や学生による献花・共同祈願等の聖母マリアへの祈りなど、厳かな雰囲気の中で行われた。

#### 18. 「学生相談室」から前年度活動状況を報告

令和 6 年 5 月 31 日(金)、前年度の「学生相談室」の活動状況が学内ネットワークで報告された。北条キャンパスでは火・木・金曜日を、松山市駅キャンパスでは火・木曜日をそれぞれ開室日とし、各キャンパスのカウンセラーが、教職員、特にアドバイザー教員やクラス担任と連携して相談室業務に取り組んだことや、精神科医との連携によるメンタルヘルス相談を実施したこと、相談室の活動を周知するため「学生相談室だより」を両キャンパスで計 12 回発行したことなどが報告された。

#### 19. 2024 年度 ボランティアーウィーク 開催

令和 6 年 7 月 1 日(月)～5 日(金)、ボランティアーウィークを実施した。ウィーク期間中は、北条キャンパスでは短冊募金とチャリティーフリーマーケット、松山市駅キャンパス及び聖カタリナ学園高等学校では短冊募金を実施した。ボランティアーウィーク期間中に集まった募金額 32,380 円は、社会福祉法人松山市社会福祉協議会 松山市まごころ銀行に寄付を行った。



## 20. 令和 6 年度大学祭を開催

令和 6 年度大学祭は、北条キャンパス(令和 6 年 10 月 25 日(金)～ 27 日(日))と松山市駅キャンパス(令和 6 年 10 月 27 日(日))で「繋輪～つながりが完成を生み出す～」をテーマに開催された。大学祭初日には、学生・教職員を対象に歓迎神父の司式によるミサが行われた。北条キャンパスでは、10 月 26 日(土)・27 日(日)の一般公開日に、生花展示、ステージショー(手話コーラス、ライブ)、スペシャルライブ(みかんモノマネショー)、子どもの遊びコーナー(保育学科)、入試相談コーナー、e-ゲーム交流会、パイオルガン演奏会などが行われた。松山市駅キャンパスでは、看護学科の学生が企画した赤ちゃん抱っこ体験、妊婦体験、車いす体験などが行われたほか、看護学科のオープンキャンパスも同時に開催された。期間中、両キャンパスに多数の来場者があり、活気ある大学祭となった。



## 21. 令和 6 年度卒業式を挙行

令和 7 年 3 月 17 日(月)、令和 6 年度 聖カタリナ大学短期大学部、聖カタリナ大学卒業証書・学位記授与式、聖カタリナ大学大学院修了証書・学位記授与式が挙行された。学内施設の関係で、本年度は会場を松山市民会館に変更して行われた。当日は厳かな雰囲気の中、卒業生・修了生はガウンと角帽で正装し、聖歌斎唱や聖書朗読が行われた。



## 22. スポーツ部の活躍

### ○サッカーチーム(強化指定クラブ)

- ・令和 6 年 6 月 15 日(土)、「四国大学サッカートーナメント(兼 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント四国地区予選会)」において、準決勝に進出し、高松大学に敗れた。
- ・令和 6 年 8 月 18 日(日)、愛媛県総合運動公園球技場において、元日本代表・本田圭佑氏考案 小学生の 4 人制サッカー「4v4」愛媛県大会が行われ、運営補助を行った。当日は、会場設営・審判・選手誘導などを行いスムーズに大会運営を行うことができた。
- ・2024 インディペンデンスリーグ四国において、チーム表彰(最優秀運営校)及び本学から 2 名の選手が優秀選手として表彰された。
- ・令和 7 年 2 月 19 日(水)～23 日(日)に行われた「第 39 回 デンソーカップチャレンジサッカー静岡大会ブレーカー(主催:公益財団法人日本サッカー協会・一般財団法人全日本大学サッカー連盟)」に、四国選抜として、本学から選手 5 名及びスタッフ 1 名(監督)が参加した。
- ・令和 7 年 2 月 11 日(火)、愛媛サッカーアワーズ 2025(愛媛県サッカー協会表彰)において、本学から 4 名の選手が 2024 年度愛媛県優秀選手として選出された。
- ・令和 7 年 1 月 26 日(日)、愛媛県サッカーリーグ評議会において、2024 年度愛媛県サッカーリーグ チーム表彰(優勝)及び本学から 4 名の選手が優秀選手として表彰された。



### ○剣道部(強化指定クラブ)

- ・令和 6 年 8 月 4 日(日)、西条市総合体育館にて開催された「令和 6 年度愛媛県レディース大会」に出場した。本大会は、女性をメインとした愛媛県でも伝統のある大会で、高校生から一般・社会人までが混成してチーム構成できるようになっており、本学剣道部は、3 人制の団体戦・90 歳以下の部(3 人の年齢合計が 90 歳未満の部門)に出場し、第 3 位入賞(2 年連続)の成績を収めた。
- ・令和 6 年 4 月 21 日(日)、「第 78 回国民スポーツ大会候補選手選考会」において、成年女子団体・大将の部で健康スポーツ学科 助教馬越千里選手(顧問)が優勝した。馬越選手は剣道競技・成年女子愛媛県

代表として、8月に開催される四国ブロック予選に出場することが決定した。

・令和6年8月18日(日)、「国民スポーツ大会・第45回四国ブロック大会剣道競技」において、愛媛県代表選手として出場した健康スポーツ学科 助教馬越千里選手(顧問)が、剣道競技・成年女子の部において優勝し、令和6年9月28日(土)・29日(日)に佐賀県で開催された「第78回国民スポーツ大会剣道競技」に出場し、5位入賞の成績を収めた(通算14回目の国民スポーツ大会出場)。



・令和7年2月23日(日)、「第17回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会愛媛県予選会」において、本学から、人間社会学科1年 城戸花選手、健康スポーツ学科4年 大田桜子選手、コーチ 志賀真央選手、健康スポーツ学科助教・馬越千里選手(監督・鍊士七段)が出場し、志賀真央選手が三将の部で準優勝、馬越千里選手が副将の部で優勝(3年連続)した。両選手は、愛媛県代表チームの一員として、令和7年7月13日(日)に東京・日本武道館で開催される本戦に出場することが決まった。

・令和7年2月26日(水)、公益財団法人愛媛県スポーツ協会創立100周年記念式典・表彰式・祝賀会が開催され、健康スポーツ学科所属の剣道部顧問である馬越助教が、令和6年度国民スポーツ大会入賞選手賞を受賞した。この賞は、本年度佐賀県で開催された「第78回国民スポーツ大会剣道競技」に出場し、5位入賞を果たしたことを称え、同協会から贈られたものである。

#### ○女子バスケットボール部(強化指定クラブ)

・令和6年5月11日(土)～19日(日)、2024年度全四国大学バスケットボール春季大会において、優勝の成績を収めた。



・令和6年5月26日(日)、2024年度全四国大学バスケットボール新人大会において、優勝の成績を収めた。同大会は、今年度新設された大会であり、初代女王となった。また、この結果により、7月に開催される「全日本大学バスケットボール新人戦」への出場権を得た。

・令和6年7月8日(月)～10日(水)、「第2回全日本バスケットボール新人戦(通称:新人インカレ)」に四国代表として出場した。

・令和6年6月3日(月)、「男子第74回女子第73回西日本学生バスケットボール選手権大会」に、出場した(3年連続)。

・令和6年8月17日(土)、地域貢献活動として、北条スポーツセンターにて、少年少女バスケットボールクリニックを開催した。クリニックは、年中児～小学4年生の経験者・未経験者混合で行われ、部員4名、健スポーツ学生2名の、計6名の学生が中心となって進行した。25名の子ども達が参加し、クリニックを盛り上げることが出来た。北条をスポーツでも盛り上げられるよう、積極的に活動していきたいと考える。

・令和6年10月4日(金)・5日(土)・12日(土)・13日(日)、「2024年度全四国大学バスケットボール秋季大会(通称:インカレ予選)」において優勝(3年連続・創部4年目)し、全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)に出場することが決定した。

・令和6年12月2日(月)・3日(火)、「第76回全日本大学バスケットボール選手権大会(通称:インカレ)」に出場し、惜しくもグループステージ(予選リーグ)敗退(1勝1敗)となった。

#### ○硬式野球部(強化指定クラブ)

・令和6年度四国地区大学野球連盟春季リーグ戦  
9勝6敗 勝ち点4 2位(昨年度5位)

・令和6年度四国地区大学野球連盟秋季リーグ戦  
6勝5敗 勝ち点3 3位(昨年度4位)

1年を通して創部以来最高成績でシーズンを終えた。



## 【地域連携】

### 23. 令和 6 年度 愛媛県社会福祉法人経営青年会と学生との意見交換会を開催

令和 6 年 6 月 1 日(土)、聖カタリナ大学北条キャンパスにて、愛媛県社会福祉法人経営青年会の事務局を担っている愛媛県社会福祉協議会と本学人間健康福祉学部の共催で、愛媛県社会福祉法人経営青年会と学生との意見交換会を実施した。社会福祉法人は県内各所から 10 法人に参加いただいた。意見交換会はグループワーク形式で行われ、学生にとって「福祉現場の実際」や「求められる人材像」などについて、経営青年会の方々に直接質問できる貴重な機会となっている。グループワークでは活発な意見交換が行われ、最後には「ぜひ来年度も開催してほしい」という声が双方から上がり、今後も本学と社会福祉現場を結ぶ取り組みの一つとして継続される予定である。



### 24. 短期大学部保育学科公開講座「リカレントセミナー」を開催

令和 6 年 8 月 20 日(火)、第 24 回リカレントセミナーを開催した。当日々、本学の卒業生を含む県内の幼稚園・保育所・施設等で勤務されている延べ 121 名の先生方に参加していただいた。本講座は、参加者が新たな知識・技術を習得することを目的としている。また、例年、多くの卒業生の参加もあり、保育学科では、今後も社会で活躍されている方に学びの機会を提供することとした。



### 25. 愛媛県障がい者スポーツ大会においてボランティア活動を実施

令和 6 年 5 月 26 日(日)、愛媛県総合運動公園陸上競技場にて開催された、愛媛県障がい者スポーツ大会 陸上競技の部において、前期開講科目「障がい者スポーツ」を履修している健康スポーツ学科の学生 36 名(3・4 年生)がボランティアスタッフとして参加した。学生達は、「召集」「誘導」「運搬」の役を担い、それぞれの部署において障がいのある選手との交流を図りながら、選手が実力発揮することができるよう支援を行った。また、試合を間近で観ることにより、パラスポーツは障がいのある人だけではなく、健常の人が行うことができること、障がいの有無にかかわらず多様なスポーツとの関わりを持つことができることなどを知るよい機会となった。



### 26. 松山市文化・スポーツ振興財団 × 聖カタリナ大学『アダプティッド・スポーツ体験教室』を開催

令和 6 年 7 月 13 日(土)、北条スポーツセンターハーフコートにおいて、松山市文化・スポーツ振興財団と本学の連携事業として、『工夫』で楽しむスポーツ体験会(アダプティッド・スポーツ体験教室)を開催した。アダプティッド・スポーツとは、個人の身体の状態に合わせてルールや道具を工夫し、皆が平等にプレイできるように適合(adapt)させたスポーツのことを指す。アダプティッド・スポーツは特別なスポーツではなく、その場にいる全員が楽しめるよう工夫するスポーツであることから、当日参加した子どもたちの意見を反映したルール変更なども行い、オリジナルのスポーツを体験することができた。



### 27. 第 50 回かざはや楽市に参加

令和 6 年 6 月 16 日(日)、北条地区まちづくり協議会が主催する「第 50 回かざはや楽市」に、学生ボランティアセンターから 5 名が参加した。学生達は、小学生以下を対象とした謎解きキーワードラリー「北条の謎を探れ！」を担当し、キーワードラリーの説明から、最後



の抽選会の実施方法まで工夫を凝らし、会場を大いに盛り上げた。キーワードラリーには約 80 人の子どもたちが参加し、ペンとボードを持って楽しそうに会場を駆け回る姿が見られた。子どもたちの喜ぶ様子に、学生たちは大きなやりがいを感じた。今後も地域との連携を深め、積極的に地域貢献に努めることとする。

## 28. 坊ちゃんスタジアムにて国歌斎唱

令和 6 年 9 月 10 日(火)、坊っちゃんスタジアムで行われた、プロ野球独立リーグ「四国アイランドリーグ plus」公式戦 愛媛マンダリンパイレーツ vs 高知ファイティングドッグスの試合にて、本学聖歌隊の有志が国歌斎唱を行った。愛媛マンダリンパイレーツには、本学卒業生の窪田寛之投手が所属しており、同投手、そしてチームの益々のご活躍を期待する。



## 29. 愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「風早の塾」の開催

令和 6 年 7 月 13 日(土)、愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「風早の塾」に淑徳大学総合福祉学部教授の結城康博氏を講師にお招きし、聖カタリナ大学 2 号館 211 教室にて、聖カタリナ大学健康社会学部現代人間学科開設記念講演「現代社会における孤独と孤立」を開催した。

後学期には「SDGs:持続可能な地域づくり～スポーツで北条地域を元気で明るく！～」をテーマに全 9 回の講座を開講した。「スポーツ」とは何か、「スポーツ」とのかかわり方、「スポーツ」の価値などについて、男子バレーボール前日本代表監督・中垣内祐一氏、本学卒業生でパリパラリンピックに出場された石山大輝氏を始め愛媛県内外のスポーツに関わる専門家にご講演をいただいた。学生や大勢の市民の方々に参加いただき、過去最多の延べ 782 名という参加者数となった。

平成 25 年度より開講している愛媛銀行寄付講座は 12 年目を迎え、地域の方々にとって学生と一緒に学ぶ良い生涯教育の場となっている。



## 30. 「24 時間テレビ」チャリティイベントに参加

令和 6 年 9 月 1 日(日)、南海放送本町会館で開催された「24 時間テレビ 47」のチャリティイベントブースに出店し、ドミニカンクッキーと大学オリジナルトートバッグを販売した。なお、当日の収益金は 24 時間テレビチャリティー募金に全額寄付した。



## 31. 伊予市トライアスロン大会 in ふたみにボランティア参加

令和 6 年 8 月 3 日(土)・4 日(日)、第 11 回伊予市トライアスロン大会 in ふたみに、社会福祉学科と看護学科の学生が、会場設営や連絡要員、給水係などの大会運営ボランティアとして参加した。

## 32. 伊予市生活支援体制整備事業のセミナーに参加

令和 6 年 10 月 1 日(火)、伊予市で開催された「伊予市生活支援体制整備事業 第 1 層協議体セミナー」に、本学社会福祉学科の学生がサポートとして参加した。この事業は、市内 6 地区の地域住民リーダーを中心に、地区ごとに住みやすいまちづくりのための社会資源づくりを目的として、年 3 回開催されている。本学社会福祉学科の釜野教授は、本セミナーに講師として継続的に関わっており、今年度からは社会福祉学科のゼミ生も、地区別に分かれて行われるグループワークにサポートとして参加している。学生は、ワーク内で学生の視点から意見を述べるだけでなく、社会福祉士の資格取得に不可欠な地域福祉の実践的な学習の場として、地域住民から多くの学びを得ている。



また、7月に開催されたセミナー終了後には、主催者である伊予市職員および伊予市地域包括支援センター職員に対し、ゼミ研究に必要なサンプル収集のためのインタビューも実施した。

### 33. 松山西警察署より「学生警察ボランティア」を委嘱される

令和6年10月12日(土)、北条キャンパスにおいて「学生警察ボランティア」結成式を実施した。人間健康福祉学部および短期大学部から計13名の学生が、松山西警察署より委嘱を受けた。学生たちは、地域貢献活動として、署などと連携して地域での防犯や交通安全の啓発活動、調査などに協力する。結成式には松山西警察署 藤本署長、本学 坂原学長らが出席。藤本署長は「地域活性化やボランティアの広がりに期待する」と述べた。学生を代表して学部3年生の梶原琉生さんが「事故や詐欺を防ぎ、地域に貢献したい」と決意を語った。式後、学生たちは地元スーパー「フジ夏目店」で街頭啓発活動を実施。防犯・交通安全に関するチラシを配布し、買い物客に注意を呼びかけた。本学は今後も、地域と連携した活動を通じて、学生の成長を支援していく。



### 34. 「第7回スポーツ・レクリエーションフェスティバル in 風早」を開催

令和6年11月2日(土)、松山市文化・スポーツ振興財団と聖カタリナ大学・同短期大学部の共催で「第7回スポーツ・レクリエーションフェスティバル in 風早」を開催した。約100名の松山市民が参加し、にぎやかな一日となった。このイベントは、同財団との連携協定に基づき毎年開催されている。体育館では、親子レクリエーション大会、体力・運動測定、体組成測定、エアロビクス・ピラティス・ヨガ・自力整体などのファミリーフィットネスを実施した。親子レクリエーション大会では、保育学科の学生が企画・運営を担当。授業で学んだ内容を活かし、レクリエーション・インストラクターとしての役割を体験した。体力・運動測定コーナーおよび体組成測定コーナーでは、健康スポーツ学科の教員・学生が健康管理に関する助言を行い、参加者の理解促進に努めた。今後も本学は、松山市文化・スポーツ振興財団と連携し、教育機関として皆様の健康増進・健康管理を継続してサポートしていく。



### 35. 献血活動を実施

令和6年10月26日(土)、大学祭において献血活動を実施した。北条キャンパスに献血バスを迎える9:30～17:00まで、学生ボランティアセンターのメンバーを中心に献血受付や献血のPRを行った。学生は、7月からポスター掲示やチラシ配布、事前申し込みの呼びかけを学内外で行い、本学大学祭では初となる献血バスの配車に向けて準備を進め、48名(うち、初回献血者17名)の方に献血(400ml)の協力を得ることができた。学生ボランティアたちは、地域の方々がたくさん献血に来てくれたことに感激し、多くの人々のために貢献できたことを大変喜んでいた。若年層の献血者数の減少が課題となる中、大学生が献血への理解を深め、献血機会を提供するきっかけとなった。学生ボランティアセンターおよび学生赤十字奉仕団同好会は、【命をつなぐボランティア】として今後も献血活動への取り組みを継続し、地域社会への貢献を目指していく。



### 36. 2024 年度松山義士祭りに参加

令和 6 年 12 月 14 日(土)、看護学科の学生・教員が松山義士祭に参加した。松山義士祭は赤穂浪士討ち入りの日である 12 月 14 日に行われている松山師走の風物詩といえるイベントで、松山市駅キャンパス近隣の興聖寺で行われており、参加者は義士に扮して末広町通りから市駅前をパレードする。本学看護学科からの参加は今年で 2 回目となり、看護学科の学生 9 名・教員 1 名が参加した。2024 年度は地域の皆さんをお招きしての介護予防教室の開催や松山義士祭のイベント参加などを通じて市駅キャンパス周辺地域の皆さんと交流を深めることができた。



### 【国際交流・提携】

#### 37. 看護学科 学生がマレーシアで 2 週間の海外研修プログラムに参加

看護学科の 15 名(4 年生 1 名と 3 年生 14 名)が、マレーシアにおいて 2 週間(令和 6 年 9 月 2 日(月)～13 日(金))の海外研修を行った。本研修は、国際看護学演習の科目として実施され、本学と国際交流協定を締結しているマーシャ大学(マレーシア)から提供されたプログラムである。研修では、様々なプログラムが用意され、学生達は、価値観、民族性、歴史的背景に基づく保健医療体制、衣食住を実際に肌で感じ、日本との違いを理解することで国際感覚という広い視野を身につけることができた。



#### 38. 台北市との小中学校友好交流推進員に任命(継続)

松山市教育委員会より、台湾人留学生の 2 名が「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命され、令和 6 年 5 月 24 日(金)に委嘱式に参加した。本推進員には、令和 2 年度より本学学生が任命されており、今年度も引き続き本学の学生が任命されることになった。松山空港と台湾の台北を結ぶ定期便の利用が好調なことから、週 2 往復の運航が 10 月から週 3 往復に増便されるなど、松山市と台湾の交流が活発になっており、本活動が日台交流と理解に寄与することを期待する。



#### 39. 本学留学生 中学校における日台交流事業に参加

令和 6 年 11 月 1 日(金)・2 日(土)、社会福祉学科 4 年生の台湾人留学生サイ・ミンシさんと、人間社会学科 4 年生のサイ・シンユエンさんが、「台北市との小中学校友好交流推進員」として、松山市立東中学校の授業および文化祭に通訳として参加した。本学の留学生は、これまで小学校での交流事業には参加してきたが、中学校への訪問は今回が初めてとなる。当日は、台湾・台北市の介壽中学校の生徒たちも来校しており、二人は通訳を務めながら、日本の中学校の授業の様子を見学することができた。また、文化祭では合唱の鑑賞もあり、非常に貴重な経験となった。



#### 40. 本学留学生愛媛県内 3 大学留学生との交流事業に参加

令和 6 年 11 月 30 日(土)、昨年に続き、本学・愛媛大学・松山大学の 3 大学に在籍する留学生が「しまなみ」バスツアーに參加した。当日は天候に恵まれ、留学生たちはしまなみ海道の美しい景色を楽しみ、大山祇神社では日本の伝統文化に触れ、伯方の



塩工場では塩ができるまでの工程を学んだ。また、他大学の留学生との交流も深まり、日本文化を体験しながら充実した一日を過ごした。

#### 41. 本学留学生 小学校における日台交流事業に参加

令和6年12月2日(月)、台湾人留学生のサイ・ミンシさんとサイ・シンユエンさんが、「台北市との小中学校友好交流推進員」として昨年に続き湯築小学校を訪れ、児童に向けて台湾について発表した。発表では、簡単な中国語のあいさつや単語の紹介、台湾と日本の小学校の違い(時間割や給食など)、さらに台湾のおすすめの観光地やお土産について話した。また、湯築小学校の児童からは「道後 BON ダンス」を教えてもらう場面もあり、互いに文化を紹介し合う双方の交流が行われた。児童たちは異文化への理解を深め、国際的な視野を広げる貴重な経験となつた。



### 【高大連携】

#### 42. 愛媛県立北条高等学校と高大連携協定を締結

令和6年9月30日(月)、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と愛媛県立北条高等学校との「高大連携に関する協定」の調印式が、聖カタリナ大学(北条キャンパス)で行われ、本学の坂原明学長と北条高等学校渡邊俊校長が協定書に署名した。本協定は、大学と高校が連携することで、地域社会(特に松山市北条地域)の発展と人材育成を目的とし、今後、本学で展開されている特色ある教育・研究に関する連携、高等学校の授業への大学教員の派遣など様々な分野での教育連携事業が推進される予定である。



#### 43. 第59回松山野球拳おどりに参加

令和6年8月10日(土)、第59回松山野球拳おどりに、聖カタリナ学園高校及び聖カタリナ大学(短大)の学生で構成する『聖カタリナ学園連』として参加した。当日は、学生約50名が参加し、精いっぱいの演技を披露した。また、演者だけではなく、観客の皆様と共に皆で楽しみ、盛り上がることができ、その結果、優秀賞「テレビ愛媛賞」を受賞した。



#### 44. 令和6年度 募金活動(学生ボランティアセンター×北条高校生徒会)

聖カタリナ大学学生ボランティアセンターと愛媛県立北条高等学校生徒会は、地域貢献活動の一環としてチャリティーフリーマーケットを共同開催した。大学生と高校生が協力して販売を行い、地域の人々との交流を深めながら、支援の輪を広げた。このフリーマーケットは、聖カタリナ大学の大学祭(10月26日)および北条高校の文化祭(11月1日)において実施され、売上金17,298円は北条地区共同募金会および社会福祉法人松山市社会福祉協議会・松山市まごころ銀行に全額寄付された。本取り組みは、本年度に締結された高大連携協定に基づくものであり、地域・大学生・高校生が力を合わせ、地域福祉の向上に貢献する新たな一歩となつた。



### 【学生募集・広報活動】

#### 45. 大学説明会を開催

令和6年6月19日(水)、松山市駅キャンパスを会場に「2024年度大学説明会」(高校教員対象)を開催し、24校の参加を得た。当日は、担当の教職員が、各学科の特色や就職状況、入試要領、奨学金等について

説明を行ったほか、希望者を対象にキャンパス内の施設設備見学会と個別相談を実施した。また、都合等により本説明会に出席できなかった学校に対しては、個別の高校訪問にて丁寧な対応を行った。

#### 46. オープンキャンパスを開催

令和6年度オープンキャンパスは、北条キャンパスでは①5月19日(日)、②6月22日(土)、③7月13日(土)、④8月3日(土)、⑤10月5日(土)、⑥12月23日(月)の計6回、また保育学科単独で4月20日(土)にも開催した。松山市駅キャンパスでは①7月7日(日)、②7月20日(土)※ナイト開催、③8月10日(土)、④8月11日(日)、⑤12月14日(土)の計5回開催した。参加者数は、北条キャンパスは395名(同伴者147名を含む)、松山市駅キャンパスは249名(同伴者83名を含む)となった。なお、北条キャンパスでは高校の新学年に対応した早期のオープンキャンパスを令和7年3月20日(木)に追加で開催し、56名(同伴者24名を含む)の参加があった。

#### 47. おでかけキャンパスを開催

「おでかけキャンパス」は、大学・短大の教員や在学生が、各会場に出向いて説明や相談を行う出張型のオープンキャンパスで、東予地区(新居浜市)と南予地区(宇和島市)の会場で各1回、中予地区(松山市)を対象とした「おでかけキャンパス in 松山銀天街」を3回開催し、合計で54名(同伴者11名を含む)の参加があった。

#### 48. 各種SNSでのショート動画配信

主要なSNS(YouTube、Instagram、X(旧Twitter))において、本学の様々な情報をショート動画で積極的に発信している。なお、新たな取り組みとして、TikTokでのCM動画配信およびYAHOO!トップページへのブランドパネル設置による広告企画を導入した。

#### 49. 前年度から引き続き実施した学生募集・広報活動

- ①地域の幅広い年代に本学を認知してもらうことを目的として、伊予鉄道の市内電車アナウンス広告(松山市駅で展開)を実施している。
- ②オープンキャンパスの参加者に配付する「袋」を脱プラスチックへの取り組みとして紙製品を導入している。

### 【附置機関】

#### 50. 研究所フォーラムの開催と紀要の発行

本年度のキリスト教研研究所フォーラムは、令和6年10月8日(火)～令和7年2月18日(火)の間、全5回(発表者10名)、また、人間文化研究所フォーラムは、令和6年9月17日(火)～令和7年2月26日(水)の間、全6回(発表者12名)をそれぞれ開催した。また、人間文化研究所紀要(第29号)を令和6年10月に、キリスト教研研究所紀要(第27号)を令和6年12月にそれぞれ発行した。

#### 51. 附属図書館本館で北条南中学校生徒の職場体験学習を実施

令和6年9月5日(木)～6日(金)及び12日(木)～13日(金)に、北条南中学校2年生8名が2班に分かれ、附属図書館本館(北条キャンパス)において、各2日間の職場体験学習を行った。カウンター業務、蔵書点検、テーマ展示コーナーの作成などに意欲的に取り組み、一つ一つの作業を理解したうえで進めているとする姿勢がみられた。今後も受け入れを継続していく、働くことの大切さについて学んでもらうとともに、中学生に本学を知ってもらう機会としたい。

#### 52. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究紀要第37号を発行

令和7年3月28日(金)に聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究紀要第37号を本学ホームページ上に公開した。

## 【その他】

### 53. 看護学科ホームカミングデーを実施

令和6年7月6日(土)、看護学科第3回ホームカミングデーを開催し、卒業生25名、在学生28名、合計53名の参加があった。本イベントは卒業生と在学生を繋ぐだけでなく、卒業生の離職防止も目的としている。なお、今年度から聖カタリナ大学同窓会より5万円の支援金を受けて実施した。



### 54. 本学卒業生が「パリ2024パラリンピック」に出場

本学卒業生の石山大輝選手(健康スポーツ学科・22年卒、順天堂大学大学院)が、「パリ2024パラリンピック」に陸上男子走り幅跳び 視覚障害(T12クラス)の日本代表として出場し、第5位の成績を収めた。また、石山選手は、開会式において、日本選手団の旗手を務めた。

### 55. 愛媛マンダリンパイレーツ野球教室を開催

令和6年12月10日(火)、愛媛マンダリンパイレーツ主催の野球教室が聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園で開催された。教室には、昨年度同球団に入団した本学卒業生の窪田寛之投手(令和5年度健康スポーツ学科卒業・背番号17)が参加した。窪田投手は、野球を通じて子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを伝える活動を行っている。



## ■高等学校関連

### 《聖カタリナ学園高等学校》

#### 【教育】

##### 1. 改組(学科・コースの再編)決定

中学生の多様な学習ニーズ等を踏まえ、学科・コース・系列改革のため「学科等改革検討委員会」を設置し、改組に係る様々な検討を行った。検討の結果、高校創立 100 周年となる令和 7 年度(2025 年度)から、総合学科を普通科に統合し、学科・コースの再編を図り、普通科・看護科の 2 科構成とすることとした。同改組について、愛媛県に対し申請手続きを進め、令和 6 年 9 月 12 日付けにて認可された。

本改組により、進路指導力の向上やキャリア教育の充実を図り、地域社会の人材育成に貢献する効率的効果的な教育体制を整備し、生徒の多様なニーズに応えられるよう学校改革を実施していくこととする。

#### 【令和 7 年 4 月からの学科構成】

聖カタリナ学園高等学校

全日制課程	定員 1,900 名
普通科	(1,500 名)
看護科	(240 名)
看護専攻科	(160 名)

##### 2. 看護科宣誓式

令和 6 年 7 月 3 日(水)、看護科 2 年生の宣誓式を実施した。宣誓式は、毎年、臨地実習開始前に実施しており、看護師になることを夢見て本校に入学した生徒達は、看護服に身を包み、引き締まった表情で宣誓式に参加した。式典では、「誓いの言葉」を生徒全員で唱和し、新たな決意の下、臨地実習に臨むこととなった。



##### 3. 常用漢字テスト

毎月 1 回、朝の時間を利用し常用漢字テストを実施している。常用漢字テストは、漢字の読み解力や文章の理解力、表現力を高める教育効果があり、生徒達は、各クラスで事前対策を行うなど、真剣に取り組んでいる。



##### 4. カタリナ ミニビブリオバトルを実施

令和 6 年 7 月 8 日(月)、1 年生の各クラスにおいてミニビブリオバトルを実施した。ビブリオバトル(Bibliobattle)は 2007 年に京都大学から広まった輪読会・読書会であり、参加者は、それぞれ自分が推薦する本をプレゼンテーション式に紹介し、書評する。当日は、生徒それぞれが面白いと思った本を持ち寄り、紹介しあい、読書の楽しさなどを学ぶ機会となった。

##### 5. 総合学科1年生 系列研究発表会

令和 6 年 12 月 3 日(火)、総合学科 1 年生の系列研究発表会を実施した。この発表会は、1 学期から取り組んできた進路研究の総まとめとして、それぞれが選択した系列において何を学び、どのような検定を取得できるか、また将来どのような職業に結びつくかなどについて、パワーポイントにまとめて発表した。実行委員の生徒たちは入念な事前準備を行い、円滑な運営のもと発表会を成功させた。発表を通じて、生徒一人ひとりが自身の将来についてより深く考える機会となった。



## 6. 「国際会議 ESD Youth Summit 2024」に参加

令和6年12月21日(土)、愛媛大学附属高等学校で開催された「国際会議 ESD Youth Summit 2024」に、普通科特進コースの生徒2名が参加した。本国際会議は今回で5回目の開催となり、国内15校・国外3校から計198名(うち新規参加者173名)の生徒や関係者が集まった。当日は、午前中に「SDGs ポイントワークショップ」が行われ、「SDGs アイディア商品・サービスの企画」をテーマにしたアクティビティに取り組んだ。午後には、「幼稚園の安全な施設設備とは何か」をテーマに研究発表を行った。参加した生徒は、初対面の高校生たちと協議や発表を行い、普段の高校生活では得られない貴重な経験を積むことができた。



## 7. 探究活動(特進2年生)で商品を共同開発・販売

普通科特進コース2年生は、探究活動の一環として「地域の活性化」を目標に掲げ、株式会社日東物産(スーパー日東)と共同で新商品開発に取り組んだ。開発した商品は「タルから巻き」という名称で、この商品には、第14回からあげグランプリ西日本スーパー惣菜部門において金賞を受賞したスーパー日東の唐揚げをふんだんに使用している。ボリューム満点で食べ応えのある巻き寿司に仕上がった。本探究活動に携わった5名の生徒は、今回の活動を通して、地域との連携の重要性や商品開発における工夫と努力の大切さを学ぶ貴重な経験となった。



## 8. 令和6年度看護師国家試験の結果

令和7年2月16日(日)に実施された令和6年度(第114回)看護師国家試験において、専攻科2年生47名が受験し、46名が合格を果たした。合格率は97.9%となり、全国トップレベルの実績を維持することができた。なお、令和6年度合格率(全国)は90.1%、新卒者の合格率は95.9%だった。

## 9. 令和6年度文部科学大臣優秀教職員表彰

本校の伊藤誉祥教諭が、「令和6年度文部科学大臣優秀教職員表彰」を受けた。この表彰は、教職員の意欲を高め、資質・能力の向上に資することを目的として、全国の国公私立学校(大学、高等専門学校を除く。)の現職の教職員(校長等の管理職を除く。)を対象に、平成18年度から実施されている。令和6年度は、全国で829名(国立20名、公立779名、私立30名)の教職員が表彰された。伊藤教諭は、弓道部顧問としての部活動指導と実績が高く評価され、今回の受賞となった。今後のさらなる活躍が期待される。



## 【学校生活】

### 10. 聖母を讃える集いを実施

令和6年5月30日(木)、全校生徒が参加する「聖母を讃える集い」が実施された。当日は、山口聖智神父様により、「幸せな人になる」をテーマに講演会が開催され、その後、同神父様の司式により祭儀が行われた。例年と順番を入れ替えての実施となり、講演において「ミサの意味」を生徒達が再認識することができ、その後の祭儀では、平和への願いを込めて全校生徒一同が心を合わせてお祈りを捧げるなど厳粛な雰囲気により行われた。



## 11. 体育祭を実施

令和6年5月10日(金)、「令和6年度体育祭」を実施した。本年は、熱中症対策として、開催時期を9月から5月に変更した。当日は、快晴の下行われ、生徒達は真剣に各競技に取り組み、またそれを応援するなど、素晴らしい体育祭となった。入学して間もない新入生は、体育祭を通じてコミュニケーションを深めることができた。



## 12. 火災地震避難訓練を実施

令和6年5月24日(金)、全校一斉の火災地震避難訓練を実施した。訓練では、災害発生時に、生徒達が安全に避難できるよう、避難経路や避難方法を確認し、主体的に行動できる力を身に付けられるよう取り組んだ。このような訓練は、年間において複数回実施しており、様々な災害を想定した訓練を予定している。



## 13. 平和体験学習

令和6年8月5日(月)・6日(火)の2日間、広島平和体験学習が実施された。本活動には、生徒4名と教員2名が参加した。一行は、世界平和記念聖堂で被爆者の証言を聞いたり、平和記念公園にある「原爆の子の像」に千羽鶴を捧げたり、平和記念式典に参加して平和の祈りを捧げるなどして、平和を望む心を共有した。

## 14. 就職懇談会

令和6年6月10日(月)、就職を希望する3年生を対象に就職懇談会を実施した。当日は、令和4年度に卒業し社会人として活躍している3名を招き、仕事のやりがいや就職するまでの苦労話などを伺った。本校では、生徒それぞれが希望する就職先が見つかるよう、丁寧な対応を実施している。



## 15. 就職希望生徒対象「地元交流セミナー」を実施

令和6年12月16日(月)、就職を希望する2年生を対象に「地元交流セミナー」を実施した。当日は、「サンタ株式会社」、「株式会社セブンスター」、「青山商事株式会社」の3社に来校いただき、社会人としての心構えや、就職に向けて必要な取り組みについて話を聞いていただいた。時間を守る大切さや、物事をポジティブに捉える重要性など、現場で活躍する企業人から直接話を聞くことができ、生徒たちにとって貴重な経験となった。



## 16. 大学入学共通テストガイダンスを実施

令和7年1月17日(金)、本年度大学入学共通テストを受験する生徒を対象に、大学入学共通テストガイダンスを実施した。校長は、本校で毎日行われるお祈りの言葉を引用し、「ゆるがない意志を持って受験に臨んでほしい。諦めず、平常心を大切に」と激励の言葉を述べた。また、普通科特進コース主任は、自身の体験談を交えながら励ましの言葉を送った。進学課長からは、共通テストに関する具体的な注意事項や確認事項についての説明があった。生徒たちはガイダンス終了後、市内にある受験会場の下見に向かい、本番に備えた。



## 17. 公安職ガイダンスを実施

令和 7 年 2 月 3 日(月)、公安職ガイダンスを実施した。今回は、松山消防局の消防士および愛媛県警の警察官の方から、それぞれの職務内容ややりがいについてお話を伺うことができた。一般市民の安全と安心を守るために、日々どのような努力を重ねているのか、また現場でのリアルな体験談も交えながら説明していただき、参加した生徒たちは公安職への理解を深めることができました。



## 【地域連携・地域貢献】

### 18. 聖母を讃える集いの日ボランティア活動

令和 6 年 5 月 30 日(木)、「聖母を讃える集い」の後、全生徒による奉仕活動が実施された。生徒たちは様々な奉仕活動を展開した。松山市駅周辺では、令和 6 年能登半島地震の被災地支援のため街頭募金を実施した。生徒達は、募金活動に不安と緊張を感じる中、募金のご協力と温かい言葉に、達成感を覚えると共に、募金活動を通じて、社会の一員としての行動や、他者への思いやりの気持ちを持つことなどを学んだ。



### 19. カリタスの日

本校では、毎月 1 回「カリタスの日」と題したボランティア活動を実施している。「カリタス」は、ラテン語で「愛」を意味する言葉であり、本活動は、カトリック校である本校の伝統行事として続けられている。本活動では、生徒達が家庭における古新聞・古着・ペットボトルのキャップなどのリサイクルできるものを持参し、それらの収益で世界の子どもたちのワクチン接種や貧困・苦境におかれている人々の支援を行っている。



### 20. まつやま花園日曜市に出店

令和 6 年 6 月 23 日(日)、総合学科 3 年生調理系列生徒が「まつやま花園日曜市」に出店した。同イベントは、本校近くにある花園町通りにおいて、松山市及び松山圏域 3 市 3 町が広域連携し、情報発信・物産(産直)品販売などを通じた地方創生イベントとして年に複数回実施されている。当日は、焼菓子販売を行い、生徒達は、商品の検討・試作・ラッピングをはじめ、販売に至る様々な事前準備及び当日のお客様対応など、貴重な経験となった。令和 6 年 9 月 22 日(日)の同イベントにおいても、焼菓子販売を実施し、ご好評につき完売となった。



## 【在校生の活躍】

### 21. 運動部

#### ○女子ソフトボール部

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、準優勝の成績を収め、四国大会の出場権を得た。
- ・「第 73 回四国高等学校ソフトボール選手権大会(四国大会)」において、ベスト 8 の成績を収めた。
- ・「令和 6 年度国民スポーツ大会少年女子ソフトボール競技 四国ブロック予選」において、愛媛県選抜チームとして崎野ひかり選手(普通科 3 年)が出場し、優勝の成績を収めた。崎野選手は、国民スポーツ大会に出場することになった。



## ○弓道部

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、団体戦で優勝(2 年振り 8 回目)し、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第 65 回四国高等学校弓道選手権大会(四国大会)」において、団体戦でベスト 8 の成績を収めた。
- ・「令和 6 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、団体戦に出場した。
- ・「第 78 回国民スポーツ大会弓道競技」において、井門凜選手が愛媛県代表「少年女子」として出場し、「近的競技」で準優勝した。なお、同代表の監督は、本校伊藤誉祥教諭が務めた。
- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校弓道新人大会」において、第 3 位の成績を収め、西日本大会出場権を得た。
- ・「第 22 回四国高等学校弓道新人大会」において、優勝した。
- ・「令和 6 年度第 2 回西日本高等学校弓道大会」において、第 4 位の成績を収めた。



## ○バスケットボール部

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、優勝(22 年連続 29 回目)し、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第 77 回四国高等学校バスケットボール選手権大会(四国大会)」において、第 3 位の成績を収めた。
- ・「令和 6 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、2 回戦(初戦)敗退となった。
- ・「令和 6 年度第 77 回全国高等学校選手権(ウインターフラッシュ)愛媛県予選」において、優勝(7 年連続 29 回目)し、全国高等学校選手権(ウインターフラッシュ)の出場権を得た。
- ・「令和 6 年度第 77 回全国高等学校選手権(ウインターフラッシュ)」において、1 回戦・2 回戦を勝ち進んだものの、3 回戦で京都府の京都聖華学園高等学校に惜しくも敗れた。なお、京都聖華学園高校は今大会で優勝し、3 連覇を達成した。
- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校バスケットボール新人大会」において、優勝(24 年連続 30 回目)した。



## ○ソフトテニス部(女子)

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、団体戦で第 3 位の成績を収め、四国大会の出場権を得た。
- ・「第 72 回四国高等学校ソフトテニス選手権大会(四国大会)」において、団体戦に出場した。

## ○陸上競技部

### [男子]

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、小池京汰選手が円盤投で第 4 位、砲丸投で第 5 位の成績を収め、四国大会の出場権を得た。

### [女子]

- ・「令和 6 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、近藤真巳子選手が砲丸投及び円盤投でそれぞれ優勝、山戸風音選手がやり投で優勝、5000mで稻田真愛選手が第 2 位、400mリレーで第 3 位、3000mで上岡紗代選手が第 3 位の成績を収め、第 6 位までの成績を収めた選手 11 名が四国大会の出場権を得た。また、総合第 2 位(2 年連続)の成績を収めた。

- ・「第 77 回四国高等学校陸上競技対校選手権大会(四国大会)」において、稻田真愛選手が 5000mで第 2 位(2 年連続)、近藤真巳子選手が円盤投で第 3 位、400mリレーで第 3 位の成績を収め、山戸風音選手がやり投で第 5 位、400mリレーで第 6 位の成績を収め、11 名の選手が全国総体(インターハイ)の出場権を得た。



- ・「令和6年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、11名の選手が出場した。
- ・「第36回全国高等学校駅伝競走大会 愛媛県予選会」において、第2位の成績を収めた。
- ・「第36回四国高等学校駅伝競走大会」において、第3位の成績を収め、四国地区代表として「全国高等学校駅伝競走大会(京都 都大路)」への初出場を決めた。
- ・「第36回全国高等学校駅伝競走大会(京都 都大路)」において、四国代表として初出場し、42位の成績を収めた。
- ・「全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」において、本校から上岡紗代選手(5区)と井門萌選手(6区)が愛媛県代表として出場し、第17位の成績を収めた。また、4区には本校卒業生の福田美空選手(愛媛銀行)が出場し、チームに貢献した。
- ・「第36回選抜女子駅伝北九州大会」に出場し、総合14位の成績を収めた。



#### ○新体操部

- ・「令和6年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、団体で優勝の成績を収め、8年振りに全国総体(インターハイ)の出場権を得た。また、個人総合では、島崎もも選手が2年連続で優勝の成績を収め、全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「令和6年度 第72回四国高等学校体操競技選手権大会(四国大会)」において、団体で優勝の成績を収めた(8年振り17度目)。また、個人総合では、島崎もも選手が2年連続で優勝の成績を収めた。
- ・「令和6年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、島崎もも選手が個人総合で第2位、団体で第19位の成績を収めた。
- ・島崎もも選手が、新体操日本ナショナル強化選手(日本体操協会)に選出され、ポルトガルで開催された「WCC ポルチマン大会 2024(令和6年5月10日～12日)」に、日本代表の一人として出場した。
- ・「SASAKICUP 第22回全日本新体操ユースチャンピオンシップ(令和6年5月24日～26日)」において、島崎もも選手が個人総合で第3位の成績を収め、11月に行われる全日本新体操選手権への出場権を得た(2年連続)。
- ・「第77回 全日本新体操選手権大会(令和6年11月8日～10日)」において、島崎もも選手が個人総合で第6位の成績を収めた。
- ・「第40回全国高等学校新体操選抜大会(令和7年3月21日～23日)」において、島崎もも選手が個人総合で優勝した。種目別ではボール・リボンで1位、フープ・クラブで2位となり、初の全国制覇を果たした。



#### ○体操競技部

- ・「令和6年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、清家梨夢選手が個人総合で第2位の成績を収め、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「令和6年度 第72回四国高等学校体操競技選手権大会(四国大会)」において、清家梨夢選手が個人総合で第3位の成績を収めた。
- ・「令和6年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、清家梨夢選手が出場した。
- ・「令和6年度愛媛県高等学校新人大会」において、団体で優勝の成績を収めた。また、個人総合では、玉井陽向選手が第3位の成績を収めた。



## ○硬式野球部

- ・第 106 回全国高等学校野球選手権大会(愛媛大会)において、決勝戦で、西条高等学校に 7 対 6 で勝利し、創部 9 年目で夏の甲子園に初出場することとなった。
- ・令和 6 年 8 月 10 日(土)、第 106 回全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)において、岡山県代表 岡山学芸館高等学校と 1 回戦を戦い、0-1 で惜敗した。試合当日は、1,400 人を超える大応援団となり、1 垒側アルプススタンドがチームカラーの赤で染められ、圧巻の景色であった。設置校からも愛媛・愛知・京都から 100 名を超える教職員とご家族が駆けつけ、プラスバンド応援では、全国大会常連校として知られる光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部から、現役部員・OG 部員 26 名が演奏に加わるなど、来年(2025 年)の学校法人創立 100 周年に向け、学園が一体となる機会になった。
- ・令和 6 年 10 月 24 日(木)、2024 年プロ野球ドラフト会議において、有馬恵叶選手(投手)が、セ・リーグ中日ドラゴンズから 6 位指名を受けた。令和 6 年 11 月 26 日(火)には、仮契約を結び、昨年の河内 康介投手(オリックス・バファローズ)に続き、本校2人目となる NPB プロ野球選手が誕生した。有馬恵叶選手の今後の活躍に期待する。



## ○愛媛 FC U-18 ※愛媛 FC 様と連携協定を締結

- ・四国地区予選を勝ち抜き、令和 6 年 7 月 22 日(月)～31 日(水)、山口県等で開催された「第 48 回日本クラブユースサッカー選手権大会」に出席した。
- ・令和 6 年 9 月 12 日(木)～16 日(月)、新潟県で開催された「第 26 回国際ユースサッカー in 新潟」において、愛媛 FC に所属する島佑成選手が U-17 日本代表として出場した。日本代表は、2 勝 1 分で大会優勝の成績を収めた。
- ・愛媛 FC に所属する石原拍選手が、U-15 日本代表候補に選出され、9 月に行われた国内トレーニングキャンプに参加した。
- ・令和 6 年 11 月 26 日(火)、島佑成選手(2 年生)が、愛媛 FC とプロ契約を締結した。愛媛 FC においては、高校在学中の選手とのプロ契約は初めてとなる。島選手は、2025 シーズンも愛媛 FC U-18 に所属し、J リーグ公式戦に出場可能な 2 種登録選手として、プロチームのトレーニングに参加する予定である。



## ○愛媛 FC レディース MIKAN

- ・令和 7 年 1 月 17 日(金)、田子夏海選手(3 年生)がセレッソ大阪ヤマーレディースとプロ契約を締結した。田子選手は高校進学と同時に愛媛 FC レディース MIKAN に入団し、なでしこリーグに出場、新人賞を受賞するなど、愛媛 FC レディース MIKAN において活躍した。



## 【高大連携】

### 22. 第 59 回松山野球拳おどりに参加

令和 6 年 8 月 10 日(土)、第 59 回松山野球拳おどりに、聖カタリナ学園高校及び聖カタリナ大学(短大)の学生生徒で構成する『聖カタリナ学園連』として参加した。当日は、学生生徒約 50 名が参加し、精いっぱいの演技を披露した。また、演者だけではなく、観客の皆様と共に皆で楽しみ、盛り上がることができ、その結果、優秀賞「テレビ愛媛賞」を受賞した。



## 【生徒募集・広報活動】

### 23. 学校・入試説明会を開催

#### ○学校説明会

令和6年5月17日(金)から7月9日(火)の間、各中学校(県内50校)が実施する私立高校合同説明会に、教員を派遣した。

#### ○体験学習会

令和6年7月30日(火)・31日(水)・8月23日(金)・27日(火)・28日(水)の5日間、来年受験を迎える中学生を対象に「夏休み体験学習・見学会」及び「部活動体験会」が実施され、5日間で897名の参加を得た。生徒たちは学科別に設けられた授業体験コーナーにそれぞれの興味や希望に応じて参加した。「部活動体験会」では、運動部・文化部それぞれにおいて、デモンストレーションや、体験入部を実施した。

### 24. 普通科特進コース勉強会を実施

令和6年12月14日(土)、令和7年1月11日(土)、2月1日(土)の3日間、受験を控えた中学生を対象に「普通科特進コース勉強会」を実施した。参加した中学生たちは、受験対策として各教科の授業を受講し、問題を解く際のポイントや効果的な解法について学んだ。また、本校教員が一人ひとりの質問や不安に丁寧に対応し、受験生にとって非常に有意義な機会となった。



## 【その他】

### 25. 本校卒業生(宮崎早織選手)が「パリ2024オリンピック」に出場

本校卒業生の宮崎早織選手(ENEOS所属)が、「パリ2024オリンピック」に女子バスケットボール日本代表として出場した。また、令和6年8月1日(木)、パリ五輪バスケットボール女子の1次リーグ・ドイツ戦が行われ、宮崎早織選手を応援するため、校内においてパブリックビューイングを実施した。当日は、女子バスケットボール部の部員をはじめとする生徒・教職員約100人が熱い声援を送った。



### 26. 本校卒業生(宮崎早織選手)が来校

令和6年12月2日(月)、本校卒業生であり、女子バスケットボール日本代表として活躍されている宮崎早織選手(ENEOS所属)が来校された。宮崎選手は、バスケットボール皇后杯への出場に伴い愛媛県を訪問された折に本校を訪れ、同月に開催される全国高等学校選手権大会(ウインターカップ)に出場するバスケットボール部の後輩たちに激励の言葉を贈られた。



## 《京都聖カタリナ高等学校》

### 【教育】

#### 1. 改組検討

中学生の多様な学習ニーズ等を踏まえ、普通科の抜本的改革を検討している。また、柔軟で個別対応の学習機会を提供し、現代の多様な生徒のニーズに応えられるよう、広域通信制課程単位制普通科の新設を検討している。令和6年9月24日(火)、キックオフミーティングを行い、また、毎週火曜日に通信制新設プロジェクトミーティング、木曜日に普通科改編プロジェクトミーティングを実施している。いずれも学内において丁寧な検討の上、申請手続等を進めていくこととする。

#### 2. フィールドワークを実施

2年生日本史探究・世界史探究履修の生徒達が、南丹市立文化博物館においてフィールドワークを実施した。生徒達は、博物館の所蔵物を見る、或いは実際に触るなど、興味深い体験となった。フィールドワークは、教科書や授業では得られない貴重な学びの機会であり、また、主体的な学びの姿勢が育ち、社会で必要とされる資質が養われることから、今後も教育の一環として組み込むこととする。



#### 3. 職業体験を実施

令和6年7月12日(金)、普通科1・2年生が、株式会社ジンジブ様のコーディネイトによる職業体験を実施した。生徒達は、明星観光バス株式会社様を訪問させていただき、事務職、ドライバー職、バスガイド職について、事務の仕事内容やドライバーの方による大型バスの運転技術の披露、バスガイドさんの指導によるガイド体験、西本願寺のガイドツアーエンターテイメントなどを経験した。職業体験は、キャリア教育や自己成長において重要であり、これをきっかけに進路を見直したり、新たな目標を設定したりする生徒も多く、非常に効果的なプログラムと言える。



#### 4. 芸術鑑賞会を実施

令和6年4月26日(金)、芸術鑑賞会を実施した。本年は、京都劇場にて劇団四季『ジーザス・クライスト＝スーパースター』を鑑賞した。本校では、情操の育成として、毎年このような取り組みを実施している。

#### 5. 租税教室を開催

令和6年7月3日(水)、近畿税理士会園部支部から平井明彦氏を講師としてお招きし、2年生を対象に租税教室を開催した。当日は、より身近な消費税から日本の歳入と歳出の現状を一緒に考え、税金の仕組みやその重要性について学んだ。



#### 6. 公衆衛生看護活動に関する講演を実施

令和6年10月11日(金)、看護専攻科5年生を対象に、スリランカ・タンザニアでの公衆衛生看護活動に関する講演を実施した。講師は、NGOや赤十字、JICAを通じた国際看護活動の経験を、映像を交えて紹介した。難民キャンプで乳幼児が栄養不足により5歳までしか生存できない現状に触れ、医療格差の深刻さを実感した。また、英語や現地語を駆使して行った難民支援活動や、日本人らしい細やかな心配りについての話から、語学力と人間性の重要性を改めて認識する機会となった。さらに、アメリカと日本の医療制度の違いについても理解を深められた。



## 7. 「子ども保育系」幼稚園体験実習

本校隣接の聖家族幼稚園において、「子ども保育系コース」の体験実習を実施した。生徒は2組に分かれ、2歳児の部屋と5歳児の教室でそれぞれの活動に参加した。生徒たちは、園児と触れ合いながらサポートを行い、遊びを通して交流を深めるなど、有意義な時間を過ごすことができた。3年次に「子ども保育系」を選択した場合には、進路選択を見据えたより実践的な実習に取り組むこととなる。今回の実習は、保育者の視点から子どもと関わる貴重な体験を得ることができた。



## 8. 防災教育を実施

令和6年12月10日(火)、看護科5年生を対象に防災教育を実施した。講師として、自衛隊京都地方協力本部亀岡募集案内所および福知山地域事務所所属の自衛官4名を招いた。初めにスライドを用いて、自衛隊の役割と活動について説明を受けた。自衛隊は国防、災害派遣、国際平和協力を任務とし、災害時には情報収集力、輸送力、機械力、生活支援力を活かして人々の安全を守っていることを学んだ。続いて、ロープワークや救護法などを実技を交えて習得した。能登半島地震での活動報告もあり、私たちが安心して防災学習に取り組めるのは、自衛隊の支えによるものであると実感した。



## 9. 令和6年度看護師国家試験の結果

令和7年2月16日(日)に実施された令和6年度(第114回)看護師国家試験において、専攻科2年生28名が受験し、27名が合格した。合格率は96.4%となり、昨年(100%)に続き高い合格率を維持した。なお、令和6年度の全国合格率は90.1%、新卒者の合格率は95.9%であり、本校の合格率は全国平均を上回る結果となった。

## 【学校生活】

### 10. 聖母を讃える集いを実施

令和6年5月30日(木)、「聖母を讃える集い」が実施された。当日は、全生徒がマリア様にお祈りし、花束をさげ、「聖母月」を祝福した。また、「聖母を讃える集い」で使用した花々は、生徒会メンバーより、南丹市役所・社会福祉協議会・地域包括支援センター・南丹保健所などに贈呈された。

### 11. 開校記念ミサを実施

令和6年5月1日(水)、開校記念ミサが開催された。ミサは、モンテロ・G・ホルヘ神父様の司式により行われ、生徒たちは、聖歌を声に出して歌い、開校をお祝いした。



### 12. 学園祭を開催

令和6年9月13日(金)・14日(土)、学園祭が開催された。1日目は、ホールにおいてステージ発表があり、クラスによる劇、合唱、ダンス披露や、吹奏楽部、放送部、ダンス同好会による発表があった。2日目は、一般公開され保護者をはじめとする多くの方々が来校し、クラスによる展示や模擬店において賑わいを見せた。

### 13. フレッシュセミナーを実施

令和6年5月1日(水)、毎年実施している新入生を対象にしたフレッシュセミナーが実施された。セミナーでは、暮林響神父様によるミサ及びカトリック講話があった。生徒達は、神父様の講話等を通じて、本校でのキリスト教の在り方、考え方、学校生活への心構えなどを学んだ。

#### 14. 薬物乱用防止教室を開催

令和 6 年 7 月 17 日(水)、京都ダルクの出原和宏氏を講師としてお招きし、1 年生を対象に薬物乱用防止教室を開催した。生徒達は、薬物使用の危険性やその影響等について学ぶこととなった。



#### 15. KBS 京都ラジオ「おしゃべりランチタイム！」に出演

令和 6 年 7 月 3 日(水)、生徒会より 2 名の生徒が、KBS 京都ラジオの「京都府私立中高おしゃべりランチタイム！」の番組に出演した。生徒達は、約 5 分間のインタビューにおいて、学校の魅力などについて話をした。

#### 16. 進路指導・キャリア支援の充実

生徒一人ひとりに合った進路決定を援助するため、以下のような対応を行った。

##### ○夏期講習会及び夏の学習会を実施

令和 6 年 7 月 22 日(月)より、1 年生から 3 年生の大学進学希望者を対象に学習会を実施した。その他、近隣大学との出張授業、体験授業の案内を行った。

##### ○土曜日進路学習会を実施

土曜日(ほぼ毎週)に 1 年生から 3 年生を対象の学習会を実施。学習会では、受験対策や検定対策など、各自の課題に取り組んでおり、学習意欲を高める動機付けとなっている。

##### ○習熟度別授業や補習を実施

生徒一人ひとりの学力レベル等に応じた習熟度別授業(普通科 1 年次より、国語・数学・英語)や補習(普通科・6 月より 7 限)を実施し、学力レベル等に応じて、細やかな対応に努めた。

##### ○個人面談等を実施

- ・進路指導部長による個人面談を実施した。
- ・スクールカウンセラーによる生徒・保護者対象のカウンセリングを実施した(適宜)。

##### ○キャンパスツアーを実施

1 年生及び 2 年生は、花園大学と京都調理師専門学校を訪問し、模擬授業を受講するなど、大学や専門学校の雰囲気を体験し、進学への意識を持つこととなった。

#### 17. 地震防災訓練を実施

令和 7 年 1 月 31 日(金)、隣接する聖家族幼稚園と合同で地震防災訓練を実施した。今年は、阪神・淡路大震災から 30 年の節目を迎える。校長から、当時の震災の記憶や教訓を次世代につなぐために、「備え」と「心の準備」、そして「命を守る行動」について講話があった。災害は、いつ起こるか分からないことから、いつ起こっても対応できるよう備えを強化し、防災意識を高めることが重要であると再認識した。



#### 18. 御御堂訪問

令和 7 年 2 月 19 日(水)、卒業を控えた 3 年生が、本校敷地内にある聖ドミニコ宣教修道女会園部修道院の御堂を訪問した。シスターからお祈りに関する話を聞いた後、静かに祈りを捧げた。



## 【地域連携・地域貢献】

### 19. 令和 6 年能登半島地震募金活動

令和 6 年 6 月 12 日(水)～19 日(水)、生徒会による令和 6 年能登半島地震の被災地支援のための募金活動を実施した。期間中、教室に募金箱を設置し、また登校時に中庭で呼びかけを行い、多くの生徒達や教職員の協力により、25,110 円の募金が集まった。この募金は南丹市を通じて、被災地支援に役立てられる。



### 20. 南丹警察署署長様から感謝状を拝受

令和 6 年 7 月 2 日(火)、南丹警察署署長様から感謝状を拝受し、本校にて贈呈式をしていただいた。この感謝状は、本校で行う「聖母を讃える集い」の際にお送りした花束が、署内の美化に貢献したことによるもので、コロナ禍で中断した時期を除き、十数年に渡りお花を届けてきたことを大変喜んでいただいている。今後も、様々な形で地域貢献に努めたい。



### 21. 制カバンを寄付

現在使用していないモデルチェンジ前の制カバンの在庫の有効活用について、南丹市社会福祉協議会のご協力の下、特定非営利活動法人カワセミクラブ様を通じて海外(フィリピン)に寄付することとなった。



### 22. ジュニア全日本自動車競技選手権大会ロードレースにおけるボランティア活動

令和 6 年 6 月 30 日(日)、ジュニア全日本自動車競技選手権大会ロードレースに、生徒 4 名が熱中症防止の啓発活動を実施した。



### 23. 京都サンガ F.C. ホームゲームにて熱中症防止啓発活動

令和 6 年 8 月 7 日(水)、昨年に続き、Jリーグプロサッカーチーム「京都サンガ F.C.」のホームゲームにて、京都サンガ F.C. のボランティアとして、看護専攻科の生徒が、熱中症防止の啓発活動を行った。本校は、京都サンガ F.C. のサポートカンパニーであり、本活動は 3 年目となる。



## 【生徒募集・広報活動】

### 24. オープンキャンパスを開催

令和 6 年 6 月 15 日(土)、令和 7 年度入学予定者を対象に「第 1 回オープンキャンパス」を開催し、34 組の参加者(中学生とその保護者)を得た。当日は、各科の授業体験やクラブ体験、在校生との交流など工夫を凝らした催しで中学生を迎えた。本年は、全 4 回のオープンキャンパスを開催した。



### 25. 私学フェア KYOTO に参加

令和 6 年 6 月 8 日(土)・9 日(日)、みやこめっせ(京都市勧業館)において開催された「私学フェア KYOTO」(京都府私立中学高等学校連合会主催)に参加した。本イベントは、京都府内の私立中学・高等学校を紹介する恒例イベントであり、府内私立中学・高等学校 40 校のうち 35 校が参加した。当日は、本校ブースには 52 組の相談者(中学生とその保護者)が訪れた。また、生徒発表ステージでは、本校生徒が動画に合わせた学校説明を行った。

## 26. 京都私立中学・高校展に参加

令和 6 年 8 月 31 日(土)・9 月 1 日(日)の 2 日間、みやこめっせ(京都市勧業館)において、「第 38 回京都私立中学・高校展」(京都府私立中学高等学校連合会及び京都新聞主催)が開催された。本イベントは、小学生・中学生及び保護者対象の入試・入学相談会であり、本年で第 38 回となる。当日は、個別相談コーナーを設け、本校ブースには 2 日間で 19 組の相談者(中学生とその保護者)が訪れ入試情報の提供を行った。

## 27. 中学校を個別訪問

本校教員が近隣中学校を個別訪問し、本年度の入試結果や入学生の現状、卒業生の進路実績等を報告したほか、オープンキャンパスの案内・参加御礼、中学校合同入試説明会の案内を行うなど、中学校との関係づくりに努めた。

## 28. 看護職就職・就学合同フェアに参加

令和 7 年 3 月 20 日(木)、みやこめっせ(京都市勧業館)において開催された「看護職就職・就学合同フェア」(主催: 京都府・公益社団法人 京都府看護協会)に参加した。本イベントは、看護職を目指す学生や社会人に対して、進学・就職に関する情報を提供することを目的に開催されたものである。本校からは看護科教員と生徒が参加し、ブースにて学校紹介を行った。来場者には教育内容や特色、進路実績などを紹介し、多くの関心を集めた。



## 【教育環境整備】

### 29. 教育環境整備を実施

中・長期経営計画の下、年次計画により教育環境整備を実施している。本年度においては、  
・理科室教具整備(理科教育設備整備費等補助金を活用)  
などを実施した。今後も、各種補助金を活用し、教育環境整備に努めることとする。

## 【その他】

### 30. 卒業生(尾上毬乃さん)が国際大会 3 位入賞

本校卒業生の尾上毬乃さんが、フィリピンで行われたエアリアルスポーツの国際大会「International Aerial Cup 2024」において、エアリアルフープで 3 位入賞の成績を収めた。エアリアルフープは、空中に吊るされたリング(フープ)を使い華麗に舞う競技であり、エアリアルリング(Aerial Ring) やエアリアルライア(Lyra)とも呼ばれる。フープ上で様々なポーズを魅せる演技には、高い身体能力と表現力が求められ、競技者たちは技術と芸術性を競い合う。



## 《光ヶ丘女子高等学校》

### 【教育】

#### 1. 教育内容の見直し

生徒募集状況や生徒達を取り巻く進学に関わる様々な変化を受けながら、今までの教育への取り組み方などを見直した。また、公立高校はもちろんのこと他の私学とも異なる光ヶ丘教育の独自性を目指していくよう、特に国際教養科・普通科の福祉コース、そして本校が注力する SDGs とESDクラブの取り組みを本校の新たな挑戦として位置付け推進することとしている。

#### 2. 教員研修を実施

##### ○新任教員研修

令和 6 年 4 月 1 日(月)、辞令交付後、本年度新たに採用された教員を対象に新任教員研修を実施した。また、令和 6 年 4 月 18 日(木)から 24 日(水)の間、新任教員の研究(公開)授業を実施した。研究(公開)授業は、新任教員の授業スキルを高めるために効果があり、毎年実施している。



##### ○現職教育

令和 6 年 6 月 13 日(木)、進路指導部主催により、専任教員と常勤講師を対象に、第一学習社から講師を招き、小論文指導講習を行った。本校では、推薦型選抜により大学進学を目指す生徒が多く、小論文指導を重視している。

#### 3. 高大連携

##### ○南山大学と高大連携に関する協定を締結

令和 6 年 7 月 22 日(月)、本校と南山大学は、高大連携に関する協定を締結した。南山大学には、毎年多くの生徒が進学しており、本連携の下、同じカトリック学校として、幅広い教養と高い専門性を持った、国際社会におけるリーダーとなり得る優秀な人材を育成することを目指している。



##### ○中部大学と高大連携に関する協定を締結

令和 7 年 3 月 19 日(水)、本校と中部大学は、高大連携に関する協定を締結した。今後は、この連携のもと、生徒・学生・教員の相互交流を活発に行い、進路に対する意識や学習意欲の向上を図っていく。



### 【学校生活】

#### 4. 開校記念ミサを実施

令和 6 年 4 月 24 日(水)、開校記念ミサが開催された。ミサは、ユ・チョンピル神父様の司式により行われ、生徒たちは、聖歌を声に出して歌い、開校をお祝いした。また、今年度は保護者に公開された。



#### 5. 聖母を讃える集いを実施

令和 6 年 5 月 31 日(金)、「聖母を讃える集い」が実施された。当日は、全校生徒が参加し、モルク神父様の司式により祭儀が行われ、全校生徒一同が心を合わせてお祈りを捧げた。

#### 6. 保護者ガイダンスを開催

令和 6 年 4 月 13 日(土)、3 年生の保護者を対象に、進路ガイダンスを開催した。進学率の高い本校において、保護者の進路に係る関心度は非常に高く、160 名の保護者が参加した。

## 7. 芸術鑑賞会を実施

令和 6 年 5 月 2 日(木)、芸術鑑賞会を実施した。本年は、名古屋四季劇場にて劇団四季ミュージカル『キャッツ』を全校生徒で鑑賞した。本校では、情操の育成として、毎年このような取り組みを実施している。



## 8. 文化祭実施

令和 6 年 9 月 13 日(金)・14 日(土)、文化祭を実施した。一般公開日である土曜日には、約 1,700 人が来場し盛況であった。

## 9. 体育祭を実施

令和 6 年 9 月 20 日(金)、令和 6 年度体育祭を実施した。酷暑の中の実施となつたが、熱中症になる生徒もなく、無事に終了した。

## 10. 練成会を実施

令和 6 年 10 月 16 日(水)・17 日(木)、愛知県旭高原自然の家において練成会を実施した。練成会は、1 年生が参加する学年合宿として毎年行われている。当日は、神父の講話やさまざまなレクリエーションが行われ、2 日間にわたり濃密な時間を過ごした。友人との絆が深まる同時に、自己を見つめ直す機会ともなった。



## 11. 国際教育講演会を実施

令和 7 年 3 月 14 日(金)、国際教育講演会を実施した。講師には、国境なき医師団の室町知隆氏を迎えて、「誰かを笑顔に～薬剤師の経験を現地の医療援助へ～ナイジェリアでの活動から」をテーマに講演を行った。講演では、紛争地域における医療活動や人道支援の現場について、室町氏自身の体験を交えながら語られた。生徒たちはその話に真剣に耳を傾け、人道支援の重要性について深く考える機会となつた。また、国際社会での貢献について理解を深めるとともに、将来への新たな目標や意欲を芽生えさせる貴重な時間となつた。



## 【地域連携・地域貢献】

### 12. 放送部・吹奏楽部に愛知県警察本部より感謝状贈呈

交通安全活動を積極的に推進したとして、愛知県警察本部より、放送部と吹奏楽部に感謝状が贈呈された。放送部は、愛知県警岡崎警察署の依頼により、昨年夏の交通安全運動のアナウンスを放送部が担当した。また、吹奏楽部は、昨年 9 月 17 日に岡崎自動車学校で行われた交通博に参加し、交通安全啓発活動を盛り上げた。本校における学びや部活動の成果が発揮することができ、生徒達にとって良い経験となつた。



### 13. 岡崎市立小豆坂小学校において合唱披露

令和 6 年 5 月 22 日(水)、岡崎市立小豆坂小学校音楽鑑賞会において、合唱部がゲスト参加し、本格的な合唱曲からポップス曲まで 7 曲を演奏した。



#### 14. 岡崎市立額田中学校において演奏披露

令和 6 年 9 月 28 日(土)、岡崎市立額田中学校芸術鑑賞会において、吹奏楽部がゲスト参加し、コンクール曲やポップス曲などを演奏した。

#### 15. 吹奏楽応援プロジェクト CECIL(セシル)による特別演奏会を実施

令和 6 年 9 月 29 日(日)、岡崎市民会館において、吹奏楽部の卒業生により立ち上げられた吹奏楽応援プロジェクト「CECIL」による特別演奏会が実施された。また、令和 7 年 2 月 24 日(月・祝)には、本校ダンス部卒業生で「千と千尋の神隠し」や「SPY×FAMILY」などのミュージカル舞台で活躍中の森田茉希さんをゲストに迎えて特別演奏会が実施された。CECIL は本校吹奏楽部の卒業生、顧問、有志部員を中心に組織され、様々な理由により部活動の機会が減った小学生や中学生などに音楽を楽しむ機会を作ることを目的に活動を行っている。

#### 16. 令和 6 年能登半島地震におけるボランティア活動

令和 6 年 8 月 5 日(月)～7 日(水)、エンジェル部・点訣部の有志 23 名が、本年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震において被災した石川県輪島市町野町の農家でボランティア活動を行った。本ボランティア活動は、岡崎城西高校インタークトクラブと合同で企画され、総勢 36 名が石川県羽咋市の国立能登青少年交流の家に合宿し、2 泊 3 日の日程で行われた。生徒達は、車が横転した状態や全壊した建物など、未だ生々しく残る震災の爪痕を次々と目の当たりにし、言葉を失いながらも、訪問した農家において、損壊した家屋の家財の片付け、畑の草刈り、畑へのイノシシ侵入防止のための電気柵取り付けなどの作業を行った。生徒達は、災害を自分事と捉え、被災地域に想いを重ねることとなった。被災された皆さまに対し、心よりお見舞い申し上ると共に、一日も早く復旧・復興がなされるよう祈念する。



#### 17. 令和 6 年能登半島地震募金活動

令和 6 年 9 月 27 日(金)、エンジェル部・点訣部が、名鉄東岡崎駅において、令和 6 年能登半島地震の被災地支援のための街頭募金活動を実施した。両部は、8 月に現地において、岡崎城西高校インタークトクラブと合同で災害ボランティアを実施し、本募金活動も、同校と合同で実施した。

#### 18. 家康行列に参加

令和 6 年 4 月 7 日(日)、「第 65 回家康行列」において、エンジェル部がプラカードとして参加した。「家康行列」は、艱難辛苦のすえ天下統一し、徳川 260 有余年の平和の礎を築いた徳川家康公の遺徳をしのぶとともに、徳川四天王をはじめとする三河武士団の事績を讃えるために行われ、選考会で選ばれた家康公などの武将役・姫役をはじめ、市民キャスト総勢 700 人が岡崎の街を練り歩き、岡崎市の伝統イベントとして定着している。



#### 19. 福祉施設で合唱コンサートを実施

令和 7 年 2 月 1 日(土)、高年者センター岡崎で合唱部のウインターコンサートが行われた。当日は、合唱曲やポップス曲、ハンドベル演奏など、10 曲を披露した。コンサート後には、同施設内のデイサービスを訪れ、1 曲を披露した。参加した高年者の方々と共に音楽を楽しみながら、温かい交流の時間を過ごすことができた。



## 20. SDGs・ESDへの取り組み

### ○「SDGs 教養講座 光ヶ丘リベラルアーツ・カフェ」を実施

今年度より、「SDGs 教養講座 光ヶ丘リベラルアーツ・カフェ」の取り組みを始めた。

この「リベラルアーツ・カフェ」では、全校生徒を対象に自由参加型で募集し、アッショナリティ、伝統工芸、リサイクル、インテリア、宇宙開発、観光、食など、百花繚乱のテーマについて、その分野の課題とサステナビリティの構築に向けて挑戦的な取り組みをされているゲストを招き、講演やワークショップなどをを行うこととしている。上半期においては、5回実施され、参加した生徒達は、ゲストそれぞれの特徴ある取り組みに触れ、普段の授業や部活動では得られない学びを得ることとなった。



また、「カフェ」と銘打っていることから、毎回「SDGs なドリンクやフード」についても紹介し、その試飲や試食なども展開している。

### ○ESDクラブが「こども万博 2024 in 愛知」に出店

ESD クラブにおいて、アッショナリティのサステナビリティなどに取り組む「アップアッショナリティ・プロジェクト」の生徒達が、愛知県国際展示場 Aichi Sky Expo で開催された「こども万博 2024 in 愛知」においてブース出展した。出展は、蒲郡市に本社を置きカーテン専門店サンレジンなどを展開するサンローズ株式会社の協力を得て実施したもので、カーテンのハギレを用いてブースの装飾を行ったほか、レースカーテンのハギレをアップサイクルして制作したウェディングドレスなどの展示も行った。



## 【在校生の活躍】

### 21. 運動部

#### ○ダンス部

- ・令和 6 年 7 月 25 日(木)、「第 17 回 日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会 東海大会」のビッククラスに出場し、優勝の成績を収め、8 月に開催される全国大会の出場権を得た。
- ・令和 6 年 8 月 9 日(金)、「第 36 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」において、「未来への風を運ぶ 一鳥天狗一」の作品で挑んだ本校ダンス部が、奨励賞を受賞した。
- ・令和 6 年 8 月 16 日(金)、「第 17 回 日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会」のビッククラスに出場し、第 7 位の成績を収め、決勝への出場権を得た。
- ・令和 6 年 9 月 28 日(土)、毎年恒例で、本年で 36 回目となる「ダンス部作品発表会」を刈谷市総合文化センターで開催した。当日は、約 1,600 人が来場し盛況であった。



#### ○ソフトボール部

- ・令和 6 年 5 月 25 日(土)から開催された「第 78 回愛知県高等学校総合体育大会(県大会)」において、第 3 位の成績を収めた。
- ・「令和 6 年度愛知県新人体育大会西三河支部予選会」において、昨年に続き優勝し、地区優勝校シードとして県大会に出場する権利を得た。
- ・令和 6 年 10 月 26 日(土)から開催された「令和 6 年度愛知県高等学校新人体育大会(県大会)」において、第 3 位の成績を収めた。
- ・令和 6 年 11 月 9 日(土)・10 日(日)に開催された「令和 6 年度愛知県私学祭ソフトボール大会」において、第 2 位の成績を収めた。



## ○陸上部

- ・令和6年5月25日(土)から開催された「第78回愛知県高等学校総合体育大会(陸上競技)」において、児玉彩花選手が800mで第3位、1500mで第2位の成績を収め、東海大会への出場権を得た。
- ・令和6年6月14日(金)から開催された「第71回東海高等学校総合体育大会(陸上競技)」(東海大会)において、児玉彩花選手が1500mで第1位、800mで第5位の成績を収め、両種目で全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・令和6年7月21日(日)から開催された「令和6年度全国高等学校総合体育大会(陸上競技)」(インターハイ)において、児玉彩花選手が800メートルで第4位、1500mで第10位の成績を収めた。



## 22. 文化部

### ○吹奏楽部

#### [地区大会]

- ・令和6年8月3日(土)、「2024年度愛知県吹奏楽コンクール(県大会)」において金賞を受賞し、代表選考会への出場が決定した。



- ・令和6年8月9日(金)、「2024年度愛知県吹奏楽コンクール代表選考会」にて朝日新聞社賞を受賞し、東海吹奏楽コンクールへの出場が決定した。

- ・令和6年8月25日(日)、「2024年度第79回東海吹奏楽コンクール」において金賞及び朝日新聞社賞(第1位)を受賞し、10月に開催される全国大会(22回目)への出場が決定した。

- ・令和6年7月28日(日)、「第67回中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会」において、金賞を受賞し、10月に開催される本大会への出場が決定した。

- ・令和6年9月23日(月)～27日(金)、「第30回日本管楽合奏コンテスト」の予選審査会(非公開)において、優秀な成績を収め、全国大会への出場が決定した。

- ・令和6年10月6日(日)、「第67回中部日本吹奏楽コンクール本大会」において、金賞を受賞(チームリリ一)した。

- ・令和7年1月25日(土)、「2024年度愛知県アンサンブルコンテスト(県大会)」に3チーム(クラリネット四重奏・金管八重奏・サクソフォン四重奏)が出場し、3チーム共に金賞を受賞した。金管八重奏については、東海大会への出場が決定した。

- ・令和7年2月9日(日)、「第51回東海アンサンブルコンテスト(東海大会)」に金管八重奏が出場し、金賞を受賞した。

#### [全国大会]

- ・令和6年10月20日(日)、「第72回全日本吹奏楽コンクール」において、銅賞を受賞した。

- ・令和6年10月27日(日)、「第30回日本管楽合奏コンクール」において、最優秀賞及び観客投票最多賞を受賞した。



- ・令和6年11月10日(日)、「第26回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜【ライブ部門】」において、金賞にあたる連盟会長賞を受賞した。また、特別賞として横浜市長賞及び文部科学大臣賞(優勝)を受賞した。

- ・令和7年3月23日(日)、「第37回全日本高等学校選抜吹奏楽大会」において、ゴールデン賞を受賞した。

- ・令和7年3月23日(日)、「第37回中日個人重奏コンテスト本大会」においてコントラバスの寺西彩音とバスーンの隅田遙が銀賞を受賞した。

#### [その他]

- ・令和6年8月10日(土)、第106回全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)において、設置校である聖カタリナ学園高等学校が岡山県代表 岡山学芸館高等学校と1回戦を戦った。本校からは、生徒(現役生・OG)・教職員・保護者55名が応援に参加した。そのうち26名の本校吹奏楽部現役部員及



びOG部員がプラスバンド応援に加わり、1,400人を超える大応援団を支え、熱い演奏を披露した。

#### ○合唱部

- ・令和6年8月4日(日)、「第64回愛知県合唱コンクール」において、金賞を受賞し、中部大会への出場が決定した。
- ・令和6年9月28日(土)、「第77回中部合唱コンクール」において、金賞を受賞した。



#### ○放送部

- ・令和6年6月23日(日)、「第71回NHK杯全国放送コンテスト愛知県大会」において、アナウンス部門で保田杏さんが最優秀賞(第1位)、朗読部門で野田真子さんが優秀賞、松井百々笑さんが優良賞、ラジオドラマ部門で優秀賞の成績を収め、全国大会への出場が決定した。
- ・令和7年1月25日(日)、「令和6年度 第40回愛知県高校放送コンテスト新人大会」において、奥美玲さん(1年)が、朗読部門で最優秀賞を受賞した。また、アナウンス部門で、山下真央さん(1年)及び辻琴音さん(1年)がそれぞれ入選した。



#### ○華道部

- ・令和6年9月23日(月)、「Ikenobo 花の甲子園2024」東海大会において、3位に入賞した。なお、愛知県内の高校では唯一の入賞校であった。



#### ○演劇部

- ・令和6年12月21日(土)・22日(日)、「令和6年度中部日本演劇連盟愛知県西三河第一地区合同発表会」において、優秀賞を受賞した。また、部門賞として、優秀創作脚本賞及び優秀演技賞を受賞した。

#### ○箏曲部

- ・令和7年1月11日(土)、「第39回日本音楽部門発表会(県大会)」において、奨励賞を受賞した。

### 【生徒募集・広報活動】

#### 23. 学校見学会を実施

令和6年度は全4回の学校見学会を実施し、第1回 6月1日(土)375人、第2回 8月18日(日)594人・8月19日(月)234人、第3回 11月4日(月・祝)238人、第4回 12月1日(日)201人の中学生の参加者があった。当日はダンス部、合唱部、吹奏楽部によるウェルカムステージ、体験授業、入試相談、部活動体験などを実施し、第3回は5科の教員による入試解説講座、第4回にはクリスマスページェントのリハーサル見学など、工夫を凝らした催しで中学生を迎えた。



#### 24. 校外説明会 IN 刈谷を実施

令和6年7月12日(金)、刈谷市総合文化センターで校外説明会が実施された。当日は刈谷市の中学生・保護者等合わせて約100名の参加者があり、吹奏楽部の演奏、国際教養科の英語体験授業、進路説明などを行った。



## 25. 三河地区私立高校合同説明会を開催

令和 6 年 9 月 17 日(火)から 2 日間、三河地区の私立高校による合同説明会が、地区内の中学校の進路指導主事を対象に開催された。本校からは、校長及び教頭、入試広報担当教員ら 6 名が出席し、学校説明を行った。

## 【教育環境整備】

### 26. 教育環境整備を実施

中・長期経営計画の下、年次計画により教育環境整備を実施している。上半期においては、私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備事業)を活用し、カタリナホール(体育館)空調設備新設工事を実施した。今後も、各種補助金を活用し、教育環境整備に努めることとする。

## 【その他】

### 27. 本校卒業生が「パリ 2024 オリンピック」に出場

本校卒業生の山本有真選手(積水化学所属・平成 30 年度卒)が、「パリ 2024 オリンピック」に陸上女子 5000m の日本代表として出場した。

### 28. 本校職員が「パリ 2024 パラリンピック」に出場

本校職員の山本萌恵子選手が、「パリ 2024 パラリンピック」に陸上女子 T20 クラス 1500m の日本代表として出場し、第 9 位の成績を収めた。

## ■幼稚園関連

### 《聖マリア幼稚園》

○令和6年4月17日(水)、新居浜市教育委員会事務局発達支援課の方による、年長園児対象の発音検査を実施した。本園では、専門家のご支援により、適切なアプローチを行い、就学準備を行っている。

○令和6年9月7日(土)、なかよし運動会を開催した。当日は、未入園児や卒園児による競技が行われるなど、園児や保護者を含め多くの方々の参加により盛況だった。

○令和6年9月26日(木)、愛媛県立新居浜工業高校の運動会に賛助出演した。同校運動会への賛助出演は、聖マリア幼稚園創立時に同高校近くに幼稚園が所在していた関係で、実施されてきたが、コロナ禍により中止となっていた。当日は、高校生と一緒に演技するなど、園児にとって思い出深いものとなった。



○本年度より、1歳児親子教室「ちゅうりっぷ」を開始した。1歳児親子教室は、1歳前後の子どもとその保護者を対象とした活動の場として、親子で一緒に楽しみながら、子どもの成長や発達をサポートするさまざまな取組みを行っている。



○毎年3月頃、卒園児が自身の進路や近況を報告するために来園する。卒園児は、在園中の思い出を振り返りつつ、成長した姿を教職員に示し、現在の状況や将来の目標について語る。これらの訪問は、卒園児にとって自身の成長を実感する機会であるとともに、幼稚園にとっても子どもたちの健やかな成長を確認し、今後の活躍を期待する大切な機会となっている。



### 《聖家族幼稚園》

○令和6年5月22日(水)、「口丹地区園児大会」が開催された。本大会は、口丹地区にある5幼稚園が、子どもたちが健やかに育ち、交流できる機会となるよう、毎年開催されている。参加した年長児は、様々な活動を通じて他園の園児と交流することができた。また、京都府知事をはじめとする来賓の方々も、園児と共に活動してくださった。



○年長児が稻作(もち米)体験を実施した。これは、地域の方のご厚意により、4月から9月の長期間、園児が種まき・田植え・稻刈りという農業体験を行うもので、米ができる過程を実際に触れ、子供が知識を深めることの楽しさを感じることを期待する。なお、収穫したもち米は、おもちゃを作り、全園児で頂くこととしている。



○令和6年7月3日(水)、「夏祭り」を開催した。本年度も南丹市商工会青年部様のご協力により、盛大に行うことができた。

○令和7年1月31日(金)、隣接する京都聖カタリナ高等学校と合同で地震防災訓練を実施した。教職員は、園児の安全を最優先に迅速かつ的確な避難誘導に努め、避難完了後には全体で振り返りを行い、課題の共有と改善策の検討を行った。本訓練を通じて、園児自身の防災意識の向上と、教職員の初動対応力の強化を図ることができた。



## 《聖カタリナ幼稚園》

○令和 6 年 5 月 24 日(金)、「聖母のつどい」が実施された。当日は、全園児が参加し、モルク神父様の講話の後、皆でお祈りを捧げ、園庭や園舎周辺を行列し、隣接する光ヶ丘女子高等学校を訪問した。カトリック園として、このような行事を大切にし、園児の情操を育むこととした。



○令和 6 年 7 月 24 日(水)、年長児を対象にした園内行事「なつかい」を実施した。本行事では、年長園児が、園内において、花火鑑賞やお買い物ごっこ、カレーパーティーなどを体験。会の終わりには先生手作りのメダイを手にし、思い出深いものとなった。



○令和 6 年 7 月 25 日(木)、名古屋教区カトリック幼児教育連盟主催の教職員夏期研修会に参加した。本研修会には、9 名の教員が参加した。当日は、カトリック教育と幼児教育に係る様々な学びを得ることができた。今後においても、このような外部研修を活用するなど、教育の質向上に努めることとする。

○令和 6 年 10 月 1 日(火)より、子育て支援の一環として「預かり保育」を開始した。本園の「預かり保育」は、保護者の就労の有無にかかわらず利用できる。家庭との連携を大切にしながら、子どもの成長を温かく支援していく。

○令和 6 年 11 月 3 日(日)、卒園生(1~6 年生)の集い「カタリナ祭」を実施した。当日は、多くの卒園生が幼稚園を訪れ、懐かしい環境の中、友だちや先生との再会に歓声をあげた。毎年恒例となっているくじ引きやクッキー・パン・オリジナルトートバッグなどの販売も行われ、にぎやかな一日となった。

## 《ロザリオ幼稚園》

○令和 6 年 5 月 23 日(木)、毎年実施しているさくら幼稚園さんと年長児交流会を実施した。この交流会は、就学前に子ども同士のコミュニケーションを深めることを目的とし、年に 3 回実施する計画である。当日は、さくら幼稚園を訪問し、幼稚園に隣接する神社を参拝した後、ホールで様々なゲームをするなど、活動を通じてコミュニケーションをとることができた。



○令和 6 年 6 月 8 日(土)、卒園児対象イベント「こひつじ会」を実施した。本イベントは、第 56 回目の開催となる本園の伝統イベントである。本年は小学 1~3 年生の卒園児を招待した。当日は、松山市内外から多くの卒園児が参加し、園歌の合唱やゲームを楽しむなど、卒園児同士で楽しむ姿を見ることができた。また、令和 6 年 8 月 26 日(月)には、小学 4 年生~6 年生を招待し、同イベントが実施された。本イベントは、大きく成長した卒園児の姿を見ることができる貴重な機会として、今後も実施していくこととする。



○私立学校施設整備費補助金を活用し、エコ改修事業として「トイレ改修工事」を実施した。本改修工事は、節水型便器や自動水栓に更新するなど環境に配慮したもので、節水が図られると共に、利用する園児達が水を大切に使う習慣を小さな頃から身につけることで、環境保護の意識を持つことを期待する。



○令和 6 年 11 月 12 日(火)、本学園の設置校である聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園と本園との交流保育を実施した。当日は、両園の園児たちが一堂に会し、さまざまな遊びや活動を通して交流を深めた。異なる環境に身を置くことで、園児たちは新しい友だちとの関わりを楽しみながら、コミュニケーション能力や社会性を育む貴重な機会となった。



### 《聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園》

○令和 6 年 4 月 16 日(火)、本年度より、姉妹園であるロザリオ幼稚園の教員による「リトミック」を開始した。リトミック(リズム運動)は、音楽を通じて子どものリズム感や表現力を育む教育法で、本園では、1 年間で複数回のリトミックを実施する予定である。



○令和 6 年 6 月 26 日(水)、聖カタリナ大学短期大学部保育学科荒西伸吾先生による造形指導が行われた。当日は土粘土を用い、園児達は土粘土の感触を楽しみながらダイナミックに取り組むことができた。本園では、隣接する聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部の協力により、他園には見られない、大学教員による指導が行われている。



○令和 6 年 12 月 6 日(金)、聖カタリナ大学短期大学部において、仲野准教授による園児向けの保健指導が実施された。テーマは「風邪やインフルエンザウイルスに負けない体づくり」であり、園児にもわかりやすい形で、病気に負けない強い体をつくるための大切な生活習慣について指導が行われた。手洗いやうがいの正しい方法、バランスのとれた食事、十分な睡眠の重要性について、園児が楽しみながら学べるよう工夫された内容であった。今回の保健指導を通じて、園児たちは日頃の生活の中で健康を意識する態度を身につけるきっかけとなった。



### 《共 通》

○令和 6 年 6 月 16 日(日)、「令和 6 年度(第 16 回)幼稚園連絡協議会」を開催した。当日は、各幼稚園の経営状況を確認・共有した。また、法人本部より、学園が設置する幼稚園の今後の運営方針並びに運営計画について提案があり、協議の結果原案どおり了承された。同方針並びに計画は、理事会(令和 6 年度第 5 回理事会(令和 6 年 6 月 29 日(土)開催)において承認された。



## IV. 財務の概要

### (1) 令和 6 年度決算概要

令和 6 年度決算は、

#### ・資金収支計算書

- ① 資金収支差額(支払資金の増減)は△1 億 55 百万円となり、予算比で 14 百万円減、前年度比で 45 百万円減となった。

#### ・活動区分資金収支計算書

- ② 教育活動資金収支差額は 1 億 57 百万円となり、予算比で 58 百万円増、前年度比で 82 百万円減となった。
- ③ 教育活動収支差額は△2 億 69 百万円となり、予算比で 54 百万円増、前年度比で△1 億 43 百万円減となった。

#### ・事業活動収支計算書

- ④ 経常収支差額は△2 億 74 百万円となり、予算比で 55 百万円増、前年度比で 1 億 45 百万円減となった。
- ⑤ 基本金組入前当年度収支差額(学校経営の財務上の健全性を表す)は△2 億 21 百万円となり、予算比で 62 百万円増、前年度比で 98 百万円減となった。
- ⑥ 当年度収支差額は、△4 億 29 百万円となり、予算比で 82 百万円増、前年度比で 82 百万円減となつた。

#### ・貸借対照表

- ⑦ 正味財産額(=純資産の部合計)は 132 億 61 百万円となり、前年度比で 2 億 21 百万円減となつた。

【財務総括表】

(単位:千円)

収支差額区分	当年度(令和6年度)			前年度(令和5年度)	
	決算	予算	差異	決算	差異
①資金収支差額(支払資金の増減)	△ 154,738	△ 168,831	14,093	△ 109,769	△ 44,969
②教育活動資金収支差額	156,682	99,106	57,576	238,851	△ 82,169
③教育活動収支差額	△ 268,805	△ 323,260	54,455	△ 125,847	△ 142,958
④経常収支差額	△ 273,599	△ 328,533	54,934	△ 131,823	△ 141,776
⑤基本金組入前当年度収支差額	△ 220,842	△ 282,700	61,858	△ 122,488	△ 98,354
⑥当年度収支差額	△ 428,623	△ 510,751	82,128	△ 346,129	△ 82,494
⑦正味財産(純資産の部合計)	13,206,100			13,426,942	△ 220,842

(注)上表①は資金収支計算書、②は活動区分資金収支計算書、③～⑥は事業活動収支計算書における収支差額。

## (2) 令和 6 年度事業活動収支決算概要

### ① 教育活動収支差額 △2 億 69 百万円

教育活動収支における事業活動収入は 41 億 94 百万円、事業活動支出は 44 億 63 百万円で、結果、教育活動収支差額△2 億 69 百万円となり、予算比で 54 百万円の赤字減となった。同差額は、学校法人の本業である教育活動における収支バランスの健全性を表す重要指標であることから、赤字となっている設置校(部門)においては赤字幅縮小、黒字への早期転換が喫緊の課題である。

### ② 教育活動外収支差額 △4 百 79 万円

教育活動外収支における事業活動収入(受取利息・配当金)は 1 百 35 万円、事業活動支出(借入金等利息)は 6 百 15 万円で、結果、教育活動外収支差額は△4 百 79 万円となり、予算比で 47 万 8 千円の赤字減となった。

### ③ 経常収支差額(①+②) △2 億 74 百万円

①教育活動収支差額と②教育活動外収支差額の合計額である経常収支差額は△2 億 74 百万円となり、予算比で 55 百万円の赤字減となった。同差額は経常的な事業活動が安定的であるかどうかを判断する重要指標であるため、適正黒字の確保が重点的課題である。

### ④ 特別収支差額 53 百万円

特別収支における事業活動収入は 73 百万円(うち、施設設備補助金が 50 百万円)、事業活動支出は 21 百万円(うち、施設処分差額 21 百万円)で、結果、特別収支差額は 53 百万円となり、予算比で 7 百万円の黒字増となった。

### ⑤ 基本金組入前当年度収支差額(③+④) △2 億 21 百万円

基本金組入前当年度収支差額は 2 億 21 百万円の赤字となり、予算比で 62 百万円の赤字減、前年度比で 98 百万円の赤字増となった。なお、現在進行中の「第 3 期中・長期経営計画(見直し後)」における同差額△2 億 55 百万円からは、34 百万円好転している。

### ⑥ 基本金組入(基本金組入額 2 億 8 百万円)

第 1 号基本金	当期に取得した固定資産に係る組入高	1 億 74 百万円
	うち、当期末組入高(△)	13 百万円
	過年度未組入に係る当期組入高	1 億 26 百万円
	除却した固定資産に係る基本金額等(△)	79 百万円

### ⑦ 当年度収支差額 △4 億 29 百万円、翌年度繰越収支差額 △70 億 6 百万円

基本金組入後の当年度収支差額は△4 億 29 百万円(うち、減価償却額 4 億 5 百万円)となり、前年度繰越収支差額△65 億 77 百万円を合算した結果、翌年度繰越収支差額は△70 億 6 百万円となつた。

## V. 当期に行った主な事業

### (1) 固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)

※掲載対象:取得価額 5,000 千円以上

設置校(園)名	勘定科目	細 目	金 額 (千円)
聖カタリナ大学	建物	自動火災報知設備受信機更新工事 (北条キャンパス)	7,150
	教育研究用機器備品	学内ネットワーク機器更新一式(北条キャンパス)	5,863
	ソフトウェア仮勘定	GAKUEN(事務システム)グレードアップ他	13,027
光ヶ丘女子高等学校	建物	カタリナホール(体育館)空調設備新設工事 ※補助対象事業	93,390
ロザリオ幼稚園	〃	園舎トイレ更新工事※補助対象事業	7,546

### (2) 教育研究経費の主な事業実績

※掲載対象:取得価額 3,000 千円以上

設置校(園)名	細 目	金 額 (千円)
聖カタリナ大学・短期大学部	学部・学科改組コンサルタント料	6,802
	日常・定期清掃業務委託費(北条&市駅キャンパス)	17,714
	運動部(野球・サッカー・女子バスケットボール部)外部指導者(監督・コーチ)業務委託費	13,560
聖カタリナ学園高等学校	硬式野球部 甲子園出場関連経費	14,669
光ヶ丘女子高等学校	カタリナホール(体育館)屋上防水工事	11,000
	特別教育棟防水工事	9,900
	新館防水工事	4,290
	模試	7,151
聖マリア幼稚園	スクールバス運行委託手数料(2台)	5,029
聖カタリナ幼稚園	スクールバス運行委託手数料(2台)	5,430
ロザリオ幼稚園	スクールバス運行委託手数料(3台)	9,074

### (3) 管理経費の主な事業実績

※掲載対象:取得価額 3,000 千円以上

設置校(園)名	細 目	金 額 (千円)
聖カタリナ大学・短期大学部	スクールバス運行料	25,431
	大学案内・ポスター・学科別パンフレット等	8,068
	松山市駅キャンパス警備委託料(常駐)	10,378
京都聖カタリナ高等学校	ウェブサイト リニューアル	3,630
光ヶ丘女子高等学校	学校案内・募集要項他	4,366

## VI. 計算書類

### (1)資金収支計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

(単位:円)

科 目	予 算(A)	決 算(B)	差 異(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	2,453,922,877	2,485,619,807	△ 31,696,930
手数料収入	24,643,480	30,590,427	△ 5,946,947
寄付金収入	108,827,888	118,930,742	△ 10,102,854
補助金収入	1,293,495,298	1,300,325,046	△ 6,829,748
国庫補助金収入	269,947,600	258,186,300	11,761,300
地方公共団体補助金収入	1,023,547,698	1,042,138,746	△ 18,591,048
資産売却収入	70,000	70,000	0
付随事業・収益事業収入	87,796,693	76,420,975	11,375,718
受取利息・配当金収入	872,689	1,350,650	△ 477,961
雑収入	230,658,962	254,401,202	△ 23,742,240
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	193,768,500	232,366,250	△ 38,597,750
その他の収入	207,009,907	153,401,995	53,607,912
資金収入調整勘定	△ 358,152,863	△ 428,572,978	70,420,115
前年度繰越支払資金	2,024,454,562	2,024,454,562	-
<b>収入の部合計</b>	<b>6,267,367,993</b>	<b>6,249,358,678</b>	<b>18,009,315</b>
人件費支出	2,887,887,462	2,928,958,590	△ 41,071,128
教育研究経費支出	948,494,079	910,318,532	38,175,547
管理経費支出	213,317,472	206,980,663	6,336,809
借入金等利息支出	6,145,377	6,145,377	0
借入金等返済支出	137,184,000	137,184,000	0
施設関係支出	112,702,012	117,250,094	△ 4,548,082
設備関係支出	67,427,751	55,854,413	11,573,338
資産運用支出	55,000,000	55,000,000	0
その他の支出	150,107,630	142,285,722	7,821,908
〔予備費〕	(7,750,000) (0)		0
資金支出調整勘定	△166,521,790	△180,334,837	13,813,047
翌年度繰越支払資金	1,855,624,000	1,869,716,124	△14,092,124
<b>支出の部合計</b>	<b>6,267,367,993</b>	<b>6,249,358,678</b>	<b>18,009,315</b>
<b>資金収支差額</b>	<b>△168,830,562</b>	<b>△154,738,438</b>	<b>△ 14,092,124</b>

(2)活動区分資金収支計算書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位:円)

科 目		金 額
教育活動による 資金収支	学生生徒等納付金収入	2,485,619,807
	手数料収入	30,590,427
	特別寄付金収入	62,361,346
	一般寄付金収入	36,769,935
	経常費等補助金収入	1,250,132,046
	付随事業収入	76,420,975
	雑収入	251,526,202
	教育活動資金収入計	4,193,420,738
	人件費支出	2,928,958,590
	教育研究経費支出	910,318,532
施設整備等活動による 資金収支	管理経費支出	206,980,663
	教育活動資金支出計	4,046,257,785
	差引	147,162,953
	調整勘定等	9,519,115
	教育活動資金収支差額	156,682,068
	科 目	金 額
	施設設備寄付金収入	19,799,461
	施設設備補助金収入	50,193,000
	施設設備売却収入	70,000
	施設整備等活動資金収入計	70,062,461
その他の活動による 資金収支	施設関係支出	117,250,094
	設備関係支出	55,854,413
	減価償却引当特定資産繰入支出	55,000,000
	施設整備等活動資金支出計	228,104,507
	差引	△158,042,046
	調整勘定等	△5,608,290
	施設整備等活動資金収支差額	△163,650,336
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△6,968,268
	科 目	金 額
その他の活動による 資金収支	受取利息・配当金収入	1,350,650
	過年度修正収入	2,875,000
	その他収入	3,319,279
	立替金収入	2,503,089
	仮払金収入	792,190
	敷金戻入収入	24,000
	その他の活動資金収入計	7,544,929
	借入金等返済支出	137,184,000
	小計	137,184,000
	借入金等利息支出	6,145,377
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	預り金支出	12,057,761
	仮受金支出	2,474
	その他の活動資金支出計	155,389,612
	差引	△147,844,683
	調整勘定等	74,513
	その他の活動資金収支差額	△147,770,170
	前年度繰越支払資金	2,024,454,562
	翌年度繰越支払資金	1,869,716,124

(3)事業活動収支計算書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位:円)

		科 目	予 算(A)	決 算(B)	差 異(A)-(B)	
教 育 活 動 収 支	収 入 の 部	学生生徒等納付金	2,453,922,877	2,485,619,807	△ 31,696,930	
		手数料	24,643,480	30,590,427	△ 5,946,947	
		寄付金	97,696,888	99,131,281	△ 1,434,393	
		経常費等補助金	1,240,802,298	1,250,132,046	△ 9,329,748	
		国庫補助金	232,819,600	223,558,300	9,261,300	
		地方公共団体補助金	1,007,982,698	1,026,573,746	△ 18,591,048	
		付随事業収入	87,796,693	76,703,705	11,092,988	
		雑収入	227,783,962	251,526,202	△ 23,742,240	
	教育活動収入計		4,132,646,198	4,193,703,468	△ 61,057,270	
	支 出 の 部	人件費	2,895,836,919	2,935,822,327	△ 39,985,408	
		教育研究経費	1,292,167,265	1,261,669,650	30,497,615	
		管理経費	267,902,405	260,755,409	7,146,996	
		徴収不能額等	0	4,260,800	△ 4,260,800	
		教育活動支出計	4,455,906,589	4,462,508,186	△ 6,601,597	
教育活動収支差額			△ 323,260,391	△ 268,804,718	△ 54,455,673	
教 育 活 動 外 収 支	収 入 の 部	受取利息・配当金	872,689	1,350,650	△ 477,961	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	872,689	1,350,650	△ 477,961	
	支 出 の 部	借入金等利息	6,145,377	6,145,377	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	6,145,377	6,145,377	0	
	教育活動外収支差額		△ 5,272,688	△ 4,794,727	△ 477,961	
経常収支差額			△ 328,533,079	△ 273,599,445	△ 54,933,634	
特 別 収 支	収 入 の 部	資産売却差額	22,000	22,000	0	
		その他の特別収入	67,649,000	73,422,969	△ 5,773,969	
		施設設備補助金	11,531,000	19,799,461	△ 8,268,461	
		特別収入計	67,671,000	73,444,969	△ 5,773,969	
	支 出 の 部	資産処分差額	21,837,714	20,687,658	1,150,056	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	21,837,714	20,687,658	1,150,056	
		特別収支差額	45,833,286	52,757,311	△ 6,924,025	
		(予備費)	(7,750,000)		0	
〔予備費〕			0		0	
基本金組入前当年度収支差額			△ 282,699,793	△ 220,842,134	△ 61,857,659	
基本金組入額合計			△ 228,050,712	△ 207,781,150	△ 20,269,562	
当年度収支差額			△ 510,750,505	△ 428,623,284	△ 82,127,221	
前年度繰越収支差額			△ 6,577,195,798	△ 6,577,195,798	0	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△ 7,087,946,303	△ 7,005,819,082	△ 82,127,221	

(参考)

事業活動収入計	4,201,189,887	4,268,499,087	△ 67,309,200
事業活動支出計	4,483,889,680	4,489,341,221	△ 5,451,541

(4)貸借対照表（令和7年3月31日現在）

(単位：円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末(A)	前 年 度 末(B)	増 減(A)-(B)
固定資産	13,675,951,670	13,873,177,177	△ 197,225,507
有形固定資産	12,677,480,964	12,938,944,205	△ 261,463,241
土地	2,607,760,605	2,607,760,605	0
建物	8,269,546,135	8,428,025,597	△ 158,479,462
構築物	454,906,300	496,637,130	△ 41,730,830
教育研究用機器備品	512,575,222	563,330,888	△ 50,755,666
管理用機器備品	33,291,590	38,701,787	△ 5,410,197
図書	779,020,605	777,424,415	1,596,190
車両	20,380,507	27,063,783	△ 6,683,276
特定資産	969,000,000	914,000,000	55,000,000
その他の固定資産	29,470,706	20,232,972	9,237,734
流動資産	2,122,598,502	2,248,113,019	△ 125,514,517
現金預金	1,869,716,124	2,024,454,562	△ 154,738,438
その他の流動資産	252,882,378	223,658,457	29,223,921
資産の部合計	15,798,550,172	16,121,290,196	△ 322,740,024
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,908,912,619	2,034,468,202	△ 125,555,583
長期借入金	1,408,477,000	1,537,661,000	△ 129,184,000
長期未払金	4,079,350	7,314,670	△ 3,235,320
退職給与引当金	496,356,269	489,492,532	6,863,737
流動負債	683,537,973	659,880,280	23,657,693
短期借入金	129,184,000	137,184,000	△ 8,000,000
その他の流動負債	554,353,973	522,696,280	31,657,693
負債の部合計	2,592,450,592	2,694,348,482	△ 101,897,890
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	20,211,918,662	20,004,137,512	207,781,150
第1号基本金	19,908,918,662	19,701,137,512	207,781,150
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	△ 7,005,819,082	△ 6,577,195,798	△ 428,623,284
翌年度繰越収支差額	△ 7,005,819,082	△ 6,577,195,798	△ 428,623,284
純資産の部合計	13,206,099,580	13,426,941,714	△ 220,842,134
負債及び純資産の部合計	15,798,550,172	16,121,290,196	△ 322,740,024

	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
△正味財産(純資産の部合計(基本金+繰越収支差額))	13,206,099,580	13,426,941,714	△ 220,842,134

## VII. 財務状況経年推移(5ヶ年)

### 1. 資金収支計算書

(単位:円)

科 目		2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,524,186,929	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807
	手数料収入	41,459,560	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427
	寄付金収入	102,231,151	55,985,832	69,327,602	65,180,510	118,930,742
	補助金収入	1,579,393,870	1,757,146,470	1,467,674,315	1,405,588,694	1,300,325,046
	資産売却収入	46,989,070	100,000	20,000	0	70,000
	付随事業・収益事業収入	74,619,634	87,759,323	93,523,554	79,434,291	76,420,975
	受取利息・配当金収入	940,061	846,735	614,028	562,069	1,350,650
	雑収入	170,258,957	197,589,749	141,799,010	188,520,358	254,401,202
	借入金等収入	500,000,000	560,000,000	0	0	0
	前受金収入	325,243,540	340,698,570	282,675,684	238,511,263	232,366,250
	その他の収入	515,995,638	534,616,157	575,181,128	230,608,579	153,401,995
資金収入調整勘定		△ 658,589,622	△ 902,323,423	△ 499,359,472	△ 438,059,296	△ 428,572,978
前年度繰越支払資金		1,868,478,899	2,238,925,861	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562
収入の部合計		7,091,207,687	7,540,592,614	6,798,241,627	6,521,926,863	6,249,358,678
支 出 の 部	人件費支出	2,832,391,180	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590
	教育研究経費支出	942,644,505	889,678,631	924,904,636	809,280,915	910,318,532
	管理経費支出	205,786,590	278,879,109	203,219,306	201,502,808	206,980,663
	借入金等利息支出	3,076,467	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377
	借入金等返済支出	58,090,000	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000
	施設関係支出	600,386,062	1,156,877,694	173,361,855	143,030,926	117,250,094
	設備関係支出	86,636,919	93,550,414	76,473,548	93,355,587	55,854,413
	資産運用支出	41,000,000	10,000,000	35,000,000	55,000,000	55,000,000
	その他の支出	235,727,460	221,895,253	183,423,396	187,091,388	142,285,722
	資金支出調整勘定	△ 153,457,357	△ 153,289,423	△ 124,821,993	△ 121,527,004	△ 180,334,837
	翌年度繰越支払金	2,238,925,861	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124
	支出の部合計	7,091,207,687	7,540,592,614	6,798,241,627	6,521,926,863	6,249,358,678
資金収入		5,222,728,788	5,301,666,753	4,831,745,198	4,387,703,379	4,224,904,116
資金支出		4,852,281,826	5,574,096,185	4,664,018,143	4,497,472,301	4,379,642,554
資金収支差額		370,446,962	△ 272,429,432	167,727,055	△ 109,768,922	△ 154,738,438

#### ◇人件費内訳

(単位:円)

科 目		2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
人 件 費 支 出	教員人件費支出	2,178,208,349	2,192,745,410	2,230,022,256	2,283,766,358	2,258,374,863
	職員人件費支出	517,338,570	534,202,004	545,572,940	564,246,317	532,154,187
	役員報酬	7,910,000	8,640,000	9,780,000	9,850,000	9,200,000
	(小計)	2,703,456,919	2,735,587,414	2,785,375,196	2,857,862,675	2,799,729,050
	退職金支出	128,934,261	158,151,826	102,937,804	148,152,234	129,229,540
	合計	2,832,391,180	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590

#### ◇学生・生徒・園児数 & 教職員数

(単位:人)

内 訳		2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
学生・生徒・園児数		4,283	4,174	4,175	3,928	3,581
大学・短期大学部		1,051	1,036	1,045	1,009	922
3 高校		2,530	2,499	2,525	2,360	2,134
5 幼稚園		702	639	605	559	525
教職員数		702	712	711	733	713
常勤		337	333	333	338	326
非常勤		365	379	378	395	387

## 2. 活動区分資金収支計算書

(単位:円)

区分	科目	部門	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
教育活動による資金収支	学生生徒等納付金収入		2,524,186,929	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807
	手数料収入		41,459,560	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427
	特別寄付金収入		65,157,165	34,562,560	34,817,728	34,910,116	62,361,346
	一般寄付金収入		20,265,721	12,173,348	22,281,374	20,176,194	36,769,935
	経常費等補助金収入		1,405,454,870	1,380,600,470	1,426,973,315	1,362,178,694	1,250,132,046
	付随事業収入		74,619,634	87,759,323	93,523,554	79,434,291	76,420,975
	雑収入		170,071,559	196,423,209	141,799,010	188,520,358	251,526,202
	教育活動資金収入計		<b>4,301,215,438</b>	<b>4,380,766,250</b>	<b>4,419,684,330</b>	<b>4,302,576,564</b>	<b>4,193,420,738</b>
	人件費支出		2,832,391,180	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590
	教育研究経費支出		942,644,505	889,678,631	924,904,636	809,280,915	910,318,532
	管理経費支出		205,679,292	278,564,529	203,197,306	201,502,808	206,980,663
施設整備等活動による資金収支	教育活動資金支出計		<b>3,980,714,977</b>	<b>4,061,982,400</b>	<b>4,016,414,942</b>	<b>4,016,798,632</b>	<b>4,046,257,785</b>
	差引		<b>320,500,461</b>	<b>318,783,850</b>	<b>403,269,388</b>	<b>285,777,932</b>	<b>147,162,953</b>
	調整勘定等		<b>24,375,917</b>	<b>2,965,406</b>	<b>△ 7,892,262</b>	<b>△ 46,926,461</b>	<b>9,519,115</b>
	教育活動資金収支差額 ①		<b>344,876,378</b>	<b>321,749,256</b>	<b>395,377,126</b>	<b>238,851,471</b>	<b>156,682,068</b>
	施設設備寄付金収入		16,808,265	9,249,924	12,228,500	10,094,200	19,799,461
	施設設備補助金収入		173,939,000	376,546,000	40,701,000	43,410,000	50,193,000
その他の活動による資金収支	施設設備売却収入		46,989,070	100,000	20,000	0	70,000
	減価償却引当特定資産取崩収入		0	100,000,000	0	70,000,000	0
	預託金回収収入		10,930	0	9,510	0	0
	施設整備等活動資金収入計		<b>237,747,265</b>	<b>485,895,924</b>	<b>52,959,010</b>	<b>123,504,200</b>	<b>70,062,461</b>
	施設関係支出		600,386,062	1,156,877,694	173,361,855	143,030,926	117,250,094
	設備関係支出		86,636,919	93,550,414	76,473,548	93,355,587	55,854,413
	減価償却引当特定資産繰入支出		26,000,000	10,000,000	35,000,000	55,000,000	55,000,000
	預託金支出		8,610	68,390	50,560	0	0
	施設整備等活動資金支出計		<b>728,031,591</b>	<b>1,260,496,498</b>	<b>284,885,963</b>	<b>291,386,513</b>	<b>228,104,507</b>
	差引		<b>△ 490,284,326</b>	<b>△ 774,600,574</b>	<b>△ 231,926,953</b>	<b>△ 167,882,313</b>	<b>△ 158,042,046</b>
	調整勘定等		<b>△ 179,914,748</b>	<b>△ 237,539,306</b>	<b>316,544,876</b>	<b>△ 26,292,288</b>	<b>△ 5,608,290</b>
	施設整備等活動資金収支差額 ②		<b>△ 670,199,074</b>	<b>△ 1,012,139,880</b>	<b>84,617,923</b>	<b>△ 194,174,601</b>	<b>△ 163,650,336</b>
小計 (①+②)			<b>△ 325,322,696</b>	<b>△ 690,390,624</b>	<b>479,995,049</b>	<b>44,676,870</b>	<b>△ 6,968,268</b>
その他の活動による資金収支	借入金等収入		500,000,000	560,000,000	0	0	0
	退職給与引当特定資産取崩収入		0	0	0	10,000,000	0
	小計		762,000,000	560,000,000	0	10,000,000	0
	受取利息・配当金収入		940,061	846,735	614,028	562,069	1,350,650
	過年度修正収入		187,398	1,166,540	0	0	2,875,000
	預り金収入		1,990,005	30,190,162	0	0	
	立替金収入		0	8,213,231	0	0	2,503,089
	仮払金収入		0	555,152	0	6,007	792,190
	仮受金収入		5,958	1,119	0	0	
	修学旅行積立預金収入		34,046,353	45,358,782	5	0	
	敷金戻入収入			59,000	0	0	24,000
	その他の活動資金収入計		<b>800,173,776</b>	<b>646,390,721</b>	<b>614,033</b>	<b>10,568,076</b>	<b>7,544,929</b>
	借入金等返済支出		58,090,000	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000
	小計		58,090,000	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000
	借入金等利息支出		3,076,467	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377
	過年度修正支出		107,298	314,580	22,000	0	
	預り金支出		0	0	2,793,159	427,109	12,057,761
	立替金支出		7,515,968	0	4,817,046	39,832,805	
	仮払金支出		371,102	0	1,314,205	1,090,044	
	仮受金支出			0	149	0	2,474
	修学旅行積立預金支出		35,050,354	23,158,689	5	0	
	修学旅行積立預り金支出		0	22,200,093	0	0	
	その他の活動資金支出計		<b>104,211,189</b>	<b>228,438,629</b>	<b>313,090,959</b>	<b>165,072,730</b>	<b>155,389,612</b>
	差引		<b>695,962,587</b>	<b>417,952,092</b>	<b>△ 312,476,926</b>	<b>△ 154,504,654</b>	<b>△ 147,844,683</b>
	調整勘定等		<b>△ 192,929</b>	<b>9,100</b>	<b>208,932</b>	<b>58,862</b>	<b>74,513</b>
	その他の活動資金収支差額		<b>695,769,658</b>	<b>417,961,192</b>	<b>△ 312,267,994</b>	<b>△ 154,445,792</b>	<b>△ 147,770,170</b>
支払資金の増減額			<b>370,446,962</b>	<b>△ 272,429,432</b>	<b>167,727,055</b>	<b>△ 109,768,922</b>	<b>△ 154,738,438</b>
前年度繰越支払資金			<b>1,868,478,899</b>	<b>2,238,925,861</b>	<b>1,966,496,429</b>	<b>2,134,223,484</b>	<b>2,024,454,562</b>
翌年度繰越支払資金			<b>2,238,925,861</b>	<b>1,966,496,429</b>	<b>2,134,223,484</b>	<b>2,024,454,562</b>	<b>1,869,716,124</b>

### 3. 事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目		2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
教 育 活 動 収 入 の 部	学生生徒等納付金	2,524,186,929	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807
	手 数 料	41,459,560	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427
	寄 付 金	85,422,886	46,763,908	57,099,102	55,255,810	99,131,281
	経 常 費 等 補 助 金	1,405,454,870	1,380,600,470	1,426,973,315	1,362,178,694	1,250,132,046
	付 隨 事 業 収 入	73,305,187	87,581,621	94,228,994	78,523,234	76,703,705
	雑 収 入	170,071,559	196,756,245	141,799,010	189,488,671	251,526,202
	教育活動収入計	4,299,900,991	4,380,949,584	4,420,389,770	4,302,803,320	4,193,703,468
	人 件 費	2,841,185,985	2,898,536,455	2,889,920,851	3,008,176,933	2,935,822,327
	教 育 研 究 経 費	1,261,929,440	1,217,264,025	1,270,171,939	1,161,468,890	1,261,669,650
教 育 活 動 支 出 の 部	(内、減価償却費)	(319,284,935)	(327,557,394)	(345,267,303)	(352,187,975)	(351,351,118)
	管 理 経 費	253,349,400	330,284,819	255,802,141	254,812,654	260,755,409
	(内、減価償却費)	(47,670,108)	(51,720,290)	(52,604,835)	(53,309,846)	(53,774,746)
	徴 収 不 能 額 等	4,349,850	1,925,600	8,059,100	4,191,453	4,260,800
	教育活動支出計	4,360,814,675	4,448,010,899	4,423,954,031	4,428,649,930	4,462,508,186
	教育活動収支差額	△ 60,913,684	△ 67,061,315	△ 3,564,261	△ 125,846,610	△ 268,804,718
	受 取 利 息 ・ 配 当 金	940,061	846,735	614,028	562,069	1,350,650
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	940,061	846,735	614,028	562,069	1,350,650
教 育 活 動 外 収 支 の 部	借 入 金 等 利 息	3,076,467	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	3,076,467	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377
	教育活動外収支差額	△ 2,136,406	△ 4,781,532	△ 6,346,367	△ 5,976,703	△ 4,794,727
	経 常 収 支 差 額	△ 63,050,090	△ 71,842,847	△ 9,910,628	△ 131,823,313	△ 273,599,445
	資 産 売 却 差 額	27,102,925	100,000	0	0	22,000
	その他の特別収入	191,209,205	387,674,151	54,671,890	54,816,801	73,422,969
	特 別 収 入 計	218,312,130	387,774,151	54,671,890	54,816,801	73,444,969
	資 産 处 分 差 額	47,278,801	88,598,949	75,933,740	45,481,500	20,687,658
特 別 収 支 の 部	その他の特別支出	22,369,298	314,580	22,000	0	0
	特 別 支 出 計	69,648,099	88,913,529	75,955,740	45,481,500	20,687,658
	特 別 収 支 差 額	148,664,031	298,860,622	△ 21,283,850	9,335,301	52,757,311
	基本金組入前当年度収支差額	85,613,941	227,017,775	△ 31,194,478	△ 122,488,012	△ 220,842,134
	基本 金 組 入 額 合 計	△ 158,132,658	△ 602,513,154	△ 243,064,962	△ 223,640,542	△ 207,781,150
	当 年 度 収 支 差 額	△ 72,518,717	△ 375,495,379	△ 274,259,440	△ 346,128,554	△ 428,623,284
	前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 5,708,793,708	△ 5,581,312,425	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798
	基 本 金 取 崩 額	200,000,000	0	0	0	0
	翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 5,581,312,425	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082
事 業 活 動 収 入		4,519,153,182	4,769,570,470	4,475,675,688	4,358,182,190	4,268,499,087
事 業 活 動 支 出		4,433,539,241	4,542,552,695	4,506,870,166	4,480,670,202	4,489,341,221
事 業 活 動 収 支 差 額		85,613,941	227,017,775	△ 31,194,478	△ 122,488,012	△ 220,842,134
経 常 収 入		4,300,841,052	4,381,796,319	4,421,003,798	4,303,365,389	4,195,054,118
経 常 支 出		4,363,891,142	4,453,639,166	4,430,914,426	4,435,188,702	4,468,653,563
経 常 収 支 差 額		△ 63,050,090	△ 71,842,847	△ 9,910,628	△ 131,823,313	△ 273,599,445

#### ◇人件費内訳

(単位:円)

科 目		2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
人 件 費	教 員 人 件 費	2,178,208,349	2,192,745,410	2,230,022,256	2,283,766,358	2,258,374,863
	職 員 人 件 費	517,338,570	534,202,004	545,572,940	564,246,317	532,154,187
	役 員 報 酬	7,910,000	8,640,000	9,780,000	9,850,000	9,200,000
	(小 計)	2,703,456,919	2,735,587,414	2,785,375,196	2,857,862,675	2,799,729,050
	退 職 金	85,989,061	109,041,826	62,193,804	104,232,249	98,440,561
	退職給与引当金繰入額	51,740,005	53,907,215	42,351,851	46,082,009	37,652,716
	退職給与引当金特別繰入額	22,262,000	0	0	0	0
	合 計	2,863,447,985	2,898,536,455	2,889,920,851	3,008,176,933	2,935,822,327

#### 4. 貸借対照表

(単位:円)

資産の部					
科 目	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
固 定 資 産	13,605,388,297	14,298,664,419	14,111,457,384	13,873,177,177	13,675,951,670
有 形 固 定 資 産	12,577,830,883	13,365,955,461	13,148,493,476	12,938,944,205	12,677,480,964
土 地	2,603,219,005	2,607,760,605	2,607,760,605	2,607,760,605	2,607,760,605
建 物	8,093,235,863	8,858,975,271	8,611,959,458	8,428,025,597	8,269,546,135
構 築 物	455,218,812	465,338,843	509,818,842	496,637,130	454,906,300
教育研究用機器備品	592,955,728	591,403,751	564,817,492	563,330,888	512,575,222
管理用機器備品	35,853,387	35,596,872	38,299,076	38,701,787	33,291,590
図 書	752,725,078	767,905,571	781,042,933	777,424,415	779,020,605
車両	40,968,810	31,274,548	27,095,070	27,063,783	20,380,507
建設仮勘定	3,654,200	7,700,000	7,700,000	0	0
特 定 資 産	994,000,000	904,000,000	939,000,000	914,000,000	969,000,000
退職給与引当特定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000	0	0
設備資金引当特定資産	152,000,000	152,000,000	152,000,000	152,000,000	152,000,000
減価償却引当特定資産	832,000,000	742,000,000	777,000,000	762,000,000	817,000,000
そ の 他 の 固 定 資 産	33,557,414	28,708,958	23,963,908	20,232,972	29,470,706
電話加入権	2,856,908	2,856,908	2,856,908	2,856,908	2,856,908
施設利用権	112,320	103,680	95,040	86,400	77,760
ソフトウェア	24,402,746	19,553,540	14,776,080	11,040,454	7,283,528
ソフトウェア仮勘定	0	0	0	0	13,027,300
有価証券	5,619,410	5,619,410	5,619,410	5,619,410	5,619,410
敷 金	233,000	174,000	174,000	174,000	150,000
預 託 金	233,030	301,420	342,470	355,800	355,800
出 資 金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
流 動 資 産	2,637,374,558	2,556,992,094	2,312,650,686	2,248,113,019	2,122,598,502
現金預金	2,238,925,861	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124
未収入金	349,976,811	575,172,383	150,602,572	151,192,159	186,910,358
貯 藏 品	143,990	143,220	140,910	274,120	127,050
立 替 金	12,202,172	3,988,941	8,805,987	48,638,792	46,135,703
仮 払 金	555,482	330	1,314,535	2,404,579	1,612,389
前 払 金	5,402,003	3,403,147	9,067,804	13,528,180	10,046,451
修学旅行費積立預金	22,200,093	0	0	0	0
販売用品	7,968,146	7,787,644	8,495,394	7,620,627	8,050,427
資産の部合計	16,242,762,855	16,855,656,513	16,424,108,070	16,121,290,196	15,798,550,172
負債の部					
科 目	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
固 定 負 債	2,060,607,561	2,311,068,676	2,178,876,931	2,034,468,202	1,908,912,619
長期借入金	1,529,213,000	1,792,029,000	1,674,845,000	1,537,661,000	1,408,477,000
長期未払金	49,447,770	32,348,706	15,733,110	7,314,670	4,079,350
退職給与引当金	481,946,791	486,690,970	488,298,821	489,492,532	496,356,269
流 動 負 債	828,548,865	963,963,633	695,801,413	659,880,280	683,537,973
短期借入金	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000	129,184,000
未 払 金	173,174,122	165,095,672	137,749,646	126,414,036	176,276,977
前 受 金	325,243,540	340,698,570	282,675,684	238,511,263	232,366,250
預 り 金	130,786,002	160,976,164	158,183,005	157,755,896	145,698,135
仮 受 金	8,108	9,227	9,078	15,085	12,611
修学旅行費積立預り金	22,200,093	0	0	0	0
負債の部合計	2,889,156,426	3,275,032,309	2,874,678,344	2,694,348,482	2,592,450,592
純 資 産 の 部					
科 目	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
基 本 金	18,934,918,854	19,537,432,008	19,780,496,970	20,004,137,512	20,211,918,662
第 1 号 基 本 金	18,649,918,854	19,235,432,008	19,477,496,970	19,701,137,512	19,908,918,662
第 4 号 基 本 金	285,000,000	302,000,000	303,000,000	303,000,000	303,000,000
繰 越 収 支 差 額	△ 5,581,312,425	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082
翌年度繰越収支差額	△ 5,581,312,425	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082
純資産の部合計	13,353,606,429	13,580,624,204	13,549,429,726	13,426,941,714	13,206,099,580
負債及び純資産の部合計	16,242,762,855	16,855,656,513	16,424,108,070	16,121,290,196	15,798,550,172
減価償却額の累積額の合計額	7,347,776,115	7,539,845,613	7,740,262,402	8,064,757,137	8,411,736,504
基本金未組入額	1,241,357,078	1,519,671,812	1,428,986,936	1,316,547,592	1,203,544,302

## 5. 財務比率表

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年推移の確認や全国平均との比較を行い、財務状況の分析に利用するものです。

(注) [参考値]は、「今日の私学財政～令和6年度版～」(日本私立学校振興・共済事業団)より転載。医歯系法人を除く大学法人の令和5年度全国平均値。また、[評価指標]は、△高いほうがよい ▼低いほうがよい ～どちらともいえないを表す。

分類	比 率	計 算 式	参考値	評価指標	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)
貸 借 対 照 表 関 係 比 率	純資産構成比率	純資産 総負債 + 純資産	88.2%	△	82.2%	80.6%	82.5%	83.3%	83.6%
	基本金比率	基本金 基本金要組入額	97.5%	△	93.8%	92.8%	93.3%	93.8%	94.4%
	固定比率	固定資産 純資産	97.3%	▼	101.9%	105.3%	104.1%	103.3%	103.6%
	固定長期適合率	固定資産 純資産 + 固定負債	90.6%	▼	88.3%	90.0%	89.7%	89.7%	90.5%
	流动比率	流动資産 流动負債	267.1%	△	318.3%	265.3%	332.4%	340.7%	310.5%
	前受金保有率	現金預金 前受金	390.9%	△	688.4%	577.2%	755.0%	848.8%	804.6%
	総負債比率	総負債 総資産	11.8%	▼	17.8%	19.4%	17.5%	16.7%	16.4%
	負債率	総負債 純資産	13.3%	▼	21.6%	24.1%	21.2%	20.1%	19.6%
	積立率	運用資産 要積立額	75.9%	△	41.4%	35.8%	37.4%	34.4%	31.9%
事業活動収支計算書関係比率	人件費比率	人件費 経常収入	50.9%	▼	66.1%	66.1%	65.4%	69.9%	70.0%
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	69.8%	▼	112.6%	110.4%	108.4%	116.3%	118.1%
	教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	36.6%	△	29.3%	27.8%	28.7%	27.0%	30.1%
	管理経費比率	管理経費 経常収入	8.7%	▼	5.9%	7.5%	5.8%	5.9%	6.2%
	減価償却額比率	減価償却額 経常支出	11.4%	～	8.4%	8.5%	9.0%	9.1%	9.1%
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	72.9%	△	58.7%	59.9%	60.3%	60.1%	59.3%
	寄付金比率	寄付金 事業活動収入	2.2%	△	2.3%	1.3%	1.7%	1.7%	2.3%
	経常寄付金比率	経常寄付金 経常収入	1.4%	△	2.0%	1.1%	1.3%	1.3%	2.4%
	補助金比率	補助金 事業活動収入	14.4%	△	34.9%	32.6%	35.8%	35.2%	29.3%
	経常補助金比率	経常費等補助金 経常収入	14.3%	△	32.7%	31.5%	32.3%	31.7%	29.8%
	基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入	9.7%	～	3.5%	12.6%	5.4%	5.1%	4.9%
	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差 事業活動収入	4.2%	△	1.9%	4.8%	-0.7%	-2.8%	-5.2%
	経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	3.5%	△	-1.5%	-1.6%	-0.2%	-3.1%	-6.5%
	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	1.2%	△	-1.4%	-1.5%	-0.1%	-2.9%	-6.4%
資金 収支	教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	12.7%	△	8.0%	7.3%	8.9%	5.6%	3.7%

(注) 1 運用資産 = 特定資産 + 有価証券(固定資産) + 有価証券(流動資産) + 現金預金

2 外部負債 = 借入金 + 学校債 + 未払金 + 手形債務

3 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金

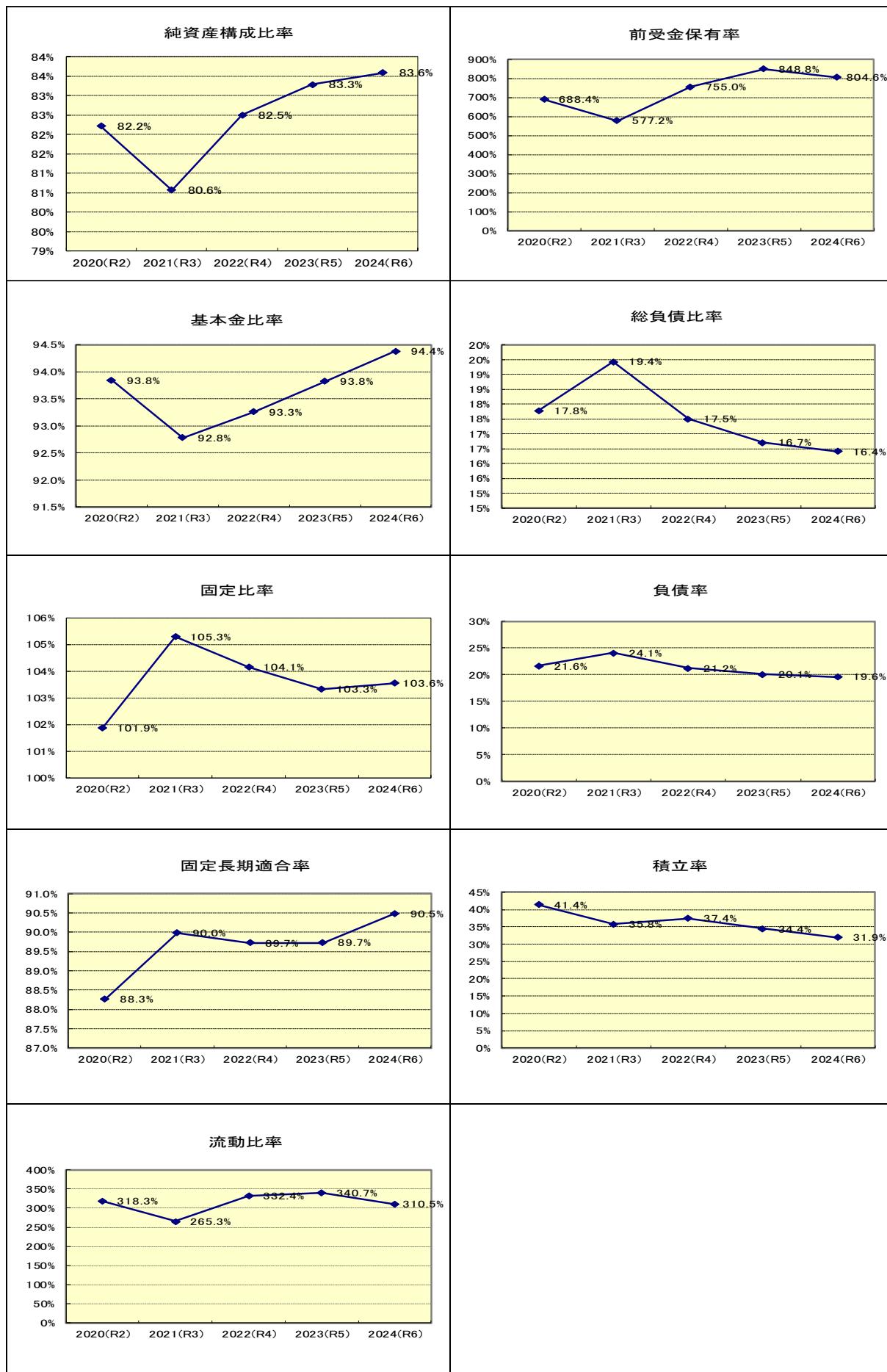
(参考) 主な財務比率について

※「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)に拠る。

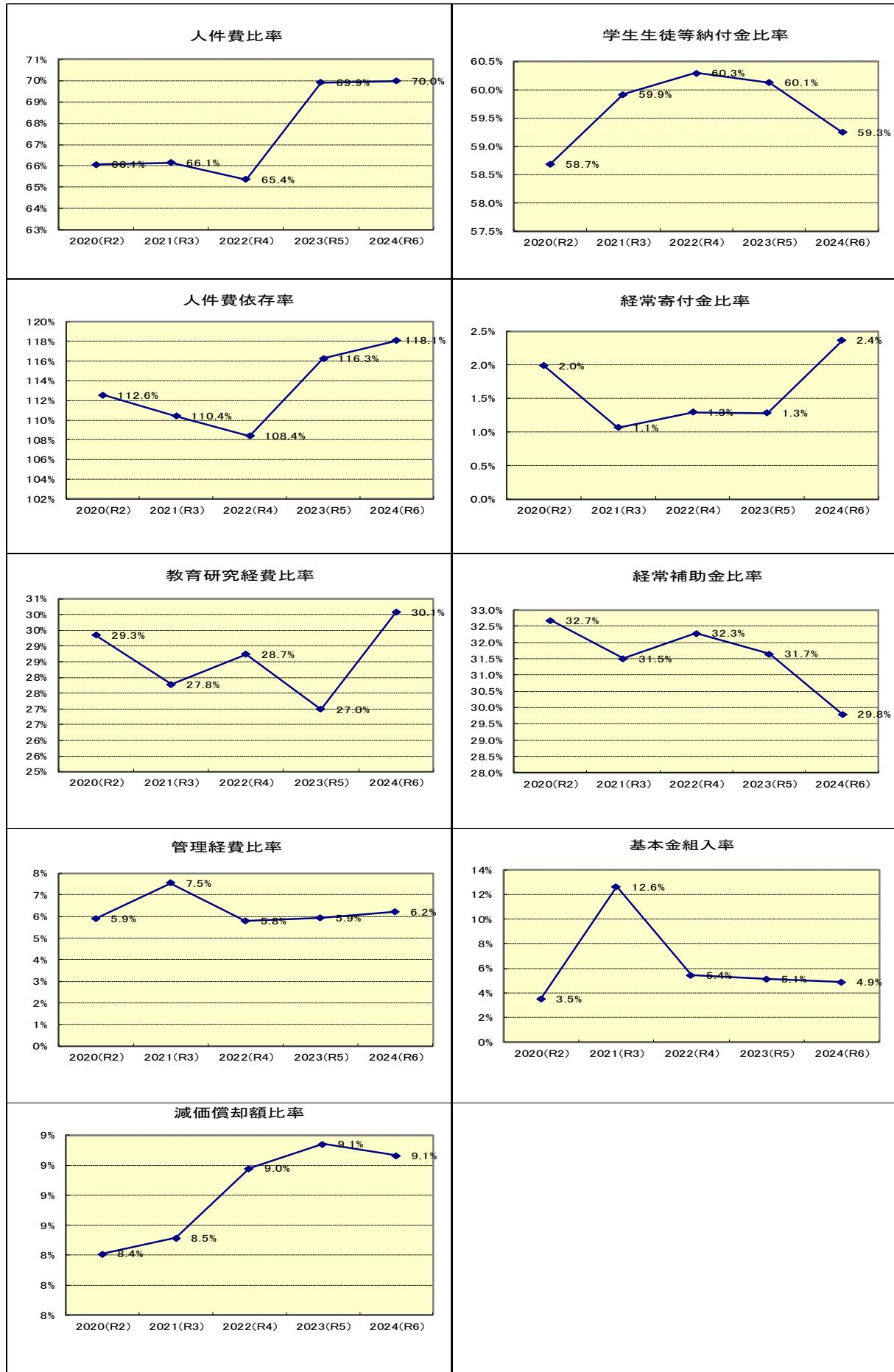
分類	比率名	比率の意味
貸借対照表	純資産構成比率	純資産の「総負債及び純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標。この比率が高い場合は、自己財源が充実していることを示し、財政的には安定していると評価できる。
	基本比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済み基本金の割合。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを表している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味しているため、100%に近いことが望ましいが、繰越収支差額が支出超過となっている場合は注意を要する。
	固定比率	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。
	固定長期適合率	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で、低いほど理想的とされる。
	流動比率	流動負債に対する流動資産の割合。一年以内に償還又は支払わなければならぬ流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、この比率が200%以上であれば優良とみなしている。
	前受金保有率	前受金と現金預金との割合で、当該年度に收受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率で、100%を超えることが一般的とされている。
	総負債比率	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資本の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
	負債率	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低いほうが望ましい。
	積立率	学校法人の経営を持続的且つ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。一般的には比率が高い方が望ましいが、学校法人の将来計画等にも影響されるため、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。
事業活動収支計算書	人件費比率	人件費の経常収入に占める割合。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
	人件費依存率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている(比率が100%を超えないこと)が理想的であるが、例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒等納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。
	教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却費が含まれている。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。
	管理経費比率	経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出はやむを得ないものの、比率としては低いほうが望ましい。

分類	比 率 名	比 率 の 意 味
事 業 活 動 収 支 計 算 書	減 価 償 却 額 比 率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。
	寄 付 金 比 率	寄付金の事業活動収入に占める割合。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためにはほしいことである。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集中体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に努めることの重要性が高まっている。
	経 常 寄 付 金 比 率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
	補 助 金 比 率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。しかし、この比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受けやすくなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
	経 常 補 助 金 比 率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
	基 本 金 組 入 率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一般的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。マイナスとなった場合、その要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
	経 常 収 支 差 額 比 率	経常的な収支バランスを表す比率。この比率がプラスで大きいほど経常的な収支は安定していることを示すが、逆にマイナスになる場合は、将来的な学校法人財政の不安要素となる。
	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率。この比率がプラスで大きいほど教育活動部分の収支は安定していることを示し、マイナスになる場合は、教育活動において資産の流出が生じていることを意味する。
資 金 収 支	教 育 活 動 資 金 収 支 差 額 比 率	教育活動資金収支差額の教育活動資金収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出しているかを測る比率。比率はプラスであることが望ましいが、「その他の活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他の活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

## 財務比率(貸借対照表関係)

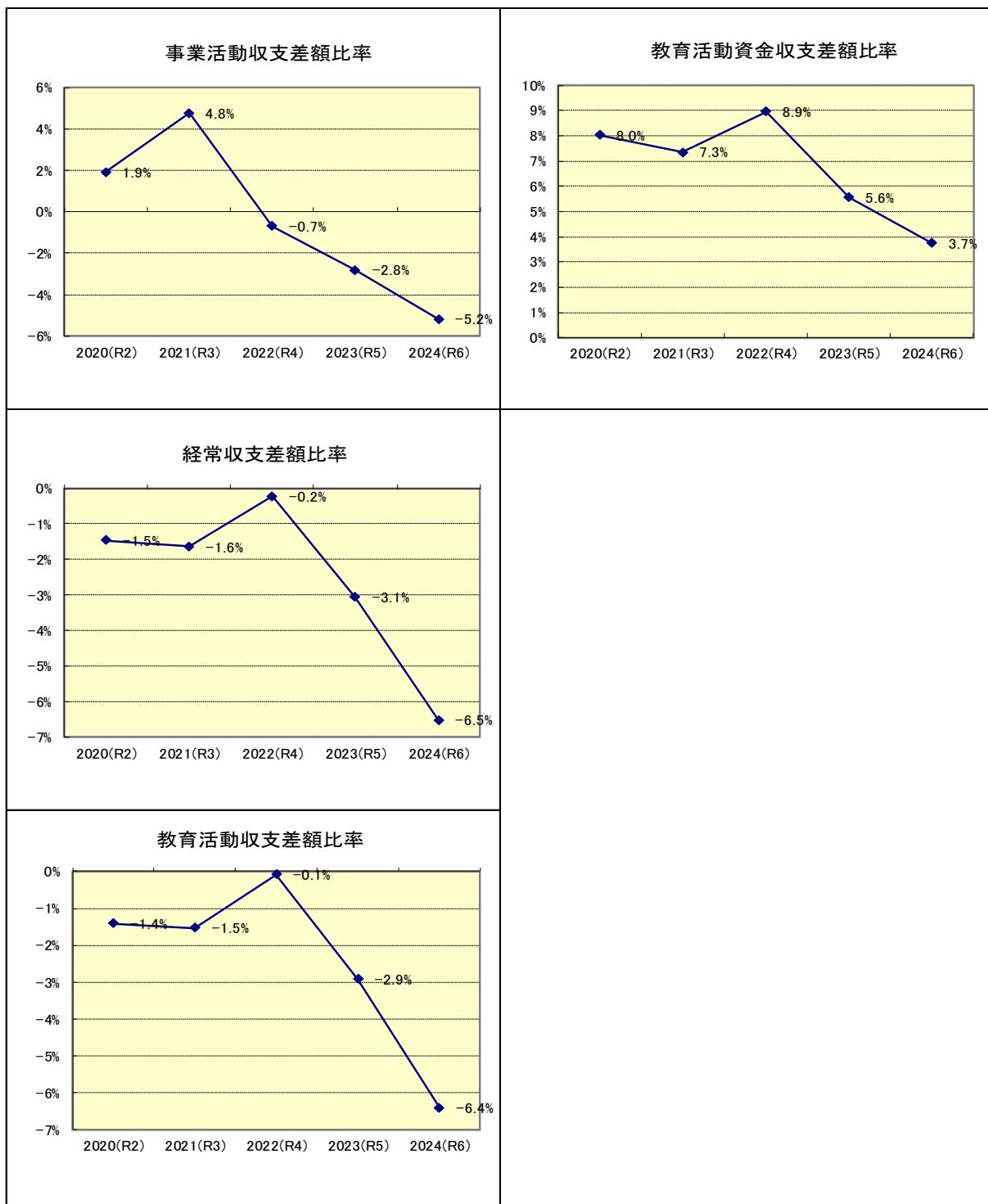


## 財務比率(事業活動収支計算書関係)



### 財務比率(事業活動収支計算書関係)

### 財務比率(活動区分資金収支計算書関係)



## 【参考】学校法人会計基準について

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通した人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過分な設備投資や場当たり的な運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。

こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第14条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。

なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令(平成25年4月22日文部科学省令第15号)が平成27年4月1日に施行され、平成27年度以降の予算・決算に適用されています。

以下は、「新・学校法人会計基準」に関する解説です。

### 1) 計算書類について

#### 資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を表すとともに、当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を表します。

#### 活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を3つの活動、すなわち、「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの資金収支を明らかにします。この計算書は、会計基準改正に伴い平成27年度から作成が義務付けられましたが、様式の特性から、決算時のみ所轄庁へ提出することになっています。

#### 事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収入(学校の負債とならない収入)及び事業活動支出(現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む)の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。会計基準の改正の伴い「区分経理」が導入され、収支を経常的収支と臨時的収支に、経常的収支を教育活動収支と教育活動外収支に分けて表示することになりました。

#### 【基本金について】

基本金とは、学校法人会計基準第29条において、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」と規定されており、次の第1号から第4号に該当するものです。なお、「その諸活動の計画に基づき必要な資産」とは、教育研究活動に必要な校地、校舎、機器備品、図書等のことで、すべて自己資金による取得が基本金の条件となっています。

第1号基本金：学校法人が教育研究活動に供するために自己資金により取得した土地、建物、設備等の固定資産の価額

第2号基本金：新たな学校・学部の設立や施設設備等の規模拡充に伴う将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額

第3号基本金：奨学基金や研究基金等の積立額。その運用果実により教育研究活動を支援するための資金

第4号基本金：恒常に保持すべき資金として、学校法人会計基準により定められた金額

#### 貸借対照表

一定時点(本学は3月末現在)の資産・負債・純資産(基本金と繰越収支差額の合計)の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

## 2)勘定科目について

計算書類で使用する勘定科目とその内容は次の通りです。

### ①資金収支計算書の勘定科目

勘定科目		内 容
収入の部	学生生徒等納付金収入	教育研究活動の提供の対価として学生・生徒等から徴収する納付金収入
	手数料収入	入学試験及び在学証明、成績証明等を発行する際に徴収する収入
	寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、用途指定がある寄付金を「特別寄付金収入」、用途指定がない寄付金を「一般寄付金収入」として計上する。
	補助金収入	国や地方公共団体などから交付される補助金収入
	資産売却収入	学校法人が保有する固定資産を売却した際の収入で、実際の売却額を計上する。
	付随事業・収益事業収入	食堂・売店・学生寮等、教育活動に付随する活動に係る事業の収入のほか、外部から委託を受けた研究等による収入や収益事業会計からの繰入収入
	受取利息・配当金収入	第3号基本金引当特定資産の運用による収入のほか、預金や貸付金等の利息、株式の配当金等による収入
	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入、退職金財団等交付金収入その他学校法人の負債とならない上記の各収入以外の収入
	借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団や銀行等、金融機関からの借入による収入
	前受金収入	翌年度分の授業料・入学金等が当年度に納入された収入で、主に新入生の入学手続きが入学年度の前の年度中に行われるため、前受金収入として計上する。
	その他の収入	各種特定資産からの繰入収入や前期末未収入金収入、預り金収入、立替金収入、仮払金収入など、上記の各収入以外の収入
	資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入だが、実際の資金の収入が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前受金と期末未収入金としてそれぞれ計上する。
前年度繰越支払資金		前年度から繰り越された現預金の残高
収入の部 合計		—
支出の部	人件費支出	教職員に対する本俸、期末手当、その他の手当、所定福利費、退職金財団等掛金、退職金及び役員に支払う報酬
	教育研究経費支出	学校法人の主たる目的である教育研究活動や学生生徒等の学習支援などのために支出する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信運搬費、印刷費、施設設備修理費、賃借料、報酬・委託・手数料などがある。
	管理経費支出	学校法人の管理運営のために支出する経費で、役員の行う業務執行のために要する経費や、総務・人事・財務その他法人業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費、教育研究活動以外に使用する施設設備の修繕・維持・保全に要する経費、学生生徒等の募集のために要する経費などがある。
	借入金等利息支出	借入金等の利息に係る支出
	借入金等返済支出	借入金等の元金の返済に係る支出
	施設関係支出	土地・建物・構築物等の取得に係る支出
	設備関係支出	機器備品や図書、車両、ソフトウェア(資産計上されるもの)等の取得に係る支出
	資産運用支出	運用目的で有価証券を購入した場合や各種特定資産に繰り入れる際に計上する。
	その他の支出	前期末未払金の支払支出や預り金、立替金、仮払金など、上記以外の支出
	[予備費]	予算化されていない突発的な事象に対応するために計上する額
	資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出だが、実際の資金の支出が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前払金と期末未払金としてそれぞれ計上する。
翌年度繰越支払資金		翌年度へ繰り越される現預金の残高
支出の部 合計		—

## ②事業活動収支計算書の勘定科目

勘定科目名		内 容
教育活動収支	学生生徒等納付金	①資金収支計算書と同じ
	手数料	①資金収支計算書と同じ
	寄付金	①に加え、金銭以外の資産で寄付を受けた場合、その取得のために通常要する価格をもって「現物寄付金」として計上する(施設設備に係る寄付金・現物寄付は除く。)現物寄付は支払資金の増加がないため、①には記載されない。
	経常費等補助金	施設設備補助金以外の補助金
	付随事業収入	食堂、売店、学生寮等、教育活動等に付随する活動に係る収入や外部から委託を受けた研究等による収入
	雑収入	①資金収支計算書と同じ
	教育活動収入計	—
	人件費	①の人件費支出から退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額を加えた額。なお、退職給与引当金への繰入れが不足していた場合には、当該会計年度における退職金支払額と退職給与引当金計上額との差額を退職金として計上する。
	教育研究経費	①に教育研究用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	管理経費	①に管理用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	徴収不能額等	未収入金について、将来徴収不能となるおそれのある場合は、当該徴収不能の見込み額を一定の方法に拠って見積もり、徴収不能引当金に繰入れる。また、未収入金について、徴収不能と判断した場合は、徴収不能額として計上する。
	教育活動支出計	—
	教育活動収支差額	経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を表す。教育活動外の収支は含まれないため、経常収支差額よりも明確に本業である教育活動の収支バランスを判断する指標となる。
教育活動外収支	受取利息・配当金	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外収入	収益事業会計からの繰入収入
	教育活動外収入計	—
	借入金等利息	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外支出	為替換算差額などの支出
	教育活動外支出計	—
	教育活動外収支差額	経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を表す。
経常収支差額		教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計。経常的な事業活動による収入とコストの収支バランスを表す。特別収支を除いた収支差額であるため、経常的な事業活動が安定的であるか否かを判断する指標となる。
特別収支	資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿残高を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別収入	施設設備拡充等のための寄付金、施設設備の受贈額、施設設備拡充等のための補助金、及び過年度修正額などによる収入
	特別収入計	—
	資産処分差額	資産の帳簿残高が当該資産の売却収入金額を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別支出	災害損失や過年度修正額などによる支出
	特別支出計	—
	特別収支差額	資産売却・処分、施設設備寄付金、施設設備補助金などの臨時的な収支を表す。

[予備費]	①資金収支計算書と同じ
基本金組入前 当年度収支差額	事業活動収入から事業活動支出を差し引いた額。学校法人に基本金を組み入れる余力がどの程度あるのかを判断する指標。単年度における事業活動全体の収支バランス(従前の「帰属収支差額」)を把握するため、会計基準の改正の伴い、新たに表示されることになった。
基本金組入額合計	第1号から第4号までの基本金組入額の合計。学校法人を維持するため必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額	長期の収支バランスを表す(従前の「○年度消費収入(支出)超過額」)。
前年度繰越収支差額	
翌年度繰越収支差額	

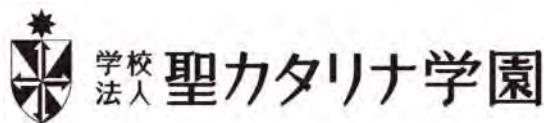
(参考)

事業活動収入計	従前の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入などの負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入を表す。
事業活動支出計	従前の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、資金支出を伴わない減価償却費や各種引当金、資産処分差額等が含まれ、学校法人の正味の費用を表す。

### ③貸借対照表の勘定科目

勘定科目名	内 容
有形固定資産	土地・建物・構築物・機器備品・図書・車両・建設仮勘定等
特定資産	使途が特定された預金等をいう。会計基準の改正に伴い、「第2号基本金」に対応する資産として「第2号基本金引当特定資産」が新設された。
その他の固定資産	ソフトウェア、長期に保有する有価証券、長期未収入金など
流動資産	現金預金、未収入金、一時的に保有する有価証券、立替金、仮払金、前払金など
資産の部合計	—
固定負債	長期借入金、長期未払金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金、仮受金など
負債の部合計	—
基本金	第1号から第4号基本金(※既述)
繰越収支差額	事業活動収支差額の累積額
純資産の部合計	会計基準の改正に伴い、基本金と繰越収支差額の合計を表す「純資産の部合計」が新設された。
負債及び純資産の部合計	—





2024(令和6)年度事業報告書

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局  
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地  
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616  
URL <https://www.catherine.ac.jp/gakuen/>

## 資金収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
<b>学生生徒等納付金収入</b>	<b>2,453,922,877</b>	<b>2,485,619,807</b>	<b>△ 31,696,930</b>
授業料収入	1,461,527,870	1,462,693,460	△ 1,165,590
入学金収入	110,666,800	109,794,310	872,490
実験実習料収入	26,551,900	26,233,015	318,885
施設設備費収入	176,440,000	176,006,400	433,600
教育充実費収入	301,902,000	301,019,700	882,300
学園維持費収入	8,022,000	8,018,050	3,950
施設等利用給付費収入	22,199,330	22,031,790	167,540
施設型給付費収入	345,612,977	378,903,082	△ 33,290,105
その他の納付金収入	1,000,000	920,000	80,000
<b>手数料収入</b>	<b>24,643,480</b>	<b>30,590,427</b>	<b>△ 5,946,947</b>
入学検定料収入	23,048,000	29,209,040	△ 6,161,040
試験料収入	858,554	745,520	113,034
証明手数料収入	385,118	417,800	△ 32,682
その他の手数料収入	351,808	218,067	133,741
<b>寄付金収入</b>	<b>108,827,888</b>	<b>118,930,742</b>	<b>△ 10,102,854</b>
特別寄付金収入	76,217,888	82,160,807	△ 5,942,919
一般寄付金収入	32,610,000	36,769,935	△ 4,159,935
<b>補助金収入</b>	<b>1,293,495,298</b>	<b>1,300,325,046</b>	<b>△ 6,829,748</b>
国庫補助金収入	269,947,600	258,186,300	11,761,300
地方公共団体補助金収入	1,023,547,698	1,042,138,746	△ 18,591,048
<b>資産売却収入</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>0</b>
設備売却収入	70,000	70,000	0
<b>付随事業・収益事業収入</b>	<b>87,796,693</b>	<b>76,420,975</b>	<b>11,375,718</b>
補助活動収入	87,161,013	75,652,839	11,508,174
受託事業収入	500,000	675,136	△ 175,136
公開講座収入	135,680	93,000	42,680
<b>受取利息・配当金収入</b>	<b>872,689</b>	<b>1,350,650</b>	<b>△ 477,961</b>
その他の受取利息・配当金収入	872,689	1,350,650	△ 477,961
<b>雑収入</b>	<b>230,658,962</b>	<b>254,401,202</b>	<b>△ 23,742,240</b>
施設設備利用料収入	7,667,043	9,618,912	△ 1,951,869
廃品売却収入	29,580	34,800	△ 5,220
退職金財団等交付金収入	97,781,992	128,964,561	△ 31,182,569
還付消費税収入	1,217,798	0	1,217,798
2歳児子育て支援事業収入	3,696,000	4,464,277	△ 768,277
その他の雑収入	117,391,549	108,443,652	8,947,897
過年度修正収入	2,875,000	2,875,000	0
<b>借入金等収入</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>前受金収入</b>	<b>193,768,500</b>	<b>232,366,250</b>	<b>△ 38,597,750</b>
授業料前受金収入	44,213,500	54,048,750	△ 9,835,250
入学金前受金収入	106,650,000	126,600,000	△ 19,950,000
実験実習料前受金収入	580,000	540,000	40,000
施設設備費前受金収入	23,800,000	25,400,000	△ 1,600,000
教育充実費前受金収入	13,107,000	18,240,000	△ 5,133,000
学園維持費前受金収入	36,000	0	36,000
その他の納付金前受金収入	640,000	0	640,000
その他の前受金収入	4,742,000	7,537,500	△ 2,795,500
<b>その他の収入</b>	<b>207,009,907</b>	<b>153,401,995</b>	<b>53,607,912</b>
前期末未収入金収入	151,192,159	150,082,716	1,109,443
立替金収入	16,719,851	2,503,089	14,216,762
仮払金収入	37,633,771	792,190	36,841,581
仮受金収入	1,464,126	0	1,464,126
敷金戻入収入	0	24,000	△ 24,000
<b>資金収入調整勘定</b>	<b>△ 358,152,863</b>	<b>△ 428,572,978</b>	<b>70,420,115</b>
期末未収入金	△ 119,641,600	△ 190,061,715	70,420,115
前期末前受金	△ 238,511,263	△ 238,511,263	0
<b>前年度繰越支払資金</b>	<b>2,024,454,562</b>	<b>2,024,454,562</b>	
<b>収入の部合計</b>	<b>6,267,367,993</b>	<b>6,249,358,678</b>	<b>18,009,315</b>

(単位:円)

支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	<b>人件費支出</b>	<b>2,887,887,462</b>	<b>2,928,958,590</b>	<b>△41,071,128</b>
	教員人件費支出	2,246,686,451	2,258,374,863	△ 11,688,412
	職員人件費支出	534,236,019	532,154,187	2,081,832
	役員報酬支出	9,165,000	9,200,000	△ 35,000
	退職金支出	97,799,992	129,229,540	△ 31,429,548
	<b>教育研究経費支出</b>	<b>948,494,079</b>	<b>910,318,532</b>	<b>38,175,547</b>
	消耗品費支出	118,047,498	111,040,702	7,006,796
	光熱水費支出	88,520,953	87,940,399	580,554
	旅費交通費支出	52,355,729	52,363,397	△ 7,668
	車両燃料費支出	2,146,000	2,018,571	127,429
	奨学費支出	272,194,363	257,931,996	14,262,367
	教育実習諸経費支出	18,229,498	19,928,507	△ 1,699,009
	生徒福利費支出	43,488,274	43,488,274	0
	通信運搬費支出	16,847,218	16,847,218	0
	印刷費支出	15,727,961	14,185,748	1,542,213
	施設設備修理費支出	59,816,494	56,148,813	3,667,681
	衛生清掃費支出	23,908,796	23,908,796	0
	損害保険料支出	9,498,709	8,992,282	506,427
	賃借料支出	22,402,523	22,231,728	170,795
	公租公課支出	2,025,000	1,798,020	226,980
	諸会費支出	15,830,634	13,168,149	2,662,485
	会議費支出	332,612	168,009	164,603
	報酬・委託・手数料支出	163,545,118	153,801,469	9,743,649
	行事費支出	3,124,517	3,135,289	△ 10,772
	研究旅費支出	7,679,458	6,585,310	1,094,148
	研究経費支出	11,818,468	13,995,685	△ 2,177,217
	雑費支出	954,256	640,170	314,086
	<b>管理経費支出</b>	<b>213,317,472</b>	<b>206,980,663</b>	<b>6,336,809</b>
	消耗品費支出	7,285,384	6,487,432	797,952
	光熱水費支出	15,726,952	14,084,498	1,642,454
	旅費交通費支出	12,337,864	12,018,740	319,124
	車両燃料費支出	339,750	308,764	30,986
	福利厚生費支出	6,450,606	5,823,776	626,830
	通信運搬費支出	8,579,057	8,187,822	391,235
	印刷費支出	22,470,231	23,423,087	△ 952,856
	施設設備修理費支出	3,170,213	3,490,533	△ 320,320
	衛生清掃費支出	1,820,925	873,028	947,897
	損害保険料支出	1,598,945	1,266,179	332,766
	賃借料支出	10,145,649	9,261,613	884,036
	公租公課支出	2,073,916	1,829,790	244,126
	消費税支出	0	244,000	△ 244,000
	広告費支出	38,412,015	35,383,470	3,028,545
	諸会費支出	3,669,990	3,432,434	237,556
	会議費支出	10,000	4,026	5,974
	交際費支出	7,779,854	8,473,794	△ 693,940
	報酬・委託・手数料支出	71,001,203	72,011,189	△ 1,009,986
	雑費支出	444,918	376,488	68,430
	<b>借入金等利息支出</b>	<b>6,145,377</b>	<b>6,145,377</b>	<b>0</b>
	借入金利息支出	6,145,377	6,145,377	0
	<b>借入金等返済支出</b>	<b>137,184,000</b>	<b>137,184,000</b>	<b>0</b>
	借入金返済支出	137,184,000	137,184,000	0
	<b>施設関係支出</b>	<b>112,702,012</b>	<b>117,250,094</b>	<b>△4,548,082</b>
	建物支出	110,833,012	115,390,683	△ 4,557,671
	構築物支出	1,869,000	1,859,411	9,589
	<b>設備関係支出</b>	<b>67,427,751</b>	<b>55,854,413</b>	<b>11,573,338</b>
	教育研究用機器備品支出	36,789,650	32,858,088	3,931,562
	管理用機器備品支出	6,182,000	682,000	5,500,000
	図書支出	10,678,801	8,577,525	2,101,276
	ソフトウェア支出	750,000	709,500	40,500
	ソフトウェア仮勘定支出	13,027,300	13,027,300	0

(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差 異
資産運用支出	55,000,000	55,000,000	0
減価償却引当特定資産繙入支出	55,000,000	55,000,000	0
その他の支出	150,107,630	142,285,722	7,821,908
前期末未払金支払支出	126,414,036	126,414,036	0
預り金支出	20,006,232	12,057,761	7,948,471
前払金支払支出	3,687,362	3,811,451	△124,089
仮受金支出	0	2,474	△2,474
〔予備費〕	(7,750,000)		
	0		0
資金支出調整勘定	△166,521,790	△180,334,837	13,813,047
期末未払金	△162,343,610	△173,041,657	10,698,047
前期末前払金	△4,178,180	△7,293,180	3,115,000
翌年度繙越支払資金	1,855,624,000	1,869,716,124	△14,092,124
支出の部合計	6,267,367,993	6,249,358,678	18,009,315

## 注 記

予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

教育研究経費支出	(7,750,000)
生徒福利費支出	3,263,626
通信運搬費支出	112,518
衛生清掃費支出	4,299,339
行事費支出	74,517
合 計	(7,750,000)

# 活動区分資金収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目		金 額
教育活動による収入		2,485,619,807
学生生徒等納付金収入	30,590,427	
手数料収入	62,361,346	
特別寄付金収入	36,769,935	
一般寄付金収入	1,250,132,046	
経常費等補助金収入	76,420,975	
付随事業収入	251,526,202	
雑収入	4,193,420,738	
教育活動資金収入計	2,928,958,590	
人件費支出	910,318,532	
資金支出	教育研究経費支出	206,980,663
	管理経費支出	4,046,257,785
	教育活動資金支出計	147,162,953
	差引	9,519,115
調整勘定等		156,682,068
教育活動資金収支差額		156,682,068
科 目		金 額
施設整備等による収入		19,799,461
施設設備寄付金収入	50,193,000	
施設設備補助金収入	70,000	
施設設備売却収入	70,062,461	
施設整備等活動資金収入計		117,250,094
活動による支出		55,854,413
施設関係支出	55,000,000	
設備関係支出	228,104,507	
施設整備等活動資金支出計	△158,042,046	
差引		△5,608,290
調整勘定等		△163,650,336
施設整備等活動資金収支差額		△6,968,268
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		1,350,650
科 目		金 額
その他の活動による収入		2,875,000
受取利息・配当金収入	2,503,089	
過年度修正収入	792,190	
立替金収入	24,000	
仮払金収入	7,544,929	
敷金戻入収入	137,184,000	
その他の活動資金収入計	137,184,000	
借入金等返済支出	6,145,377	
借入金等利息支出	12,057,761	
預り金支出	2,474	
金収支		155,389,612
その他の活動資金支出計		△147,844,683
差引		74,513
調整勘定等		△147,770,170
その他の活動資金収支差額		△154,738,438
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		2,024,454,562
前年度繰越支払資金		1,869,716,124

## 注 記

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおりである。

(単位:円)

	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	232,366,250	232,366,250	0	0
前期末未収入金収入	150,082,716	107,166,716	42,916,000	0
期末未収入金	△190,061,715	△141,786,715	△48,275,000	0
前期末前受金	△238,511,263	△238,511,263	0	0
収入計	△46,124,012	△40,765,012	△5,359,000	0
前期末未払金支払支出	126,414,036	113,137,446	13,276,590	0
前払金支払支出	3,811,451	3,394,700	0	416,751
期末未払金	△173,041,657	△160,014,357	△13,027,300	0
前期末前払金	△7,293,180	△6,801,916	0	△491,264
支出計	△50,109,350	△50,284,127	249,290	△74,513
収入計 - 支出計	3,985,338	9,519,115	△5,608,290	74,513

事業活動収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
<b>学生生徒等納付金</b>		<b>2,453,922,877</b>	<b>2,485,619,807</b>	<b>△ 31,696,930</b>
授業料		1,461,527,870	1,462,693,460	△ 1,165,590
入学金		110,666,800	109,794,310	872,490
実験実習料		26,551,900	26,233,015	318,885
施設設備費		176,440,000	176,006,400	433,600
教育充実費		301,902,000	301,019,700	882,300
学園維持費		8,022,000	8,018,050	3,950
施設等利用給付費		22,199,330	22,031,790	167,540
施設型給付費		345,612,977	378,903,082	△ 33,290,105
その他の納付金		1,000,000	920,000	80,000
<b>手数料</b>		<b>24,643,480</b>	<b>30,590,427</b>	<b>△ 5,946,947</b>
入学検定料		23,048,000	29,209,040	△ 6,161,040
試験料		858,554	745,520	113,034
証明手数料		385,118	417,800	△ 32,682
その他の手数料		351,808	218,067	133,741
<b>寄付金</b>		<b>97,696,888</b>	<b>99,131,281</b>	<b>△ 1,434,393</b>
特別寄付金		64,686,888	62,361,346	2,325,542
一般寄付金		32,610,000	36,769,935	△ 4,159,935
現物寄付		400,000	0	400,000
<b>経常費等補助金</b>		<b>1,240,802,298</b>	<b>1,250,132,046</b>	<b>△ 9,329,748</b>
国庫補助金		232,819,600	223,558,300	9,261,300
地方公共団体補助金		1,007,982,698	1,026,573,746	△ 18,591,048
<b>付随事業収入</b>		<b>87,796,693</b>	<b>76,703,705</b>	<b>11,092,988</b>
補助活動収入		87,161,013	75,935,569	11,225,444
受託事業収入		500,000	675,136	△ 175,136
公開講座収入		135,680	93,000	42,680
<b>雑収入</b>		<b>227,783,962</b>	<b>251,526,202</b>	<b>△ 23,742,240</b>
施設設備利用料		7,667,043	9,618,912	△ 1,951,869
廃品売却収入		29,580	34,800	△ 5,220
退職金財団等交付金		97,781,992	128,964,561	△ 31,182,569
還付消費税		1,217,798	0	1,217,798
2歳児子育て支援事業収入		3,696,000	4,464,277	△ 768,277
その他の雑収入		117,391,549	108,443,652	8,947,897
<b>教育活動収入計</b>		<b>4,132,646,198</b>	<b>4,193,703,468</b>	<b>△ 61,057,270</b>
科 目		予 算	決 算	差 異
<b>人件費</b>		<b>2,895,836,919</b>	<b>2,935,822,327</b>	<b>△ 39,985,408</b>
教員人件費		2,246,686,451	2,258,374,863	△ 11,688,412
職員人件費		534,236,019	532,154,187	2,081,832
役員報酬		9,165,000	9,200,000	△ 35,000
退職給与引当金繰入額		34,207,457	37,652,716	△ 3,445,259
退職金		71,541,992	98,440,561	△ 26,898,569
<b>教育研究経費</b>		<b>1,292,167,265</b>	<b>1,261,669,650</b>	<b>30,497,615</b>
消耗品費		118,047,498	111,040,702	7,006,796
光熱水費		88,520,953	87,940,399	580,554
旅費交通費		52,355,729	52,363,397	△ 7,668
車両燃料費		2,146,000	2,018,571	127,429
奨学費		272,194,363	257,931,996	14,262,367
教育実習諸経費		18,229,498	19,928,507	△ 1,699,009
生徒福利費		43,488,274	43,488,274	0
通信運搬費		16,847,218	16,847,218	0
印刷費		15,727,961	14,185,748	1,542,213
施設設備修理費		59,816,494	56,148,813	3,667,681
衛生清掃費		23,908,796	23,908,796	0
損害保険料		9,498,709	8,992,282	506,427
賃借料		22,402,523	22,231,728	170,795
公租公課		2,025,000	1,798,020	226,980
諸会費		15,830,634	13,168,149	2,662,485
会議費		332,612	168,009	164,603
報酬・委託・手数料		163,545,118	153,801,469	9,743,649
行事費		3,124,517	3,135,289	△ 10,772
研究旅費		7,679,458	6,585,310	1,094,148
研究経費		11,818,468	13,995,685	△ 2,177,217
雑費		954,256	640,170	314,086
減価償却額		343,673,186	351,351,118	△ 7,677,932

(単位:円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教 育 活 動 支 出 の 部		管理経費	267,902,405	260,755,409	7,146,996	
		消耗品費	7,285,384	6,487,432	797,952	
		光熱水費	15,726,952	14,084,498	1,642,454	
		旅費交通費	12,337,864	12,018,740	319,124	
		車両燃料費	339,750	308,764	30,986	
		福利厚生費	6,450,606	5,823,776	626,830	
		通信運搬費	8,579,057	8,187,822	391,235	
		印刷費	22,470,231	23,423,087	△ 952,856	
		施設設備修理費	3,170,213	3,490,533	△ 320,320	
		衛生清掃費	1,820,925	873,028	947,897	
		損害保険料	1,598,945	1,266,179	332,766	
		賃借料	10,145,649	9,261,613	884,036	
		公租公課	2,073,916	1,829,790	244,126	
		消費税	0	244,000	△ 244,000	
		広告費	38,412,015	35,383,470	3,028,545	
		諸会費	3,669,990	3,432,434	237,556	
		会議費	10,000	4,026	5,974	
		交際費	7,779,854	8,473,794	△ 693,940	
		報酬・委託・手数料	71,001,203	72,011,189	△ 1,009,986	
		雑費	444,918	376,488	68,430	
		減価償却額	54,584,933	53,774,746	810,187	
		徴収不能額等	0	4,260,800	△ 4,260,800	
		徴収不能引当金繰入額	0	4,260,800	△ 4,260,800	
		教育活動支出計	4,455,906,589	4,462,508,186	△ 6,601,597	
		教育活動収支差額	△ 323,260,391	△ 268,804,718	△ 54,455,673	
教 育 活 動 外 収 支 の 部		科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	872,689	1,350,650	△ 477,961	
		その他の受取利息・配当金	872,689	1,350,650	△ 477,961	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	872,689	1,350,650	△ 477,961	
事 業 活 動 外 支 出 の 部		科 目	予 算	決 算	差 異	
		借入金等利息	6,145,377	6,145,377	0	
		借入金利息	6,145,377	6,145,377	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	6,145,377	6,145,377	0	
		教育活動外収支差額	△ 5,272,688	△ 4,794,727	△ 477,961	
特 別 収 支 の 部		科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	22,000	22,000	0	
		設備売却差額	22,000	22,000	0	
		その他の特別収入	67,649,000	73,422,969	△ 5,773,969	
		施設設備寄付金	11,531,000	19,799,461	△ 8,268,461	
		現物寄付	550,000	555,508	△ 5,508	
		施設設備補助金	52,693,000	50,193,000	2,500,000	
		過年度修正額	2,875,000	2,875,000	0	
		特別収入計	67,671,000	73,444,969	△ 5,773,969	
		科 目	予 算	決 算	差 異	
事 業 活 動 支 出 の 部		資産処分差額	21,837,714	20,687,658	1,150,056	
		施設処分差額	9,288,680	9,623,548	△ 334,868	
		設備処分差額	12,549,034	11,064,110	1,484,924	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	21,837,714	20,687,658	1,150,056	
		特別収支差額	45,833,286	52,757,311	△ 6,924,025	
(予備費)			(7,750,000)		0	
基本金組入前当年度収支差額			△ 282,699,793	△ 220,842,134	△ 61,857,659	
基本金組入額合計			△ 228,050,712	△ 207,781,150	△ 20,269,562	
当年度収支差額			△ 510,750,505	△ 428,623,284	△ 82,127,221	
前年度繰越収支差額			△ 6,577,195,798	△ 6,577,195,798	0	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△ 7,087,946,303	△ 7,005,819,082	△ 82,127,221	
(参考)						
事業活動収入計			4,201,189,887	4,268,499,087	△ 67,309,200	
事業活動支出計			4,483,889,680	4,489,341,221	△ 5,451,541	

## 注 記

予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

教育研究経費	(7,750,000)
生徒福利費	3,263,626
通信運搬費	112,518
衛生清掃費	4,299,339
行事費	74,517
合 計	(7,750,000)

# 貸 借 対 照 表

令和 7年 3月 31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
<b>固定資産</b>	<b>13,675,951,670</b>	<b>13,873,177,177</b>	<b>△ 197,225,507</b>
有形固定資産	12,677,480,964	12,938,944,205	△ 261,463,241
土地	2,607,760,605	2,607,760,605	0
建物	8,269,546,135	8,428,025,597	△ 158,479,462
構築物	454,906,300	496,637,130	△ 41,730,830
教育研究用機器備品	512,575,222	563,330,888	△ 50,755,666
管理用機器備品	33,291,590	38,701,787	△ 5,410,197
図書	779,020,605	777,424,415	1,596,190
車両	20,380,507	27,063,783	△ 6,683,276
<b>特定資産</b>	<b>969,000,000</b>	<b>914,000,000</b>	<b>55,000,000</b>
設備資金引当特定資産	152,000,000	152,000,000	0
減価償却引当特定資産	817,000,000	762,000,000	55,000,000
<b>その他の固定資産</b>	<b>29,470,706</b>	<b>20,232,972</b>	<b>9,237,734</b>
電話加入権	2,856,908	2,856,908	0
施設利用権	77,760	86,400	△ 8,640
ソフトウェア	7,283,528	11,040,454	△ 3,756,926
ソフトウェア仮勘定	13,027,300	0	13,027,300
有価証券	5,619,410	5,619,410	0
敷金	150,000	174,000	△ 24,000
預託金	355,800	355,800	0
出資金	100,000	100,000	0
<b>流動資産</b>	<b>2,122,598,502</b>	<b>2,248,113,019</b>	<b>△ 125,514,517</b>
現金預金	1,869,716,124	2,024,454,562	△ 154,738,438
未収入金	186,910,358	151,192,159	35,718,199
貯蔵品	127,050	274,120	△ 147,070
立替金	46,135,703	48,638,792	△ 2,503,089
仮払金	1,612,389	2,404,579	△ 792,190
前払金	10,046,451	13,528,180	△ 3,481,729
販売用品	8,050,427	7,620,627	429,800
<b>資産の部合計</b>	<b>15,798,550,172</b>	<b>16,121,290,196</b>	<b>△ 322,740,024</b>
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
<b>固定負債</b>	<b>1,908,912,619</b>	<b>2,034,468,202</b>	<b>△ 125,555,583</b>
長期借入金	1,408,477,000	1,537,661,000	△ 129,184,000
長期未払金	4,079,350	7,314,670	△ 3,235,320
退職給与引当金	496,356,269	489,492,532	6,863,737
<b>流動負債</b>	<b>683,537,973</b>	<b>659,880,280</b>	<b>23,657,693</b>
短期借入金	129,184,000	137,184,000	△ 8,000,000
未払金	176,276,977	126,414,036	49,862,941
前受金	232,366,250	238,511,263	△ 6,145,013
預り金	145,698,135	157,755,896	△ 12,057,761
仮受金	12,611	15,085	△ 2,474
<b>負債の部合計</b>	<b>2,592,450,592</b>	<b>2,694,348,482</b>	<b>△ 101,897,890</b>
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
<b>基本 金</b>	<b>20,211,918,662</b>	<b>20,004,137,512</b>	<b>207,781,150</b>
第1号基本 金	19,908,918,662	19,701,137,512	207,781,150
第4号基本 金	303,000,000	303,000,000	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>△ 7,005,819,082</b>	<b>△ 6,577,195,798</b>	<b>△ 428,623,284</b>
翌年度繰越収支差額	△ 7,005,819,082	△ 6,577,195,798	△ 428,623,284
<b>純資産の部合計</b>	<b>13,206,099,580</b>	<b>13,426,941,714</b>	<b>△ 220,842,134</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>15,798,550,172</b>	<b>16,121,290,196</b>	<b>△ 322,740,024</b>

## 財産目録

令和 7年 3月31日

学校法人聖カタリナ学園  
(単位:円)

1. 資産の部	
科 目	金額
<b>固定資産</b>	<b>13,675,951,670</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>12,677,480,964</b>
土地	152,413.74 m <sup>2</sup>
建物	84,706.68 m <sup>2</sup>
構築物	510 点
教育研究用機器備品	8,217 点
管理用機器備品	492 点
図書	237,241 冊
車両	27 台
<b>特定資産</b>	<b>969,000,000</b>
設備資金引当特定資産	152,000,000
減価償却引当特定資産	817,000,000
<b>その他の固定資産</b>	<b>29,470,706</b>
電話加入権	2,856,908
施設利用権	77,760
ソフトウェア	7,283,528
ソフトウェア仮勘定	13,027,300
有価証券	5,619,410
敷金	150,000
預託金	355,800
出資金	100,000
<b>流動資産</b>	<b>2,122,598,502</b>
現金預金	1,869,716,124
未収入金	186,910,358
貯蔵品	127,050
立替金	46,135,703
仮払金	1,612,389
前払金	10,046,451
販売用品	8,050,427
<b>資産の部合計</b>	<b>15,798,550,172</b>

2. 負債の部	
科 目	金額
<b>固定負債</b>	<b>1,908,912,619</b>
長期借入金	1,408,477,000
長期未払金	4,079,350
退職給与引当金	496,356,269
<b>流動負債</b>	<b>683,537,973</b>
短期借入金	129,184,000
未払金	176,276,977
前受金	232,366,250
預り金	145,698,135
仮受金	12,611
<b>負債の部合計</b>	<b>2,592,450,592</b>

3. 差引正味財産	13,206,099,580
-----------	----------------

上記は財産目録に相違ない。

学校法人聖カタリナ学園  
理事長 中田婦美子

# 監 事 監 査 報 告 書

令和 7 年 5 月 24 日

学校法人聖カタリナ学園  
理 事 会 御 中  
(評議員会 御 中)

学校法人聖カタリナ学園

監 事 森 本 三 義  
監 事 見 久 秀 行

私たちは、旧私立学校法(令和 5 年 5 月 8 日施行)第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人聖カタリナ学園旧寄附行為(令和 6 年 4 月 1 日施行)第 11 条第 3 項の規定に従い、学校法人聖カタリナ学園の令和 6 年度(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続を実施しました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは旧寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以 上